2025

履修ガイド

応用生命科学部 応用生命科学科 生命産業ビジネス学科 生命産業創造学科



目 次

応用生命科学部学年暦	·· 1
履修の手引	
· 学習にあたって ····································	3
・授業科目の履修	6
・食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程について	13
教職課程について	16
諸 規 程	
·新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程	19
・新潟薬科大学応用生命科学部生命産業ビジネス学科授業科目履修規程 …	52
·新潟薬科大学応用生命科学部受験心得	71
・新潟薬科大学応用生命科学部GPA制度及びCAP制に関する取扱要項 …	72
· 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程履修規程 ······	74
資 料	
	0.0
・履修登録について	83
教職課程について	87
・シームレス教育プログラム	88
・カリキュラムツリー	97

2025年度 応用生命科学部学年暦

#:行事日、◎:定期試験、○:追再試験、_:振替授業日、♪:夏期集中講義、※:祝日、○内の数字:学年、★履修登録期間、●卒業論文審査関係日程、●内の数字:各曜日の授業週

【前其	A]								【後 其	明】							
	B	月	火	水	木	金	±	行事予定 1-14 17時:前期科目履修登録		В	月	火	水	木	金	±	行事予定 2:防災訓練
			★ 1	★2	*	3 ★	4 #	2-3: 新入生オリエンテーション 5: 入学式					*1 0	# ★ 2	3 2	4	
4	6	★ 7	★ 8	★ 9			11 D 1	8:前期授業開始 12:新入生歓迎会	10	5	6 2	★ 7	★8 2	★ 9	10	#11	17-9 17時:後期科目履修登録取消期間 10:休講 11-12:新薬祭
	13	★ 14	15 2	16 2			18 29 1	17-21 17時:前期科目履修登録取消期間		#12	*13	14 6	15 6	16 3	17 3	18	13:スポーツの日 18:総合型選抜試験(前期)
月	20	★ 21	22 3	23 3			25 3 2	5	月	19	20 3	21 4	22 4	23 4	24 4	25	
	27	28 6	*29	30 4				29: 昭和の日		26	27 4	28 6	29 6	30 ⑤	31 6		
					,	1 2	² •	3:憲法記念日 3 4:みどりの日								1	
5	*4	*5	*6	7 6	LE C		9 () 3	5.		2	*3	4 <u>(月)</u> 6	5 G	6	⁷	8	3:文化の日 4(火):月曜授業
	11	12 6	13 6	14 ③			16 5 1		11	9	10 G	11 G	12 7	13 7	14 6	15	15: 学校推薦型選抜試験、特別選抜試験
月	18	19 G	20 G	21 7			23 G 2		月	16	17 6	18 7	19 ③	20 3	21 3	22	
	25	26 7	27 7	28 3			30 7 3			*23	*24	25 3	26 <u>(月)</u> ❸	27 9	28 9	29	23: 勤労感謝の日 24: 振替休日 26(水): 月曜授業
	1	2 3	© ω	4 9			#6 3	6:②コース配属説明会		30							
6	8	9	10 9	11 ()			13 9 #1	14: 開学記念日			1 9	9	3 9	4 ©	5 ©	6	
	15	16 ()	17 ©	18 ①			20 (10) 2		12	7	8 0	9 0	10 ()	11 ①	12 ①	13	
月	22	23 ①	24 ①	25 1			27 D 2			14	15 ①	16 (1)	17 (1)	18 1	19 19	20	20: 学校推薦型選抜試験、総合型選抜試験 23:12月授業終了
	29	30 1							月	21	22 1 2	23 D	24	25	26	27	23-12月夜来終] 24-1/4: 大学年末年始休業
			1 1	®	•	3 D	4 19	11:③オーブンラボ		28	29	30	31				
7	6	7 ®	8 ®	9 ()	1		11 18 1							*1	2	3	1:元日 5:1月授業再開
	13	★14 ()	★15 @	★16 ()			18 10 1)	1	4	5 ®	6 B	7 10	8 B	9 ®	10	12:成人の日
月	20	*21	22 (b	23 <u>(月)</u> ⑮			25 (b) 2	21: 海の日 23(水): 月曜授業 28: 補講日		11	*12	13 ()	14 B	15 <u>(金)</u>	16	17	12. (永人の日 15(木): 金曜授業 16: 休講 17-18: 大学入学共通テスト(大学内入構禁止)
	27	28	⊚29	⊚30	©:	31		29-8/6: 前期定期試験	月	18	19 (b	20 ()	21 ()	22 (23 (24	27:休講
						()1	7/29-6: 前期定期試験 7-9/25: (履修者のみ) 夏期集中講義		25	26 (b	27	28 ()	29 (b	30	31	27: 一般選抜試験前期 29: 後期授業終了 30: 補講日 2-9: 後期定期試験期間
8	3	⊚4	⊚5	⊚6	١	7]	8	9-19:大学夏季休業	2	1	⊚2	⊚3	⊚4	⊚5	⊚6	7	2-5: 後期定期試験期間 11: 建国記念の日
S	10	*11	12	13	1	4	15 1	11:山の日		8	⊚9	10	*11	12	13	14	17:後期定期試験成績開示
月	17	18	19	♪20) 1/2	21 🎝:	22 2	25. 定期試験成輔開示	月	15	16	#17	18	O19	O20	21	17. 後州正列政縣以稅開州 17-18: 追再試験手続き期間 19-25: 追再試験期間 23: 天皇誕生日
	24	♪#25	♪26	♪27	02	28 0:	29 3	(43) 上州弘明代明 (143) 上州弘明 (143) 上州弘明 (143) 上州弘明 (143) 上海南武岭 手続き期間 (143) 上海南武岭 期間 (143) 上海南武岭 期間		22	*23	O24	O● 25	●26	●27	28	25-3/2: ④卒業論文口頭発表会 3月:豪州·大学研修事業(予定)
	31							8/7-25: (履修者のみ) 夏期集中講義		1	●2	●3	4	5	●6	7	3月: 崇州·大字研修學業(予定) 3: ④卒業論文口頭発表会(予備日) 4:一般選抜試験後期 6: ④卒業論文最終稱提出期限 11: 後期最終成績開示
		O1	O2	O3	С)4 C)5	8/7-25: (度移省のみ) 夏朔集中請義 8/28-5: 追再試験期間	3	8	9	10	#11	12	#13	14	19: 卒業式
9	7	₽8	64	♪10	♪ 1	11 1	12 1	15: 敬老の日		15	16	17	18	#19	*20	21	20: 春分の日
	14	*15	♪16	♪ 17	ا ر	8 1	19 2		月	22	23	24	25	26	27	28	
月	21	♪ #22	*23	★♪ 24			26 D 2	22. 別分配 22. 税分の日 22. 税分の日 24-10/2 17時 後期科目履修登録 26. 後期授業開始		29	30	31					
	28	★29	★ 30														

※薬学部開講科目は薬学部の学年暦に則り、開講されます。薬学部開講科目履修者は必ず薬学部の学年暦を確認の上、履修登録を申請してください。

履修の手引

学習にあたって

学年と学期

応用生命科学部では、1学年を前期(4月~9月)、後期(10月~3月)に分ける学期区分に加え、第1学年から第4学年にわたる8つの学期を、第1学期、第2学期、第3学期……第8学期と表します(学則第15条、学則第16条、履修規程第2条)。

なお、前期・後期の授業日数を調整するため、前期の終期及び後期の始期を変更する場合があります。学年暦や時間割、ポータルサイト等をしっかりと確認してください。

授 業 時 間

授業は1コマ90分で、次のとおり行います。

※実施するキャンパスによって時間が異なりますので、注意してください。

	新津キャンパス	新津駅東キャンパス			
第1時限	9:00~10:30	8:45~10:15			
第2時限	10:40~12:10	10:25~11:55			
第3時限	13:10-	~14:40			
第4時限	14:50~16:20				
第5時限	16:30~18:00				

教 室

授業が実施される教室・実験室等は、教室番号で 表示されています(時間割、実習系科目・集中講義 科目日程表)。教室番号は学生便覧の「校舎配置図 及び教室等案内」を参照してください。

授業科目の区分

本学の授業科目には、次のような区分があります。

1. 履修方法によるもの

必修科目…必ず履修しなければならない科目。 必修科目はクラス指定がされていて、履修しなけ ればならない年次、時期、曜日、時限等が指定さ れています。

選択科目…一定の科目群の中から自由に選択して履修する科目。

自由科目…卒業要件単位数に含まれない科目。 一部、教員免許など特定の資格取得のために必要 な科目。

2. 授業実施時期によるもの

前期科目…前期に授業が行われる科目。

後期科目…後期に授業が行われる科目。

通年科目…一年を通じて授業が行われる科目。

集中講義科目…特別に一定の時期に集中して授業が行われる科目。実施時期は科目により異なる。 その他科目…授業の開始後、終了までに年度をまたいで実施される科目や、複数年かけて履修す

単 位

る科目など。

単位は修学の量を示す基準となるものです。大学における修学は、授業と自主的な学習から成り立ちます。したがって、平素の授業を中心にして、自ら学習する姿勢を養うことが必要です。授業科目について定められた時間数の学習をし、試験などで合格と判定されることにより、単位を修得することになります。

1単位修得に必要な時間数は、授業時間と自学自習時間を合わせて45時間と定められています。さらに、1単位に必要な授業時間は、講義・演習科目では15時間から30時間、実験・実習・実技科目では30時間から45時間と定められています(学則第33条)

授業計画(シラバス)

「授業計画(シラバス)」は、開講される科目の次の各項目について要点をまとめたものです。サイバーキャンパス(Cyber-Campus)やシラバス検索システムで確認することができます。

- ·授業担当教員
- ・授業概要
- · 実務経験
- · 到達目標
- ・授業計画(各回の授業項目、授業内容、授業方式、 授業外学習(予習・復習)、担当教員)
- · 教科書、参考書
- · 成績評価方法、基準
- ・課題に対するフィードバック方法
- ・連絡先 (オフィスアワー、研究室、メールアドレス) 授業開始前に熟読し、授業開始以降も必要に応じて参照してください。

予習・復習の励行

授業の内容を効率的に理解するためには、予習・ 復習を行うことが大切です。大学の授業は予習・復 習などの自学自習が前提となっており、授業計画 (シラバス)の各科目に、その授業で予習・復習す べき事項等(授業外学習(予習・復習))が指定さ れています。授業を受ける前に確認して予習をし、 授業後には、理解できなかった内容や疑問点につい て自分で調べたり、授業担当教員に質問するなどの 復習に努めてください。

授業中、授業直後はもちろん、それ以外の時間でも遠慮することなく授業担当教員に質問にきてください。質問可能時間はシラバスのオフィスアワーの項を参照してください。

出席の励行

授業は原則として必ず出席しなければなりません。授業担当教員は、各自の工夫で教科書とは違った授業の進め方や、より詳しい説明をすることが多くあります。教員の説明をよく聞き、自身の確実な知識とするように取り組む姿勢が望まれます。各授業での出席確認は、その授業担当教員が行うのでその指示に従ってください。

出欠管理システム

授業を受講する際に、講義室入口に設置している 出席管理端末(以下「端末」)に学生証をかざし、 読込みを行うことで当該授業への出席が登録されま す。出欠管理システムに関して、以下の注意事項を よく確認してください。

- 1. 出席を登録できる時間は、授業開始10分前~授業開始30分後(40分間)までであり、端末に「受付中」と表示されている時間のみとなります。この時間以外は登録できません。
 - 【例】 新津キャンパス、1限の場合、8:50~9:30まで。
- 2. 学生証を忘れた場合や授業に出席していたが登録を失念した場合は、**当該授業開始前または終了 直後、速やかに**当該授業担当教員にその旨申し出てください。

後日申し出があった場合、当該授業の出席が確認できないことがあるので、出席していたとしても出席が認められない可能性があります。したがって必ず授業前後に当該授業担当教員に伝えるようお願いします。

- 3. 集中講義など、同じ授業を連続コマで受講する 場合は、時限ごとに出席を登録してください。
 - 【例】 3~5限で同じ講義を受講する場合、3限・ 4限・5限それぞれ登録する。
- 4. 授業科目によっては、独自の方法(小テスト、リアクションペーパー等)で出席を確認する場合があります。その場合は、当該授業担当教員の指

示に従ってください。

5. 端末の設置場所は次の講義室です。端末を設置 していない教室で授業を実施する場合は登録不要 です(当該授業担当教員が別の方法で出席を確認 します)。

【端末設置講義室】

(新津キャンパス) B101~B105、B201~B205、 B301~B303、CB201、HB101、 J201

(新津駅東キャンパス) NE301~NE304、NE401、 NE402

(西新潟中央病院キャンパス) 203、204

欠席の届出

欠席した場合は、速やかに欠席の事由を証明する 書類を添付し、「欠席届」(事務部設置)を提出して ください。忌引き及び届出により大学が適当と認め た場合は、欠席に算入しません (履修規程第3条)。

区分	事	由	証明書類	適用期間
	忌引き		・ 会葬礼状	事由発生日を1日目と して、連続する以下 の日数 (休日を含む) 父母の喪:7日以内 祖父母・兄弟姉妹の 喪:5日以内 その他親族の喪:1 日以内
公認	行規則に	安全法施 示されて 症に罹患	*	目談>感染症)を参照 Eによって、証明書類・) ます。
欠席・追試験受験に該当する欠席	災害によた場合	り被災し	・被災証明書など公的る証明書が発行する。 ※取得に時間間といい。 といい。	事由発生から相当の 期間
	裁判員制場合	度による	・裁判員の職務 に従事した期間 に関する証明書	裁判所の発行する裁 判員の職務に従事し た期間
席	公共交通 れによる	機関の遅 場合	・遅延証明書	事由発生日
	会参加 ※全国大 に北信越 じめとし	などの大 :会ならび :大会をは たブロッ 上に限る。	・大会要項、パ ンフレットなど 大会出場を確認 できる書類	大会に出場する期間 (試合日ほかに前後 日の移動を含む)
	, , , .	大学がや い事情と た場合	その事由を証明 できる書類	大学が認めた期間

例: 寝坊 体調不良 公共交通機関以外 での遅れ 就職活動 ボランティア活動

受講マナー

授業には教員も学生も真剣に取り組んでいます。 授業の妨げになる私語、遅刻、授業中の入退室など の行為は厳に慎んでください。また、教室内では携 帯電話などの電源は必ず切っておいてください。

休講

授業担当教員がやむを得ず授業を実施できないことがあります。これを休講といいます。休講の場合は原則として予めポータルサイトに掲示します。連絡なしに授業担当教員が教室に現れないときは、授業開始時間から30分を経過した後「自然休講」となります。この場合、自然休講となった時点で、代表者を決めて事務部教務課まで連絡してください。また、同一の授業科目で休講回数が多いなどの問題があれば、教務課まで申し出てください。

授業の振替と補講

授業担当教員の都合により、他の授業科目と授業 時間を振り替えることがあります。また、授業の進 度の遅れや休講を補う措置として補講を実施するこ とがあります。いずれもポータルサイトに掲示しま す。

授業科目の履修

履修計画

大学の授業科目は、バラバラに独立して作られて いるのではなく、相互に関連し合うように組み立て られています(カリキュラムツリー、授業科目履修 規程別表)。低学年から高学年へと授業を順序良く 履修することによって、知識・技能・態度を積み上 げていくことになります。卒業要件(新潟薬科大学 学則第44条)となっている単位数は必要最低限の条 件です。この条件の充足を目標として履修するより、 少し余裕のある履修計画をたてておくことも大切で す。また、大学4年間で何を学び、卒業後それをど う生かすのか、各自の適性や希望する進路を十分考 えて履修計画を立てることが大切です。多くの授業 科目の中から自分の興味を満たすとともに、幅広い 教養とバランス感覚を培うような授業科目の修得が 期待されます。選択科目は将来進みたい分野を考え て履修するといいでしょう。

履修登録

履修登録の方式や締切日 (p.83) は、年度初めのオリエンテーションやポータルサイトなどを通じてあらかじめ指定されます。申請期限後の履修科目変更は、原則として認められません。一部の選択科目には定員が定められており、申請数が定員を超えた際には履修が認められない場合があります。

なお、新入生の履修登録単位数の上限はCAP制により49単位として定められています。入学年次以降の履修登録単位数の上限は前年度のGPAに基づき定められています。各履修登録単位数の上限を超えての履修登録はできません。履修登録単位数の上限に注意して、履修登録を行ってください。

(1) 必修科目の履修登録

通常は履修申請の必要はありません。自動的に 登録されます。履修登録は取消できません。

在籍学年及びそれより低学年で未修得であった 必修科目は必ず履修しなければなりません。進級 した者について、前年度までの未修得必修科目(再 履修科目)と在籍学年の必修科目が時間割で重複 したときに、再履修科目について前年度の出席が 3分の2を超えている場合で科目担当教員が適当 と認めたときに限り、出席を科目担当教員の指示 する別の方法に代えることができます(履修規程 第7条第2項)。この場合、別途申請が必要です。

(2) 選択科目の履修登録

選択科目は各自の興味や目的に応じて選択履修 します。卒業までに修得しなければならない科目 を考えて、その基礎となる授業科目を選択履修し ておくことも有効です。

通年開講の科目は、前期の履修登録期間に行い、 後期に入ってからの取消はできません。また、前 期に配当されている夏季集中講義科目は前期履修 登録時に登録しなければなりませんので、注意し てください。

(3) 留年した学年次における履修登録

進級できなかった者は、在籍学年に配当されて いる必修科目を優先して再履修しなければなりま せん。その上で、時間割が重複しない場合に限り、 次学年の授業科目を履修することができます(た だし、応用生命科学科の場合、コース別実験を除 く)。この場合、どの授業科目についても履修登 録が必要です (履修規程第9条第2項)。在籍年 次に修得できなかった必修科目については必ず時 間割に定められた曜日・時限において再履修(授 業科目を再び履修しなおし、単位を修得すること) して単位を修得しなければいけません。この場合、 履修申請の必要はありません。ただし、在学年次 以前の学年に修得できなかった必修科目(過年度 に履修した未修得科目)を時間割に定められた曜 日・時限において再履修する場合には履修申請が 必要です。進級することを第一に考え、在籍年次 の必修科目履修を優先した履修計画を立ててくだ さいっ

GPA制度とCAP制

学生が授業科目を履修するにあたっては、グレード・ポイント・アベレージ(成績平均値 = GPA)制度に基づく履修登録単位数の上限設定(CAP制)により行うこととしています。

(GPA制度)

GPA制度は、透明性の高い成績管理と履修指導、 学生の責任のある履修行為の促進、学習意欲の向上 を目的とし、次のとおり取り扱います。

(1) 各授業科目の成績評価に基づき、次の表のとお りグレード・ポイント(以下「GP」という。)を 付します。

区分	評価	評点	GP	評価基準
	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、特に優れている
合格	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、優れている
百 佰	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成 している
	C (可)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低 限達成している
	D (不可)	60点未満		授業科目の到達目標を達成 していない
不合格	X(追欠)	欠	0.0	天災、疾病などやむを得な い事情により定期試験欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試 験受験資格なし
認定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等 で修得した科目を本学部の 単位として認定

(2) GPAは、履修した授業科目の単位数にGPを乗 じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出し ます。具体的な算出方法は次のとおりです。

GPAの算出方法

秀の修得単位数×4.0+優の修得単位数×3.0+良の修得単位数×2.0+可の修得単位数×1.0

総履修登録単位数

- (3) GPA は小数第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までの数値とします。
- (4) 不合格科目 (D評価) を再履修した場合、再履 修後の評価をGPA 算定の基礎とします。
- (5) GPAの対象科目は、当該年度において履修登録したすべての授業科目とします。ただし、次に掲げる科目は、当該年度のGPAの対象科目から除きます。
 - ・履修登録取消期間に、履修取消申請書により申請があった科目
 - ・履修取消期間を経過した後、休学、病気欠席等のやむを得ない事由で、学生から履修取消申請 書により申請があった科目で、応用生命科学部 教務委員会が許可した科目

(CAP制)

CAP制は、単位制度を実質化(1単位当たり必要な45時間の学修時間を確保)し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的とし、各年度の履修登録単位数の上限を設けるものです。各年度の履修登録単位数の上限は、2020年度以降の入学生は49単位、2019年度までの入学生は、応用生命科

学科49単位、生命産業創造学科48単位としますが、 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、先述のGPAに基づき単位数の上限を別途 定めて履修登録を認める場合があります。直前年度 のGPAごとの履修登録単位数の上限設定について は、次のとおり取り扱います。

【2020年度以降の入学生】

直前の年のGPAが3.0以上の者 49単位 直前の年のGPAが1.5以上3.0未満の者 48単位 直前の年のGPAが1.5未満の者 47単位

【2019年度までの入学生】

(応用生命科学科)

直前の年のGPAが3.0以上の者 59単位 直前の年のGPAが2.5以上3.0未満の者 57単位 直前の年のGPAが1.5以上2.5未満の者 53単位 直前の年のGPAが1.5未満の者 49単位 (生命産業創造学科)

直前の年のGPA が3.0以上の者 58単位 直前の年のGPA が2.5以上3.0未満の者 56単位 直前の年のGPA が1.5以上2.5未満の者 52単位 直前の年のGPA が1.5未満の者 48単位

なお、CAP制には次の授業科目は含めません。

【2020年度以降の入学生】

- ・履修登録を取り消した科目
- · 夏期集中講義科目
- ・キャリア形成実践演習

【2019年度までの入学生】

- ・履修登録を取り消した科目
- · 夏期集中講義科目
- ・卒業要件単位に算入しない自由科目
- ·卒業研究

試験

単位認定のために行う試験は定期試験、追試験、 再試験及びその他の試験の4種類があります(履修 規程第4条)。

(1) **定期試験**:学期末に成績評価のために行う試験です。学年暦で予め設定された期間に実施されます。受験資格は授業時間の3分の2以上出席していることが必要です。ただし、定められた期限までに所定の学費を納入していない場合は、受験資

格を与えません。

- (2) **追試験**: 天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対して実施する試験です。所定の期日までに事由を証明する書類を添えて申請する必要があり、その上で科目担当者が適当と認めたときに実施されます。最高点は90点とします。
- (3) 再試験:科目担当者が必要と認めたときに、定期試験不合格者に対して実施される試験です。最高点は60点とします。
- (4) **その他の試験**:科目担当者が科目指導や成績評価のために必要と認めたときに実施されることがあります。

定期試験等を欠席した場合は、当該試験日から1週間以内に試験欠席届を提出しなければなりません。追試験及び再試験を受験するには、所定の追再試験手続き期間中に手数料(追試験1,000円、再試験2,000円)を添えて、受験届を提出しなければなりません。やむを得ない事情を除き、期日を過ぎた場合は受付けず、受験資格は与えられません。

試験の実施計画など試験に必要な事項はすべて ポータルサイトで掲示します。また、受験の際の注 意事項を別途指示するのでそれに従ってください。

受験上の遵守事項

受験に際しては次の事項を十分留意の上、受験しなければなりません (新潟薬科大学応用生命科学部 受験心得)。

- (1) 試験開始時刻までに指定された席に着席すること。ただし、遅刻者については試験開始時刻から 30分以内に着席すれば受験を認める。
- (2) 試験中は、筆記用具以外の携帯品は試験監督者が指示する場所に置くこと。
- (3) 学生証を机上に置くこと。学生証又は仮学生証のない学生は受験できない。学生証を忘れた者は 試験開始前に仮学生証の交付を受けること。有効 期限は1日で、再交付はしない。
- (4) 試験開始時刻から30分間及び終了時刻前の5分間は退席しないこと。
- (5) 前第1号から第4号にかかわらず、特別に定める事項がある場合には、それに従うこと。
- (6) その他試験場内においては試験監督者の指示に 従うこと。
- (7) 試験中に不正とみなされる行為(以下「不正行為等」という。)をしないこと。

試験における不正行為等とは、以下の号に該当する行為をいいます。

- (1) 机上や見える位置に事前に書き込みをする、又はそれに類する物品を故意に配置し、それを閲覧する。
- (2) 許可されていない物品を机上に置く、身につける又は使用する。
- (3) 解答開始の指示の前に、問題を閲覧する又は解答を始める。
- (4) 他人の学生証を提示する又は他人の氏名を解答 用紙に記入する。
- (5) 他の受験者と会話する又は解答を教える。
- (6) 他の受験者の解答用紙等を見る又は解答を教わる。
- (7) 解答用紙を提出する前に、問題用紙を場外へと持ち出す。
- (8) 解答用紙を試験監督者に提出せずに、場外へと持ち出す。
- (9) 解答終了の指示があったにもかかわらず、解答を続ける。
- (10) 試験監督者等の制止にかかわらず、他人への迷惑行為を続ける。
- (11) その他、公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をする。

不正行為等があった場合、その試験が実施された 学期中に成績認定がされる全ての科目について 0 点 扱いとなり、当該学期中の追試験及び再試験の受験 資格もなくなります。

学 業 成 績

学業成績の評価は平素の勉学状況、定期試験などの試験成績、レポート評価、プレゼンテーション能力評価などを総合して行います。それぞれの評価への重さはその授業科目によって異なりますので、シラバスの成績評価方法を確認してください。また、成績評価基準は履修規程第6条第1項を良く確認してください。

なお、成績通知書に「**否**」と表示されている場合は出席数不足等によって評価されないので、再履修することが必要になります。また、試験を欠席した場合は「**欠**」と表示されます。いずれも単位は認定されません。

成績評価に対する異議申し立て制度

成績評価に対する異議申し立て制度は、成績評価の客観性及び厳格性を確保するため、設けています。

自身の成績評価に疑義がある場合は、以下の手順に 従って、確認、異議申し立てを行うことができます。

- 1 異議申し立ての対象となるもの
- (1) 成績の誤記入等、科目担当教員の誤りであると思われる。
- (2) シラバス等により周知されている成績評価の方法及び基準に照らして、疑義がある。
- (3) その他(具体的な理由がある)
- ※以下のような理由は受け付けられません。
 - ×科目担当教員に救済措置を求める嘆願。

(この単位がないと進級(卒業)できません。な んとかしてください。)

- ×他の学生との対比上の不満を訴えるもの。 (友人は60点だが、なぜ自分は58点なのか。)
- ×具体的な根拠がなく、その評価になった理由の みを問い合わせるもの。

(自分なりにがんばったと思うのだが、なぜ30 点なのか。)

- 2 異議申し立ての流れ
 ※フロー図も参照してください。
- (1) 成績評価に対する確認

成績開示日を含め、3日以内(土日祝日、大学 休業日を除く)に、「成績評価確認願」を科目担 当教員に直接提出してください。また、記入後にコピーを取り、科目担当教員に原本を提出後、コピーを事務部教務課に直接提出してください。

提出受付時に本人確認を行いますので、学生証 を持参してください。

非常勤講師担当科目、または、専任教員でも出 張等で不在の場合は事務部教務課で受け付けま す。

- ※メールや郵送では受付できません。必ず指定の 様式で直接提出してください。
- (2) 確認に対する回答

「成績評価確認願」受理後、3日以内(土日祝日、 大学休業日を除く)に、科目担当教員からの回答 を事務部教務課から返却します。返却時に本人確 認を行いますので、学生証を持参してください。

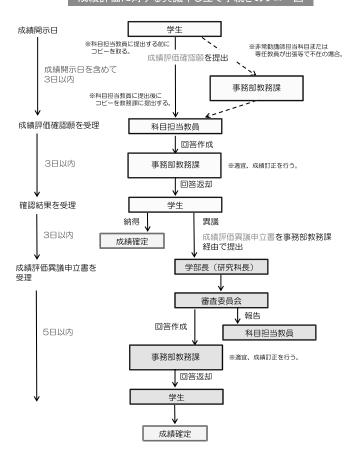
(3) 成績評価に対する異議申し立て

確認結果に対して異議がある場合は、成績評価確認に対する回答受理後、3日以内(土日祝日、大学休業日を除く)に、「成績評価異議申立書」を事務部教務課に直接提出してください。

提出受付時に本人確認を行いますので、学生証 を持参してください。

※メールや郵送では受付できません。必ず指定の

成績評価に対する異議申し立て手続きのフロー図



様式で直接提出してください。

進級基準

在籍している学年までの授業科目単位を一定以上 修得しない限り上の学年に進級できません。その進 級のための科目修得要件を「進級基準」と言います (履修規程第8条、別表第2)。また、学年終了時に 進級基準を満たせず、進級できなくなり、そのまま の学年次に留まることを「留年」といいます。

コース配属・研究室配属

【応用生命科学科】

- (1) コース配属:第2学年に進級した学生は第4学期から食品科学コース、バイオテクノロジーコース、応用化学コース、環境共生システムコース(令和6年度入学生までは生命環境化学コース)及び理科教職コースのいずれかに配属されます。各コースへの配属は本人の希望申請と第3学期までの成績を主たる基準として教授会で決定されます(履修規程第10条)。
- (2) 研究室配属:第3学年に進級した学生は第6学期から各研究室に配属され卒業研究を行います。研究室への配属は本人の希望申請と第5学期までの成績を主たる基準として教授会で決定されます(履修規程第11条)。

【生命産業ビジネス学科/生命産業創造学科】

研究室配属:第3学年に進級した学生は第6学期から各研究室に配属され卒業研究を行います。卒業研究室への配属は本人の希望申請と第5学期までの成績を主たる基準として教授会で決定されます(履修規程第10条)。

卒 業 研 究

【応用生命科学科】

第6学期から第8学期にかけて卒業研究を履修します。

卒業研究は、大学(学部)教育の総まとめとも言える総合科目で、これまでに各教科目で修得してきた知識、技術を総合的、発展的に駆使して未知の研究課題を設定し研究を行うものです。ここでは、問題解決能力及び問題提起能力を養うことが期待されます。卒業研究について十分に理解し、意欲的に取り組むことを期待します。

(1) 研究室配属

自分が興味を持った分野の研究を行っている研究室を選ぶことが大切です。その研究室配属に

は、研究室一般配属と早期研究室配属の2つの方法があります。研究室一般配属は、第5学期中に各研究室の配属定員が発表され、その後希望研究室を申請し、教授会において決定後、各研究室に配属する方法です。しかし、その研究室への配属を希望する学生の数が配属定員数を超過した場合には、第5学期までの成績等を判定基準にし、調整されます。早期研究室配属は、優秀な学業を修め、新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科博士前期課程に入学を志望している学生に対して第5学期の初め頃に面接を実施し、配属先研究室を教授会において決定後、各研究室に配属する方法で、定員は若干名です。

(2) 卒業研究の意義

学生は研究室に配属され、その研究室の教員と の話し合いに基づき特定の研究テーマを設定し研 究を行うことになります。

研究は、これまでの講義や実験と異なり、未知の事象の解明や創造を行う活動であるので、程度の差こそあれ困難を伴い、所期の成果が容易には得られないと思われますが、良い成果が得られたときには何物にも代え難い大きな感動や喜びが得られることでしょう。このような体験は、諸君の自信につながり、また、将来、様々な難局に直面した際にそれらを乗り越える勇気と、難問を解決する能力を諸君に与えてくれるものと考えます。

さらに、研究室で教員、大学院生あるいは同級 生と研究上の議論を行うことは勿論ですが、同時 にそれらの研究室員と日常的に接する中で、研究 以外の人間的な触れ合い、物の見方、考え方を学 ぶ絶好のチャンスにもなります。

(3) 卒業研究への事前の準備

卒業研究を実り多いものにするために、貴重な時間を未修得科目の履修に費やすようなことにならないように、前年度までの未修得科目をできる限り少なくしておくこと、また、単に試験のための勉強に止まらず自分の興味ある分野について、自ら積極的に調査学習して関連する知識をさらに深めておくこと、さらに、研究室選びの指針を得るために各研究室がどのような研究を行っているか事前に調査しておくことが望まれます。

別途、3年生向けにオープンラボを実施します ので研究室選びの参考にしてください。

(4) 卒業論文と卒業論文口頭発表会

第8学期の2月に、これまでの卒業研究の成果 を卒業論文としてまとめ、論文審査を申請します。 また、申請者全員が論文の口頭発表を行わなければなりません。この口頭発表会は学内公開で開催され、会期中に研究室単位で発表します。

提出された卒業論文及び口頭発表の内容を、研究室の主任教員と所属研究室以外の教員が審査 し、卒業研究の成績評価がなされます。なお、卒 業論文最終稿の提出が義務付けられています。

【生命産業ビジネス学科/生命産業創造学科】

第7学期から第8学期にかけて卒業研究を履修します。

卒業研究は、大学(学部)教育の総まとめとも言える総合科目で、これまでに各教科目で修得してきた知識、経験、方法を発展させる研究課題を設定し、問題解決能力及び問題提起能力を養うことを目的としています。その成果を卒業論文としてまとめ、合格と判定されれば所定の単位が認定されます。

卒業研究課題を十分に理解し、意欲的に取り組む ことを期待します。

(1) 卒業研究の意義

学生は研究室に配属され、その研究室の教員と の話し合いに基づき特定の研究課題を設定し研究 を行うことになります。

研究は、これまでの講義やフィールドワークに 基づいて創造を目指す活動です。これらの活動を とおして大きな感動や喜びが得られ、諸君の自信 につながり、また、将来、様々な難局に直面した 際にそれらを乗り越える勇気と、難問を解決する 能力を諸君に与えてくれるものと考えます。

さらに、研究室で教員や同級生と日常的に接する中で、研究以外の人間的な触れ合い、物の見方考え方を学ぶ絶好のチャンスにもなります。

(2) 卒業論文の提出と審査

第8学期に、これまでの卒業研究の成果を卒業 論文としてまとめ、論文審査を申請します。また、 申請者全員が論文の口頭発表を行わなければなり ません。この口頭発表会は学内公開で開催され、 会期中に研究室単位で発表します。

提出された卒業論文及び口頭発表の内容を、研究室の主任教員と所属研究室以外の教員が審査 し、卒業研究の成績評価がなされます。

卒業の要件

【応用生命科学科】

<2025年度以降の入学生>

4年以上在籍修学し、教養科目30.5単位以上(必 修科目18.5単位、選択科目12単位以上)、共通専門 科目34単位、コース別専門科目59.5単位(必修科目28単位、選択科目31.5単位以上)、合計124単位以上(必修科目80.5単位、選択科目43.5単位以上)を取得すれば、卒業が認められます(履修規程別表第2の1付表2)。

<2023年度から2024年度の入学生の場合>

4年以上在籍修学し、教養科目26.5単位以上(必修科目14.5単位、選択科目12単位以上)、共通専門科目34単位、コース別専門科目63.5単位以上(必修科目27単位、選択科目36.5単位以上)、合計124単位以上(必修科目75.5単位、選択科目48.5単位以上)を取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の2付表2、履修規程別表2の3付表2)。

<2021年度から2022年度の入学生の場合>

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上(必修科目13科目、選択科目13単位以上)、共通専門科目34単位、コース別専門科目64単位以上(必修科目27単位、選択科目37単位以上)、合計124単位以上(必修科目74単位、選択科目50単位以上)を取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の4付表2、履修規程別表第2の5付表)。

<2020年度までの入学生の場合>

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上(必修科目12科目、選択科目14単位以上)、共通専門科目47単位、コース別専門科目51単位以上(必修科目30単位、選択科目21単位以上)、合計124単位以上(必修科目89単位、選択科目35単位以上)を取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の6付表2)。

【生命産業ビジネス学科/生命産業創造学科】 <2025年度以降の入学生>

4年以上在籍修学し、教養科目32単位以上(必修科目20単位、選択科目12単位以上)、専門科目92単位以上(必修科目43単位、選択科目49単位以上)合計124単位以上(必修科目63単位、選択科目61単位以上)取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の1付表2)。

<2022年度から2024年度の入学生の場合>

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上(必修科目14単位、選択科目12単位以上)、専門科目98単位以上(必修科目50単位、選択科目48単位以上)、合計124単位以上(必修科目64単位、選択科目60単位以上)を取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の2付表2、履修規程別表第2の3付表2)。

<2021年度の入学生の場合>

4年以上在籍修学し、教養科目24単位以上(必修科目11単位、選択科目13単位以上)、専門科目100単位以上(必修科目54単位、選択科目46単位以上)、合計124単位以上(必修科目65単位、選択科目59単位以上)を取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の4付表2)。

<2020年度までの入学生の場合>

4年以上在籍修学し、教養科目24単位以上(必修科目10単位、選択科目14単位以上)、専門科目100単位以上(必修科目56単位、選択科目44単位以上)、合計124単位以上(必修科目66単位、選択科目58単位以上)を取得すれば卒業が認められます(履修規程別表第2の5付表2)。

数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて

内閣府が発表した「AI戦略2019」では、政府が標榜するSociety5.0の実現に向け、「文理を問わず全ての大学・高専生(約50万人卒/年)が課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」すること等を具体的目標として掲げています。本学では2021年度入学生から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開始しました。医療科学及び生命科学分野の専門人材として、現代の「データ駆動型の社会」に対応するために必要な「数理・データサイエンス・AIの基礎的素養」を習得することを目指します。対象科目を履修し単位認定されると、プログラム修了認定証が発行されます。

対象科目は以下のとおりです。

【応用生命科学科】

2023年度以降入学生

- (1)情報リテラシー基礎
- (2)情報リテラシー応用

2021、2022年度入学生

- (1) 生命情報科学概論
- (2) 初年次セミナー(フレッシャーズ・セミナー)
- (3) 生物学 I
- (4) データサイエンス入門

【生命産業ビジネス学科/生命産業創造学科】

2022年度以降入学生

- (1)情報リテラシー基礎
- (2)情報リテラシー応用

2021年度入学生

- (1) IT リテラシー基礎
- (2) 初年次セミナー
- (3) データサイエンス入門
- (4) IT リテラシー応用

食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程について

応用生命科学科では、2021年度以降の入学生は全コース、2020年度までの入学生は食品科学コースの学生が各入学年度に応じて適用されるプログラムで指定された科目の中から一定の単位を修得することで、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を得ることができます。

· 食品衛生管理者

食品や食品添加物を製造、加工する施設で、食品 衛生法及び関連する法規や法令に基づいて製造過程 に従事する者の指導監督を行います。

・食品衛生監視員 官公庁において、食品衛生法に基づく食品製造業 や飲食店等の営業施設に立ち入り、食品衛生法上の 監視ならびに指導を行います。

2020年度までの食品科学コースの入学生は、共通 必修科目及び食品科学コース必修科目の他、★のつ いた専門選択科目の単位を修得することで要件を満 たすことができます。

2021年度以降の入学生は所属するコースによって、必修科目の他に追加で履修を要する選択科目の単位数が異なりますので、資格取得を希望する場合は、よく確認して履修計画を立ててください。

【応用生命科学科食品衛生プログラム 2025年度入学生より適用】

	区 分	基本科目名	食品科学コースの対応授業科目(配当学年・必選区分)	必選区分	単位数
A群	化学関係	分析化学	分析化学(1年·必修)	必修	2
			応用生命科学基礎実験 I (1年·必修)	必修	1
		有機化学	化学Ⅱ (1年·必修) 有機化学Ⅰ (2年·必修)	必修 必修	2 2
			応用生命科学基礎実験N (1年·必修)	必修	1
		無機化学	化学 I (1年·必修)	必修	2
			無機化学 (2年・実験科学系コース必修)	必修	2
				卜計	12
B群	生物化学関係	生物化学	生化学 I (2年・必修)	必修	2
			生化学Ⅱ(2年・必修)	必修 必修	2
		食品化学	応用生命科学基礎実験Ⅲ(1年·必修) 食品化学(2年·必修)	必修	2
		艮町化子	良田化子(2ヰ・必修) 応用生命科学基礎実験V(2年・必修)	必修	2
		食品分析学	食品分析学(2年・実験科学系コース必修)	選択	2
		жинуу үт у		 N計	11
C群	微生物学関係	微生物学	微生物科学(2年・必修)	必修	2
			応用生命科学基礎実験Ⅱ(1年·必修)	必修	1
		食品微生物学	食品微生物学(3年・選択)	必修	2
		食品製造学	食品製造学(2年・実験科学系コース必修)	必修	2
			小計		7
D群	公衆衛生学関係		公衆衛生学 (3年・選択)	必修	2
		食品衛生学	食品安全学 (3年・選択)	必修	2
		疫学	食中毒疫学(3年・選択)	選択	2
A HIM A	à D = W = A = 1 0	0 1 1 2 W/H		計	6
	いらD群の合計で2	1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1	最低取得単位数の小計(A+B+C+D)	TH. 557	30
上日	その他関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、 乳化学、食肉化学、高分子化学、生	生物有機化学(3年・選択)	選択選択	2
		物有機化学、環境汚染物質分析学、	有機化学Ⅱ (2年・選択) 環境概論 (2年・必修)	送	2
		酵素化学、食品理化学、水産生理学、	栄現帆調 (2 年・北崎) 栄養科学 (2 年・実験科学系コース必修)	選択	2
		家畜生理学、植物生理学、環境生物	機能食品科学(3年・選択)	選択	2
		学、応用微生物学、酪農微生物学、 病理学、医学概論、解剖学、医化学、	栄養生理学(3年·選択)	選択	2
		两连子、医子风珊、胖司子、医儿子、 産業医学、血液学、血清学、遺伝学、	酵素化学(2年・選択)	選択	2
		寄生虫学 獣医学、栄養化学、衛生	発酵醸造学(3年・選択)	選択	2
İ		統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、	分子生物学(3年·選択)	選択	2
		管理学、水産製造学、畜産品製造学、	植物バイオテクノロジー(3年・選択)	選択	2
		農産物製造学、醸造調味食品製造学、 乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰	遺伝資源学 (2年・実験科学系コース必修)	選択	2
		工学、食品工学、食品保存学、冷凍	微生物バイオテクノロジー(3年・選択)	選択	2
		冷蔵学、品質管理学、その他これら	環境科学(2年·選択)	選択	2
		に類する食品衛生に関する科目	環境汚染論 (2年・選択)	選択	2
				卜計	28
			最低取得単位数の小計		2
A群カ	いらE群を含め40 ^点	単位以上を修得	最低取得単位数合計 (A + B + C + D + E)		32

「必選区分」の必修及び選択を合わせて、A群からE群までの合計で40単位以上修得しなければならない。

(付記)

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設への転入学者等の取り扱いについて

他の学部及び他の学科または学年度途中からの編入については認めない。

転入学者については、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成施設からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当大学の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

【応用生命科学科食品衛生プログラム 2021年度から2024年度入学生に適用】

	区 分	基本科目名	応用生命科学科指定科目(配当学年・選択必修の別)	必選区分	単位数
A群	化学関係	分析化学	分析化学(1年・必修)	必修	2
			応用生命科学基礎実験 I (1年·必修)	必修	1
		有機化学	化学Ⅱ(1年·必修)	必修	2
			有機化学Ⅰ (2年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅳ (1年・必修)	必修 必修	2
		無機化学	化学 I (1年·必修)	必修	2
		無饭几于	無機化学(2年・生命環境化学コース必修)	必修	2
				†	12
B群	生物化学関係	生物化学	生化学 I (2年・必修)	必修	2
			生化学Ⅱ (2年・必修)	必修	2
		A E # W	応用生命科学基礎実験Ⅲ (1年·必修)	必修	1
		食品化学	食品化学(2年・必修)	必修	2
		食品分析学	応用生命科学基礎実験 V (2年・必修) 食品分析学 (2年・食品科学コース必修)	必修 選択	2
		良丽尔州子	1	選択 	11
こ 群	微生物学関係	微生物学	微生物科学(2年・必修)	必修	2
C 111	似生物子因尔	恢生初子	応用生命科学基礎実験Ⅱ(1年・必修)	必修	1
		食品微生物学	食品微生物学(3年・食品科学コース必修)	必修	2
		食品製造学	食品製造学(2年・食品科学コース必修)	選択	2
		PCHH PCKE 1		†	7
D群	公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学(3年・選択)	必修	2
		食品衛生学	食品安全学(3年・選択)	必修	2
		疫学	食中毒疫学 (3年・選択)	選択	2
				†	6
A群か	らD群の合計で2	2単位以上を修得	最低取得単位数の小計(A+B+C+D)		30
E群	その他関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、	生物有機化学(3年・選択)	選択	2
		乳化学、食肉化学、高分子化学、生	有機化学Ⅱ(2年・生命環境化学コース必修)	選択	2
		物有機化学、環境汚染物質分析学、	環境科学 I (2年·必修)	必修	2
		酵素化学、食品理化学、水産生理学、 家畜生理学、植物生理学、環境生物	栄養科学 (2年・食品科学コース必修)	選択	2
		学、応用微生物学、酪農微生物学、	機能食品科学(3年・食品科学コース必修)	選択	2
		病理学、医学概論、解剖学、医化学、	栄養生理学 (3年・食品科学コース必修)	選択	2
		産業医学、血液学、血清学、遺伝学、	酵素化学(2年・バイオテクノロジーコース必修)	選択	2
		寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生	発酵醸造学 (3年・食品科学コース必修)	選択	2
		統計学、栄養学、環境保健学、衛生 管理学、水産製造学、畜産品製造学、	分子生物学 (3年・選択)	選択	2
		農産物製造学、醸造調味食品製造学、	植物バイオテクノロジー(3年・バイオテクノロジーコース必修)	選択	2
		乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰	植物科学(2年・バイオテクノロジーコース必修)	選択	2
		工学、食品工学、食品保存学、冷凍	微生物バイオテクノロジー(3年・バイオテクノロジーコース必修)	選択	2
		冷蔵学、品質管理学、その他これら	環境科学Ⅱ (3年・生命環境化学コース必修)	選択	2
		に類する食品衛生に関する科目	環境汚染論(2年・選択)	選択	2
				計	28
A 那とよ	・ ら E 群を含め40 ^j		最低取得単位数の小計 最低取得単位数合計 (A+B+C+D+E)		32
A秆カ	*りC矸を召め40年	ドロ以上で修符	取囚収行平区奴官司 (A+B+C+D+E)		32

「必選区分」の必修及び選択を合わせて、A群からE群までの合計で40単位以上修得しなければならない。

(付記)

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設への転入学者等の取り扱いについて

他の学部及び他の学科または学年度途中からの編入については認めない。

転入学者については、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成施設からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当大学の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

【食品科学コース食品衛生プログラム 2020年度入学生まで適用】

	区 分	基本科目名	食品科学コース指定科目(配当学年・選択必修の別)	必選区分	単位数
A群	化学関係	分析化学	分析化学(1年・必修)	必修	2
			応用生命科学基礎実験Ⅱ (1年・必修)	必修	1
		有機化学	化学Ⅱ (1年・必修)	必修	2
			有機化学 I (2年・必修)	必修	2
		1.100.00	応用生命科学基礎実験IV(1年・必修)	必修	1
		無機化学	化学 I (1年·必修)	必修	2
			無機化学 (2年・必修) 応用生命科学基礎実験 I (1年・必修)	必修 必修	2 1
				計	13
B群	生物化学関係	生物化学	生化学 I (2年・必修)	必修	2
D 111	7.10 10 7.10 W	2.10 10-1	生化学Ⅱ(2年·必修)	必修	2
		食品化学	食品化学 (2年・必修)	必修	2
		食品分析学	食品分析学 (2年・必修)	必修	2
			食品分析実験 (2年・必修)	必修	1
				計	9
C群	微生物学関係	微生物学	微生物科学(2年・必修)	必修	2
		食品微生物学	食品微生物学(3年・必修)	必修	2
		食品製造学	食品製造学 (3年・必修)	必修	2
			食品製造・加工実験(3年・必修)	必修	1
				計	7
D群	公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学 (3年・選択) ★	必修	2
		食品衛生学	食品安全学 (3年·選択) ★	~	2
			食品安全実験 (3年・必修)	必修	1
		疫学	食中毒疫学(3年・選択)	選択	2
			T	計	7
	らD群の合計で22単		最低取得単位数小計 (A+B+C+D)		34
E群	その他の関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉	生物有機化学(3年・選択) ★	必修	2
		化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質 分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家	有機化学Ⅱ (2年・必修)	必修	2
			環境科学 I (2年·必修)	必修	2
		酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化	栄養科学 (2年・必修)	必修	2
		学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫	栄養生理学 (3年・必修)	必修	2
		学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環	機能食品科学 (3年・必修)	必修	2
		境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、 農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造	応用生命科学入門実験 (2年·必修)	必修	1
			食品機能実験 (2年・必修)	必修	1
		存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに	酵素化学(2年・必修)	必修	2
		類する食品衛生に関する科目	発酵醸造学 (3年・必修)	必修	2
				計	18
A群カ	らE群を含め40単位	び以上を修得	最低取得単位数合計 (A+B+C+D+E)		52

★食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を得るためには、食品科学コース必修科目を修得し、かつD群公衆衛生学関係「公衆衛生学」及び「食品安全学」並びにE群その他の関連科目「生物有機化学」を修得しなければならない。

(付記)

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設への転入学者等の取り扱いについて

他の学部及び他の学科または学年度途中からの編入については認めない。

転入学者については、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成施設からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当大学の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

教職課程について

はじめに

教職課程とは、大学を卒業した後、中学校あるいは高等学校の教員になりたいと考えている学生の皆さんが、教員免許状を取得するために履修する課程です。

(1) 取得可能な教員免許状

新潟薬科大学応用生命科学部教職課程(以下「本課程」といいます。)では、中学校教諭一種免許状(理科)(以下「中学一種免許」)及び高等学校教諭一種免許状(理科)(以下「高校一種免許」)の取得が可能です。

(2) 履修上の注意

教員免許状を取得するためには、本学部の卒業 要件となる授業科目だけではなく、さらに教職課 程の授業科目の履修が必要となります。従って、 多くの努力が必要であることは言うまでもありま せん。また、学士号を取得することが基礎資格と なるため、卒業できなければ教員免許状を取得で きません。

本課程の履修を希望する学生は、年度始めに開催される**教職課程履修ガイダンス**に必ず出席してください。

正当な理由なく欠席した場合または理由の如何にかかわらず欠席が多い場合は、以降の本課程の 履修を認めない場合があります。

また、「学習支援実地演習 I ~Ⅲ」及び「教育 実習 I ・Ⅲ」並びに「介護等の体験」などの学外 実習に参加する際には審査があり、その審査に合 格しなければ参加することはできません。審査は、 学力、出席等の平常の態度等を考慮して面接によ り行われます。これらの学外実習は、参加した学 生の行為により、実習先や生徒たちに多大な迷惑 をかける可能性があるためです。

履修について

(1) 免許状取得に必要な単位数

本課程で教員免許状を取得するためには、教育職員免許法及び教育免許法施行規則(以下「免許法等」)に定めるところに従って本学部が定めた単位を取得しなければなりません。本課程で教員免許状を取得するために必要な単位数は次の表のとおりです。

【2025年度以降の入学生】

科目区分	中学校教諭一種 免許状取得に必 要な単位数	高等学校教諭一 種免許状取得に 必要な単位数		
教科及び教科の指導法に関 する科目	32単位	36単位		
教育の基礎的理解に関する 科目	11単位	11単位		
道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	10単位	8 単位		
教育実践に関する科目	7 単位	5 単位		
大学が独自に設定する科目	1 単位			
小 計	61単位			
教育職員免許法施行規則第 66条の6に定める科目	11単位			
合 計	72単位			

【2019年度から2024年度までの入学生】

科目区分	中学校教諭一種 免許状取得に必 要な単位数	高等学校教諭一 種免許状取得に 必要な単位数			
教科及び教科の指導法に関 する科目	32単位	36単位			
教育の基礎的理解に関する 科目	11単位	11単位			
道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	10単位	8 単位			
教育実践に関する科目	7 単位	5 単位			
大学が独自に設定する科目	1 単	单位			
小 計	61単位				
教育職員免許法施行規則第 66条の6に定める科目	9 単位				
合 計	70章	单位			

(2) 授業科目について

授業科目の区分、単位数、必修選択の別及び配当学期は別表『新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧』のとおりです。教員免許状取得のための単位は本学の卒業要件として算入されない場合があるので、注意して履修してください。以下に各科目区分について説明します。

【2019年度以降の入学生】

i)「教科及び教科の指導法に関する科目」について

理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的として構成されています。本課程では、物理学、化学、生物学、地学等の区分で構成され、応用生命科

学部としての特徴を最大限に生かすため、特に化学と生物学を重視した構成となっています。併せて「理科教育法 I~IV」において、理科教育に関する指導法を修得します。「中学一種免許」「高校一種免許」により必要単位数が異なりますので科目一覧をよく確認の上、履修してください。

ii)教育の基礎的理解に関する科目

教員として生徒に接し授業を行う上で必要な知識と技能を修得するための科目です。教職の意義、教育の理念、生徒の心身の発達、教育に関する社会的事項、特別の支援を必要とする生徒に対する理解などを修得するため、「教職概論」「教育原論」「教育心理学」等の科目で構成されています。「中学一種免許」「高校一種免許」の取得には全ての科目の修得が必要です。

iii) 道徳、総合的な探究の時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に関する科目

教員として必要な道徳の理論や指導法、特別活動や総合的な探究の時間の指導法、生徒指導、 進路指導、教育相談の方法を修得するため、「道 徳教育の指導法」「教育方法及び技術(情報通 信技術の活用含む)」「教育相談の理論と方法」 等の科目で構成されています。「中学一種免許」 の取得には全ての科目の修得が必要であり、「高 校一種免許」の取得には「道徳教育の指導法」 以外の科目の修得が必要です。

iv)教育実践に関する科目

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目的としています。「教育実習事前事後指導」「教育実習 I」「教育実習 I」を履修するためには条件がありますので、「教育実習について」をよく確認してください。

v) 大学が独自に設定する科目

学校現場やその他の教育施設において教育活動や校務、部活動などに関する支援や補助業務などの諸活動を体験させるための学校インター

ンシップや学校ボランティアなどの取組を行う 科目です。本課程では「学習支援実地演習 I 」「学 習支援実地演習 II 」「学習支援実地演習 III 」の 科目で構成されています。

vi) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める 科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目は、免許状の種類及び教科によって修得科目や単位数に違いのない科目群です。日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション4単位(2024年度までの入学生は2単位)及び情報機器の操作2単位を法令上の最低修得単位数とし、本課程では合計11単位(2024年度までの入学生は9単位)の取得を必須としています。

〈参考〉教育職員免許法で定める最低取得単位数

科目区分	中学校教諭一種 免許状取得に必 要な単位数	高等学校教諭一 種免許状取得に 必要な単位数		
教科及び教科の指導法に関 する科目	32単位	36単位		
教育の基礎的理解に関する 科目	11	单位		
道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	10単位	8 単位		
教育実践に関する科目	7 単位	5 単位		
大学が独自に設定する科目	1 単	单位		
小 計	61 [±]	单位		
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	9 単位			
合 計	70章	单位		

教育実習について

(1) 教育実習とは

実際に中学校や高等学校の担当教諭の指導を受けながら生徒の教育・指導をします。中学一種免許取得希望者及び中学、高校両方の免許取得希望者は3年次に「教育実習 I 」、「教育実習 II 」及び「教育実習事前事後指導」の履修が必要です。高校一種免許のみ取得希望者は「教育実習 I 」及び「教育実習事前事後指導」を履修します。

(2) 教育実習の履修条件

教育実習は、実際の教育現場の協力を仰いで行う学外実習です。教育実習の履修に際しては、中学一種免許取得希望者にあっては、次の1から4まで、高校一種免許取得希望者にあっては、1から3までのすべてを満たさなければなりません。

1 運営委員会による審査結果の報告に基づき、 学長が教育実習受講適格者と認めた者であるこ と。

- 2 教育実習にかかる指導及びガイダンスに全て出席していること。
- 3 下表に規定する科目区分等毎の単位数を取 得していること。

【2019年度以降の入学生】

科目区分等	中学校教諭一種免	高等学校教諭一種
	許状	免許状
教科及び教科の指導法 に関する科目	30単位 (理科教育法4単 位必ず含む)	34単位 (理科教育法2単 位必ず含む)
教育の基礎的理解に関 する科目		
道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に 関する科目	併せて 17単位	併せて 15単位
大学が独自に設定する 科目	学習支援実地演習 I~Ⅲから1単位	学習支援実地演習 I~Ⅲから1単位

4 「介護等の体験」を済ませている又は行う予定であること。

小学校免許取得の課程

明星大学との教育業務提携により、在学時に小学校教諭二種免許状の取得が可能です。これは2年次4月から明星大学の科目等履修生として学修を開始し、卒業までの3年間で免許取得を目指すものです。なお履修に関する経費は自己負担となります。

<スケジュール>

1年次11月~1月:本学でオリエンテーション及び

選考を実施

2月:明星大学に出願

2年次4月:通信教育による履修を開始

そ の 他

(1) 介護等の体験について

1998年4月1日より、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律」(以下、「介護等の体験法」という)が施行され、中学校教諭の普通免許状を取得するには、介護等の体験を行うことが義務づけられました。「介護等の体験法」が求める体験とは、盲学校、聾学校、養護学校及び障害者や高齢者の福祉施設で、介護、介助を通してこれらの人々との交流を深めるものです。期間は7日間で、原則として特殊教育諸学校で2日間、社会福祉施設で5日間実施することになっています。本学では、3年次に実施します。

介護等の体験は、都道府県教育委員会への免許 状申請の要件であり、免許状申請時に申請者は当 該機関・施設の発行する「介護等の体験修了証明書」(コピーは不可)を添付しなければなりません。

(2) 教職課程履修に必要な費用

教育実習等の学外実習を行う際には、実習機関によっては実習費等を支払う必要があります。また、実習機関までの交通費も個人負担となります。

諸 規 程

新潟薬科大学応用生命科学部 応用生命科学科授業科目履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、新潟薬科大学学則(以下「学則」という。)第43条及び新潟薬科大学授業科目の区分等に関する規程第4条の規定に基づき、応用生命科学部応用生命科学科の教育課程及び履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(共通専門科目と学科別専門科目)

(学年と学期)

第2条 第1学年の前期を第1学期、後期を第2学期、第2学年の前期を第3学期、後期を第4学期、第3学年の前期を第5学期、後期を第6学期、第4学年の前期を第7学期、後期を第8学期とする。(授業科目の履修)

- 第3条 授業科目の区分、単位数、必修・選択の別 及び履修学期は別表第1の通りとする。
- 2 履修できる授業科目は、別表第1の各授業科目 の配当学年が在籍学年を超えないことを原則とす る。
- 3 必修科目の履修には履修申請を必要としない。 ただし、次学年に進級できなかった者については 別に定める。
- 4 必修科目を再履修するときは所定の期日までに 履修申請を提出しなければならない。
- 5 選択科目を履修するときは所定の期日までに履 修申請を提出しなければならない。
- 6 前2項に定める手続きを経ないで出席しても履 修は無効である。
- 7 選択科目の履修申請について、その科目の選択 履修学生数が所定の人員を超えたときには、履修 を許可しない場合がある。
- 8 受け付けられた履修申請は原則として変更を認 めない。
- 9 過年度修得済み科目の再履修は認めない。
- 10 履修した科目の授業には毎時出席しなければならない。ただし、忌引及び届出により大学が適当と認めた場合は、欠席に算入しない。
- 11 忌引は父母の喪 (7日以内)、祖父母・兄弟姉妹の喪 (5日以内)、その他の親族 (1日)、その他居出により大学が適当と認めた場合とする。いずれも欠席届にその旨を記載し、届け出なければならない。
- 12 同じ曜日・時限に開講される複数科目を重複し

て履修してはいけない。ただし、不合格科目の再 履修において第7条第2項に定める取扱いを受け たときを除く。

(履修科目の登録の上限)

第3条の2 各年度の履修登録単位数の上限は49単位とする。

(試験の種類等)

- 第4条 単位の認定のために行う試験は定期試験、 追試験、再試験及びその他の試験とする。
- 2 定期試験は各学期末に実施する。各科目について授業時間の3分の2以上出席している者に受験 資格を与える。ただし、定められた期限までに所 定の学費を納入していない者には受験資格を与え ない。
- 3 追試験は以下のいずれかの事由に該当し、所定 の期日までにその事由を証明する書類を添えて申 請があった場合に実施する。追試験の最高評価点 は90点とする。
 - (1) 学校保健安全法施行規則が定める感染症に罹患し登校禁止となった場合。
 - (2) 公共交通機関の乱れにより、登校できなかった場合。
 - (3) 天災の発生により、登校できなかった場合。
 - (4) 忌引きにより、登校できなかった場合。なお、 忌引きは父母の喪(7日以内)、祖父母・兄弟 姉妹の喪(5日以内)とする。
 - (5) その他大学が適当と認めた場合。
- 4 再試験は、科目担当教員が必要と認めたときに、 定期試験不合格者のうちで所定の期日までに受験 を申請した者に対して実施する。再試験の最高評 価点は60点とする。
- 5 その他の試験は科目担当教員が必要と認めたと きに実施する。
- 6 前2項に定める追試験及び再試験の受験を申請 する者は、定められた期限までにそれぞれ1科目 につき追試験は1,000円、再試験は2,000円の試験 手数料を納付しなければならない。

(受験上の順守事項)

第5条 前条に定める試験の受験に際しては、別に 定める「新潟薬科大学応用生命科学部受験心得」 に掲げる事項を順守しなければならない。

(成績評価と単位の認定)

第6条 成績評価及び評価基準は次のとおりとする。

区分	評価	評点	GP	評価基準
	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、特に優れている
合 格	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、優れている
	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成 している
	C (可)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低 限達成している
	D (不可)	60点未満		授業科目の到達目標を達成 していない
不合格	X(追欠)	欠	0.0	天災、疾病などやむを得な い事情により定期試験欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試 験受験資格なし
認定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等 で修得した科目を本学部の 単位として認定

- 2 卒業研究は提出された卒業研究論文の審査の合格をもって単位を認定する。
- 3 第6条第1項に規定する成績評価をもとに、GPA (Grade Point Average/成績平均点数)を 第出する。また算出したGPAに基づき、第3条 の2に定める履修登録上限単位数を超えて履修で きる場合がある。GPAの算出方法と履修登録上 限単位数の取り扱いは別に定める。

(不合格科目の再履修)

- 第7条 成績評価が不可となった必修科目は次年度 に再履修しなければならない。
- 2 再履修は講義への出席を原則とするが、再履修 科目が在籍学年の必修科目と授業時間が重複した 場合、科目担当者が適当と認めたときには前年度 の出席が3分の2を超えている者に対して、出席 以外の他の方法に代えることができる。

(進級)

第8条 各学年で所定の単位(別表第2)を取得した者は次学年に進級できる。

(進級できなかった者の授業科目履修特例)

- 第9条 進級できなかった者は未修得の必修科目を 優先して再履修しなければならない。
- 2 進級できなかった者は前項によって履修すべき 科目に重複しない限りにおいて、在籍学年の次学 年の開講科目を履修することができる。ただし、 コース別専門科目の実験は履修できない。
- 3 第2項の規定に基づいて次学年開講科目を履修 しようとするときは、所定の期日までに申請しな ければならない。
- 4 第2項の規定により取得した単位数は進級のた

めの単位数に算入する。

(コース配属)

- 第10条 第2学年に進級した者を第4学期からコースに配属する。
- 2 配属コースの決定は、本人の希望申請と第3学 期までの成績を主な基準とする。

(卒業研究室配属)

- 第11条 第3学年に進級した者を第6学期から卒業 研究室に配属する。
- 2 卒業研究室への配属の決定は、本人の希望申請 と第5学期までの成績等に基づいて行う。

(卒業研究論文審査)

- 第12条 卒業研究室に配属して卒業研究を通算して 3学期間行う者は、卒業研究指導教員の指導のも とに卒業研究論文を提出し、審査を申請できる。
- 2 卒業研究論文の審査の方法については別に定める。

(教育職員の免許状授与の所要資格)

- 第13条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。
- 2 本学部において所要資格を取得することができる免許状の種類は、中学校教諭一種免許状(理科)、 高等学校教諭一種免許状(理科)とする。
- (3年修了時卒業(第6学期卒業)及び第7学期卒業) 第14条 3年修了時(第6学期経過時)または第7 学期経過時に卒業研究以外の卒業に必要な単位を すべて取得し、成績が特に優秀で卒業研究指導教 員が適当と認めた者は、卒業研究論文の審査を申 請できる。
- 2 前項により提出された卒業研究論文審査の結果 が合のとき、卒業研究10単位の取得を認定すると ともに、3年修了時卒業(第6学期卒業)または 第7学期卒業を認定することができる。

附則

- 1 この規程は、平成14年4月1日から実施する。
- 2 第13条の規定に関わらず平成18年3月31日まで 3年修了時卒業(第6学期卒業)及び第7学期卒 業はこれを実施しない。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。ただし、施行日において2年次以上に在籍する者については、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。た

だし、平成19年4月1日において2年次以上に在籍 した者については、第6条第2項を除き、従前の例 による。

附則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。(第2条の別表第1の変更)ただし、平成19年4月1日において2年次以上に在籍した者については、第6条第2項を除き、従前の例による。

附則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。ただし、平成19年4月1日において2年次以上に在籍した者については、第5条第9項、第6条第2項及び同第3項を除き、従前の例による。

附則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成23年度までの入学生については、次の表の第1欄に掲げる改正後の条項中の、第2欄に掲げる字句を、それぞれ第3欄に掲げる字句に読み替えて、同規定を適用する。

第1欄	第2欄	第3欄
第9条第2項	コース別専門科目の実験	学科別専門科目の実習
	(コース配属)	(学科配属)
第10条第1項	進級した者を第4学期か らコースに	進級が決定した者を第3 学期から応用生命科学科 または食品科学科に
第10条第2項	配属コース 第3学期	配属学科 第2学期

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。 ただし、改正後の第6条第1項(成績評価(秀) の新設)の規定は、施行日の前日において現に在 籍する者については、なお従前の例による。
- 2 別表第1の1の「物理化学」及び「環境科学 I」 の配当学期は、施行日において2年次に在籍する 者については、第3学期とする。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。ただし、改正後の第3条の2及び第6条第3項の規定は、平成27年度1年次入学生から適用する。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。(第3条の別表第1の変更並びに第4条第3項及び第6項の変更)

附則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。(第3条の別表第1、第3条の1第10項、第6条第1項、第10条及び第11条の変更)

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附 則

この規程は、令和5年9月21日から施行する。(第3条の別表第1の変更)

附則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。(第3条の別表第1の変更)

附則

この規程は、令和6年10月25日から施行し、令和6年4月1日から適用する(第3条第11項の文言整理)

附則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

別表第1の1 応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表(令和7〔2025〕年度1年次入学生より適用)

					配	当学	年・台	学期と	:単位	数
区	分	授業科目	単位		2 年	_	4 年	-	6 年	7 8 4年
							:後		後	
教養必修科目		◎フレッシャーズセミナー	2	2						
(18.5単位)		早期体験学習	1	1						
		健康管理	2		2					
		キャリア形成実践演習	1			1				
		◎英語 I	2	2						
		◎英語Ⅱ	2		2		-			
		英語Ⅲ	2			2	-			
		英語Ⅳ	2				2			
			+		٥٢					
		生命情報科学演習	0.5	0	0.5		-			
		◎情報リテラシー基礎	2	2	0					
	T. 1	◎情報リテラシー応用	2		2		-			-
教養選択科目	外国語	英語コミュニケーションⅠ	1	1						
(12単位以上)	3単位以上	英語コミュニケーションⅡ	1		1					
		◎海外語学研修	1				1			
		上級英語リーディング	1			1				
		ビジネス英語	1					1		
		TOEIC [®] 演習 I	1				1			
		TOEIC [®] 演習 II	1					1		
		◎ドイツ語	2	2	2		:			
		◎中国語	2	_	2					
		◎コリア語	2		2		-			
	自然科学系	◎基礎数学	2	2			-			
	4単位以上	◎基礎物理学	2	2			-			
	4年世丛工						:			
		◎物理学	2		2		-			
		◎地学	2		2					
		◎統計学	2	2						
		気象学	1		1					
		◎昆虫と人のかかわり	2		2					
		◎医療・生命科学に親しむ	2		2					
		◎アロマセラピー	2	2	2		į			
		◎プログラミング基礎	2				2			
	社会・人文科学系	◎社会心理学	2	2						
	4単位以上	◎マス・メディア論	2	2						
		歴史学	2	2						
		◎文化人類学	2	_	2					
		◎哲学	2		2		-			
		◎法学	2		2					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		ハイオとノートに関する法律 ◎生命・医療倫理		9						
			2	2				-		
		科学技術論		2			-			
		◎経済学	2	2			-	-		-
		b行動経済学	2		2		<u>!</u>			
	キャリア教育	インターンシップ実践演習	1			_	1			
		職業とキャリア形成I	1				1			
		職業とキャリア形成Ⅱ	1						1	
		◎大学商品開発社会実践演習 I	2				2			
		◎大学商品開発社会実践演習 II	2				2			
	体育	◎スポーツ	1	1						
専門必修科目	共通必修科目	◎生物学 I	2	2						
(62単位)	(34単位)	◎生物学Ⅱ	2		2					
		◎化学 I	2	2						
		化学 I 演習	1	1			:			
		◎化学Ⅱ	2	-	2					
				-			-	-		
		化学Ⅱ演習 左機化学Ⅰ	1	-	1	0	<u> </u>			
		有機化学工	2			2				
		有機化学 I 演習	1			1				
		生化学 I	2			2				

					配	当学	年・島	- 学期と	:単位	
₽	e.	155 AMA TO 1)V 61-	1	2		4		6	7 8
区	分	授業科目	単位	1	年	2	年	3	年	4年
				前	後	前	後	前	後	前:後
専門必修科目	共通必修科目	生化学Ⅱ	2				2			
(62単位)	(34単位)	分析化学	2		2					
		機器分析学	2			2				
		微生物科学	2			2	:			
		環境概論	2			2				
		食品化学	2			2				
		科学技術英語	1			_			1	
		応用生命科学基礎実験 I	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1			-			
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	<u> </u>	1		 		-	
		応用生命科学基礎実験IV	1		1					
		応用生命科学基礎実験V	2		1	2				
	食品科学コース	食品製造学	2		-		2			
	必修科目	食品分析学	2				2			
	(28単位)	栄養科学	2				2			
		生物工学	2		-		2			
		遺伝資源学	2				2			
							2			
		無機化学	2		-			0		
		バイオインフォマティクス	2 2					2		
		化学工業と循環社会			-			2	-	
		食品科学実験 [1				1		-	
		食品科学実験Ⅱ	1		1			1		
		卒業研究	10							10
	バイオテクノロジー	食品製造学	2				2			
	コース必修科目 (28単位)	食品分析学	2				2			
		栄養科学	2				2			
		生物工学	2				2			
		遺伝資源学	2				2			
		無機化学	2				2			
		バイオインフォマティクス	2					2		
		化学工業と循環社会	2					2		
		細胞生物学実験	1		ĺ		1			
		生化学・分子生物学実験	1				İ	1		
		卒業研究	10		İ					10
	応用化学コース	食品製造学	2				2			
	必修科目	食品分析学	2				2			
	(28単位)	栄養科学	2				2			
		生物工学	2				2			
		遺伝資源学	2				2			
		無機化学	2				2			
		バイオインフォマティクス	2		!			2		
		化学工業と循環社会	2		!			2		
		有機化学実験	1				1			
		生体分子化学実験	1					1		
		卒業研究	10					<u> </u>		10
	環境共生システム	食品製造学	2				2			
	コース必修科目	食品分析学	2				2			
	(28単位)	栄養科学	2				2			
		生物工学	2		-		2	-	-	
		遺伝資源学	2		-		2			
		無機化学	2				2			
		無候化子 バイオインフォマティクス	2			_		2	-	
							-	2		
		化学工業と循環社会	2		1					
		環境工学実験	1		-		1	1	-	
		有機化学実験	1	-	-		1	-	-	10
	ज्या की क्षेत्र स्था	卒業研究	10		!					10
	理科教職コース必修		2		:		2	-	-	
	科目 (2000 位)	*教育課程論	2					2		
	(28単位)	*理科教育法Ⅲ	2					2		

					西	当学/	年・与	と期レ	・単位	数	
				1	2	_	4	5			8
区	分	授 業 科 目	単位		 年	-	<u>- 1</u> 年		<u>.</u> 年		年
					後	_	· · · 後		<u>'</u> 後		後
専門必修科目	理科教職コース	*教育制度·行政	2	10.0	124	10.0	12	2		111	.~
(62単位)	必修科目	*教職演習 I	2				2				
	(28単位)	*教職演習Ⅱ	2				-	2			
		*理科教育法Ⅳ	2						2		
		*特別支援教育概論	1				1		_		
		物理学実験	1				1				
		地学実験	1				1		-		
		有機化学実験	1				1				
		卒業研究	10				1			10	-
専門選択科目(3	21.5 単位円上)	◎基礎生物学Ⅰ	2	2						10	$\overline{}$
	科目 専門選択科目	◎基礎生物学Ⅱ	2		2		-				
	コース別必修科目を	◎基礎化学 I	2	2			-				
含む。	7,312 1911 11 12		2		2						
	スと共通の必修科目	◎基礎化学Ⅱ	-		-		-		-		-
は除く。		生物学Ⅱ演習	1		1		-				-
[食品安全学は食	こ品微生物学の単位を	生化学I演習	1			1			-		-
修得していなけれ	れば履修できない]	生化学Ⅱ演習	1				1		-		-
		物理化学	2		2		-		-		\vdash
		エネルギーとリサイクル	2				2				
		環境汚染論	2				2				
		生物有機化学	2						2		
		分子生物学	2					2			
		環境修復論	2					2			
		細胞免疫学	2						2		
		分子構造解析学	2						2		
		植物育種学	2						2		
		環境管理工学	2						2		
		食品安全学	2						2		
		食中毒疫学	2					2			
		食品流通学	2						2		
		食品商品学	2					2			
		公衆衛生学	2						2		
		生物科学	2						2		
		食品の予防コントロール	2				-			2	\vdash
		栄養生理学	2					2			\vdash
		食品微生物学	2				-	2			
							-				
		機能食品科学	2					2			
		発酵醸造学	2						-		
		微生物バイオテクノロジー	2				-	2			
		植物バイオテクノロジー	2				-	2	-		
		動物バイオテクノロジー	2		-		-	2	-		
		酵素化学	2				2				\vdash
		環境科学	2				2	_			\vdash
		環境分析化学	2				<u> </u>	2			
		有機化学Ⅱ	2				2				
		有機合成化学	2					2			
		生体分子化学	2					2			
		教職概論	2	2							
		*教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2		2						
		*理科教育法 I	2			2					
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*教育原論	2					2			
		*生徒・進路指導の理論と方法	2						2		
		*道徳教育の指導法	2				2				
		*学習支援実地演習 I	1		 1						
		*学習支援実地演習Ⅱ	1				: 1				
		環境と情報	2				-	2			\Box
		国際食品ビジネス論	1		-	1	-		-		\vdash
		国际良品ピンイス論 海外ビジネス研修 I	1			1	1				\vdash
		海外ビジネス研修Ⅱ	1			_	1	1	-		\vdash
			2		0			1			\vdash
		b農業ビジネス論 I			2		<u> </u>		<u> </u>		<u>:</u>

				配	当学	年・皇	学期と	単位	数	
	松 拳 切 口	774 CT	1	2	3	4	5	6	7	8
区分	授業科目	単位		年	2	年	3	 年	4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門選択科目(31.5単位以上)	b農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
#は薬学部開講科目 専門選択科目	2 2 4 H H 1 1 1 H	2			2					
には他コースのコース別必修科目を	b経営管理論	2					2			
含む。	b 地域産業ビジネス論	2			2					
│ ただし、自コースと共通の必修利 ┃目は除く。	† b食文化論 I	2			2					
日は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を	b 食文化論 Ⅱ	2			2					
修得していなければ履修できない]	b食品経済学	2				2				
	b産業組織論	2			2					
	b食品・植物資源論	2				2				
	b 食品開発論 I	2				2				
	b食品開発論Ⅱ	2					2			
	b農業経済学	2		:		2				
	b商品デザイン論	2		i				2		
	bコンサルティング論	2						2		
	b知的財産論	2						2		
	b食品製造論	2					2			
	b食品産業の危機管理	2						2		
	b経済と税法	2	2							
	り消費者行動論	2		2						
	b都市経済学	2			2					
	bサービスマーケティング	2				2				
	bビジネスデータ解析	2				2				
	bスマート農業・食品産業	2				2				
	b持続可能性とビジネス	2				2				
	b国際中小企業論	2					2			
	b経済経営データ分析	2					2			
	#薬用植物と生薬	1.5					1.5			
	#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5		
	#生命情報と遺伝子	1.5					1.5			
	#生体の情報伝達	1.5					1.5	-		
	#化学物質と毒性	1.5						1.5		
	#生活環境と健康	1.5						1.5		
	#感染症と薬	1.5					1.5			
	#香粧品の科学	1						1		
	#サプリメントと保健機能食品の科学	1					1	_		
自由科目	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2			2		<u> </u>		\Box	
(教員免許取得関係科目)	教育相談の理論と方法	2			2					
	教育実習事前事後指導	1			<u> </u>		1	: [
	教育実習Ⅰ	2						2	\Box	
	教育実習Ⅱ	2						2	$\overline{}$	
	教職実践演習(中・高)	2					_		\Box	2
	学習支援実地演習Ⅲ	1		!		-			<u> :</u> 	
	子肖文坂美地演省Ⅲ	1		!				-	Ĺ	

教員免許取得関係科目は卒業要件に含まない。

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。 りの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目 #の科目は、薬学部開講科目 ②の科目は、他学部との共通科目

行動経済学、都市経済学は、奇数年度の開講 産業組織論、消費者行動論は、偶数年度の開講

別表第2の1

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	21単位	45単位	56単位 (実験7単位以 上を必ず含む)
教 養 選択科目	8 単位	8単位	12単位
専 門 選択科目		6単位	20単位

別表第2の1付表2

卒業要件単位区分表

区分	<u>ئ</u>	教養科目	専門	1 科 目	合 計
	IJ	秋食竹日	共通科目	コース別科目	
必修科	·目	18.5単位	34単位	28単位	80.5単位
選択科	·目	12単位以上	_	31.5単位以上	43.5単位以上
合	計	30.5単位以上	34単位	59.5単位以上	124単位以上

別表第2の1付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8		
学 年	1	年	2	年	3	年	4年			
学 年	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
必修単位数 (実験科学系)	14	15.5	17	18	5	1	1	0		
学期累積	14	29.5	46.5	64.5	69.5	70.5	80).5		
学 年 計	29).5	3	5	(5	4年			
必修単位数(理科教職)	14	15.5	17	13	8	3	1	0		
学期累積	14	29.5	46.5	59.5	67.5	70.5	80).5		
学 年 計	29).5	3	0	1	1	1	0		
2年次進級単位数		21								
3年次進級単位数				45						
4年次進級単位数						70.5 80.				

別表第1の2 応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表(令和6〔2024〕年度1年次入学生に適用)

	分	授 業 科 目		配当学年・学期と単位数						
区			単位	1	2	_	4		6	7 8
				1	年	2年				4年
					後	前	後		: 後	
教養必修科目		英語 I	1	1		,,,,		,,,,		
(14.5単位)		英語Ⅱ	1		1				\vdash	
		英語Ⅲ	1	-	-	1	-		\vdash	
		英語IV	1		:	1	1		\vdash	
		フレッシャーズ・セミナー	2	2	-		1		\vdash	
		フレッシャース・セミリー 早期体験学習	-	_		\vdash	-	├─	\vdash	
			1	1		_	-	<u> </u>	\vdash	
		生命情報科学演習	0.5	-	0.5	-	-	-	\vdash	
		健康管理	2		2		<u> </u>	<u> </u>		
		キャリア形成実践演習	1	<u> </u>	<u> </u>		1			
		◎情報リテラシー基礎	2	2	:	<u> </u>		<u> </u>		
		◎情報リテラシー応用	2	$oxed{oxed}$	2	<u> </u>		<u> </u>		
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語 I	1		1	1				
(12単位以上)	3単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1		1		1			
		上級リーディング英語	1		1	1				
		TOEIC英語 I	1				1			
		TOEIC英語 II	1					1		
		◎ドイツ語	2		2					
		○中国語	2	_	2				\vdash	
		◎コリア語	2		2		-		\vdash	
		◎ロシア語	2	_	2	_	-		\vdash	
		海外語学研修	1		5	-	1	-	\vdash	
				_	!	 	1	1	\vdash	
	卢斯利 坐式	ビジネス英語	1	_	-	 	-	1	\vdash	
	自然科学系 4単位以上	◎基礎数学	2	2		<u> </u>	-	-	\vdash	
		物理学	2	_	2	<u> </u>	-	<u> </u>	\perp	
		地学	2		2	<u> </u>	-	<u> </u>		
		確率と統計	2	2	-	<u> </u>		<u> </u>		
		気象学	1		1					
		◎昆虫と人のかかわり	1		1					
		◎プログラミング基礎	2		į		2			
	社会・人文科学系	b基礎経済学 I	2	2						
	4 単位以上	b基礎経済学Ⅱ	2		2					
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2	-				\vdash	
		科学技術論	2	2			-		\vdash	
		法学	2	_	2		-		\vdash	
			2	2			-		\vdash	
		歴史学 □マス・メディア論		_	·		-		\vdash	
			1	1	<u> </u>			-	 	
		◎哲学	1	 	1	 	-	<u> </u>	1	
	h . 11 - 41 -	◎文化人類学	1		1		1	<u> </u>	1	<u> </u>
	キャリア教育	職業とキャリア形成 I	1	<u> </u>	<u> </u>	_	1	<u> </u>	لـــــــا	
		◎大学商品開発社会実践演習 I	2	<u> </u>	<u> </u>	_	2	<u> </u>		
		◎大学商品開発社会実践演習 II	2		<u> </u>		2	<u> </u>		
		職業とキャリア形成Ⅱ	1	<u></u>	1			<u> </u>	1	
	体育	◎スポーツ	1	1						
	専門医療薬学系科目	#アロマセラピー	1		1					
専門必修科目 (61単位)		生物学Ⅰ	2	2						
		生物学Ⅱ	2	_	2					
		化学Ⅰ	2	2	.					
		化学 I 演習	1	1	•			†		
		化学Ⅱ	2	+	2		-		-	
		1℃子Ⅱ 化学 II 演習	1	_	1			-	\vdash	
					1		-	-	1	
		有機化学 I	2	 	-	2	-	 	1	<u> </u>
		有機化学I演習	1	<u> </u>	1	1	!	<u> </u>	\vdash	
		生化学 I	2	<u> </u>	<u> </u>	2		<u> </u>		
		生化学Ⅱ	2		!		2		1 1	
		分析化学	2	_	2	\vdash		-		_

	/S			配当学年・学期と単位数								
区		惊 零 利 口	出任	1 2						7 8		
	分	授業科目	単位	1	年			3年		4年		
				前	後	前	. 後	前	後	前:後		
専門必修科目	共通必修科目	機器分析学	2			2						
(61単位)	(34単位)	微生物科学	2			2						
		環境科学 I	2			2						
		食品化学	2			2	-					
		科学技術英語	1						1			
		応用生命科学基礎実験 I	1	1	 		-		_			
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1	-		-					
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1		1		-					
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1							
		応用生命科学基礎実験V	2		1	2	-					
	食品科学コース	食品微生物学	2					2				
	必修科目	良印版生物子 食品製造学					2					
	(27単位)		2		:			2				
		機能食品科学					-	Z				
		食品分析学	2				2					
		栄養科学	2				2					
		発酵醸造学	2		!			2				
		栄養生理学	2					2				
		食品科学実験	1				1					
		食品製造・加工実験	1					1				
		食品安全実験	1		-			1				
		卒業研究	10							10		
	バイオテクノロジー	微生物バイオテクノロジー	2					2				
	コース必修科目 (27単位)	植物バイオテクノロジー	2					2				
		動物バイオテクノロジー	2					2				
		生物工学	2				2					
		植物科学	2				2					
		バイオインフォマティクス	2					2				
		酵素化学	2				2					
		微生物・遺伝子工学実験	1				1					
		植物バイオテクノロジー実験	1				-	1				
		生化学・細胞工学実験	1					1				
		卒業研究	10					_		10		
	 		2		-		2			10		
		有機化学Ⅱ	2				2					
		環境科学Ⅱ	2					2				
		有機合成化学	2				-	2				
コース必修科目 (27単位) 生命環境化学コーラ 必修科目 (27単位)				-		-						
	化学工業とグリーンケミストリー	2				2	2					
	環境分析化学	2					0					
		生体分子化学	2		-		-	2				
		環境工学実験	1		-		1	-				
		有機化学実験	1		-		-	1	_			
		生体分子化学実験	1		!			1				
		卒業研究	10		-					10		
	理科教職コース 必修科目 (27単位)	*教育心理学	2				2					
		*教育課程論	2				<u> </u>	2				
		*理科教育法Ⅱ	2				2					
		*理科教育法Ⅲ	2		!			2				
		*教育制度·行政	2					2				
		*教職演習Ⅰ	2				2					
		*教職演習Ⅱ	2					2				
		物理学実験	1				1					
		地学実験	1				1					
				—				-				
		有機化学実験	1		į.		ì	1		į į		

	+症 Ψ ⊅1 □		配当学年・学期と単位数							
区		出仕	1 2 3					7 8		
ム ガ	授業科目	単位	1年		2年				4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門選択科目(36.5単位以上)	基礎生物学	1	1	İ						
#は薬学部開講科目 専門選択科目	基礎化学 I	1	1	1						
には他コースのコース別必修科目を	基礎化学Ⅱ	1		1						
含む。	生物学Ⅱ演習	1		1						
ただし、自コースと共通の必修科目	生化学 I 演習	1		1	1					
は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を	生化学Ⅱ演習	1				1				
	物理化学	2		2						
修得していなければ履修できない]	資源循環論	2				2				
	環境汚染論	2				2				
	生物有機化学	2		1		-		2		
	分子生物学	2		1			2	-		
	環境修復論	2		1			2	-		
	細胞免疫学	2		1			2			
				1		-		-		
	分子構造解析学	2		1		-		2		
	植物育種学	2		1		-		2		
	廃棄物管理工学	2		1		1		2		
	食品安全学	2		1				2		
	食中毒疫学	2	1	1				2		
	食品流通学	2		1				2		
	食品商品学	2		1			2			
	公衆衛生学	2						2		
	生物科学	2		1				2		
	食品の予防コントロール	2		1					2	
	*理科教育法 I	2		1	2			:		
	*教育原論	2					2			
	*生徒・進路指導の理論と方法	2		1				2		
	*道徳教育の指導法	2		1		2		-		
	国際食品ビジネス論	1		1	1			-		
	海外ビジネス研修Ⅰ	1		1	1	1		-		
	海外ビジネス研修Ⅱ	1		1		1	1	-		
	<i>西</i> /トこノ へ へ 切	2		2			1			
		2				2				
	b農業ビジネス論Ⅱ		-			- 4		-		
	b食品管理論	2		1	2	-	0	-		
	り経営管理論	2		1		-	2	-		
	b地域産業ビジネス論	2		1	2		_			
	b レギュラトリーサイエンス	2					2			
	b 食文化論 I	2		1	2					
	b食文化論Ⅱ	2		1	2					
	b食品経済学	2		1		2		1		
	b産業組織論	2		1	2	-				
	b食品・植物資源論	2			L	2				_
	b 食品開発論 I	2		1		2				
	b食品開発論Ⅱ	2		-			2			
	b農業経済学	2		1		2				
	b商品デザイン論	2		1		1		2		
	bコンサルティング論	2		1			_	2		
	b 知的財産論	2		1				2		
	b食品製造論	2	1	1			2			
	b 食品産業の危機管理	2	1	1		-	_	2		
	世長田産来の危機自生	1.5	1	1			1.5	-		
	#来角値初と生業 #生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5		1		-	-	1.5		
	『#ユ禾C八巛田不伯は物貝、袰刀栄		-	1	_				H	
		1 -	1		1	;	1.5	1		
	#生命情報と遺伝子	1.5	_	1		i	1 -	i		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達	1.5					1.5	-		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達 #化学物質と毒性	1.5 1.5						1.5		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達 #化学物質と毒性 #生活環境と健康	1.5 1.5 1.5						1.5 1.5		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達 #化学物質と毒性	1.5 1.5						1.5 1.5 1.5		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達 #化学物質と毒性 #生活環境と健康	1.5 1.5 1.5						1.5 1.5 1.5		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達 #化学物質と毒性 #生活環境と健康 #薬理作用と薬物治療の基礎	1.5 1.5 1.5 1.5						1.5 1.5 1.5		
	#生命情報と遺伝子 #生体の情報伝達 #化学物質と毒性 #生活環境と健康 #薬理作用と薬物治療の基礎 #神経系の疾患と薬	1.5 1.5 1.5 1.5 1.5				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1.5 1.5	1.5 1.5 1.5		

		配当学年・学期と単						数
区分	 授業科目	単位	1	2	3	4	5 6	7 8
<u></u>		中亚	1	年		年	3年	4年
			前	後	前	後	前後	前後
	‡香粧品の科学	1					1	
	#サプリメントと保健機能食品の科学	1					1	
自由科目	教職概論	2	2					
(教員免許取得関係科目)	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2			2			
	教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2		2				
	理科教育法Ⅳ	2					2	
	教育相談の理論と方法	2			2			
	特別支援教育概論	1				1		
	教育実習事前事後指導	1					1	
	教育実習 I	2					2	
	教育実習Ⅱ	2					2	
	教職実践演習 (中・高)	2						2
	学習支援実地演習 I	1		1				
	学習支援実地演習Ⅱ	1]	L		
	学習支援実地演習Ⅲ	1						1

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

bの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目

◎の科目は、他学部との共通科目

基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講

産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の2付表

別表第1の2と別表第1の1の授業科目の対応表

令和6年度の入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の2の授業科目 (令和6年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度以降の入学生の配当科目)
フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC英語Ⅱ	TOEIC [®] 演習 II
確率と統計	統計学
基礎経済学 I	経済学
基礎経済学Ⅱ	行動経済学
生命倫理	生命・医療倫理
環境科学I	環境概論
植物科学	遺伝資源学
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会
食品科学実験	食品科学実験 I
食品安全実験	食品科学実験Ⅱ
生化学・細胞工学実験	生化学・分子生物学実験
植物バイオテクノロジー実験	細胞生物学実験
基礎生物学	基礎生物学 I
資源循環論	エネルギーとリサイクル
廃棄物管理工学	環境管理工学
環境科学Ⅱ	環境科学

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	52単位 (実験7単位以 上を必ず含む)
教 養 選択科目	8 単位	8単位	8単位
専 門 選択科目		6単位	20単位

別表第2の2付表2

卒業要件単位区分表

	マ	厶	教養科目	専門	1 科 目	合 計
区分		2)	秋食竹日	共通科目	コース別科目	
	必修	科目	14.5単位	34単位	27単位	75.5単位
	選択	科目	12単位以上		36.5単位以上	48.5単位以上
	合	計	26.5単位以上	34単位	63.5単位以上	124単位以上

別表第2の2付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8	
学 年	1	年	2年 3年			3年		年	
子	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修単位数	13	14.5	16	10(11)	10(9)	2	10		
学期累積	13	27.5	43.5	52(53)	62	64	7	4	
学 年 計	27	7.5	26	(27)	12	(11)	10		
2年次進級単位数		15							
3年次進級単位数				41					
4年次進級単位数				·		52			

※カッコ内は理科教職コースのみの単位数です。

別表第1の3 応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表(令和5〔2023〕年度1年次入学生に適用)

					配	当学	年・与	学期と単	位数
			W 11.	1	2		4	5 6	
区	分	授 業 科 目	単位	1	年	2	年	3年	
					後				-
教養必修科目		英語Ⅰ	1	1	100	13.3	100	130 15	110 12
(14.5 単位)		英語Ⅱ	1	1	1		-		
(11.0 - 12.)		英語Ⅲ	1		1	1	-		
		英語IV	1			1	1		
		フレッシャーズ・セミナー	2	2			1		
					:		:		
		早期体験学習	1	1	0.5		-		
		生命情報科学演習	0.5		0.5				
		健康管理	2		2				
		キャリア形成実践演習	1				1	:	
		◎情報リテラシー基礎	2	2			<u> </u>		
		◎情報リテラシー応用	2		2				
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語 I	1			1			
(12単位以上)	3単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1				1		
		上級リーディング英語	1			1			
		TOEIC英語 I	1				1		
		TOEIC英語Ⅱ	1					1	
		◎ドイツ語	2	:	: 2				
		◎中国語	2		2				
		◎コリア語	2		2				
		◎ロシア語	2		2		-		
		海外語学研修	1	-			: 1		
	自然科学系	◎基礎数学	2	2	-		:		
	4 単位以上		2		2				
	4 毕业以上	物理学		2					
		地学	2	_	2		-		
		確率と統計	2	2					
		気象学	1		1				
		◎昆虫と人のかかわり	1		1		<u> </u>		
		◎プログラミング基礎	2				2		
	社会・人文科学系	b 基礎経済学 I	2	2					
	4 単位以上	b基礎経済学Ⅱ	2		2				
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1				
		バイオとフードに関する法律	2		2				
		生命倫理	2	2					
		科学技術論	2	2					
		法学	2		2				
		歴史学	2	2	_				
		◎マス・メディア論	1	1					
		◎哲学	1	_	1		-		
		◎文化人類学	1	_	1		-		
	キャリア教育	職業とキャリア形成 I	1		1		: 1		
	イヤリノ教育								
		◎大学商品開発社会実践演習 I	2				2		
		◎大学商品開発社会実践演習 II	2		-	-	2		
	//	職業とキャリア形成Ⅱ	1		:				
	体育	○ スポーツ	1	1					
	専門医療薬学系科目		1		1		<u> </u>		
専門必修科目	共通必修科目	生物学 I	2	2					
(61単位)	(34単位)	生物学Ⅱ	2		2				
		化学 I	2	2					
		化学 I 演習	1	1					
		化学Ⅱ	2		2				
		化学Ⅱ演習	1		1		:		
		有機化学 I	2			2			
		有機化学 I 演習	1			1			
		生化学 I	2		-	2	-		
		生化学Ⅱ	2		!		2		
		工10千里					: 4		

					配	当学	年・台	学期と	: 単位	数
E7	73	10 W 11 I	777 (T-	1	2		4		6	7 8
区	分	授 業 科 目	単位	1	年	2	年	3	年	4年
				前	後	前	後	前	: 後	前:後
専門必修科目	共通必修科目	分析化学	2		2					
(61単位)	(34単位)	機器分析学	2			2				
		微生物科学	2			2				
		環境科学 I	2			2				
		食品化学	2			2				
		科学技術英語	1		i		:		1	
		応用生命科学基礎実験 I	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	_	1					
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1		 			
		応用生命科学基礎実験V	2		-	2				
	食品科学コース	食品微生物学	2		-		-	2	-	
	必修科目	食品製造学	2		-		2		-	
	(27単位)	機能食品科学	2		-		-	2	-	
	(, ,,	食品分析学	2				2			
			2				2		-	
		宋	2					0		
					-		-			\vdash
		栄養生理学	2					Z	-	\vdash
		食品科学実験	1		!		1	-		\vdash
		食品製造・加工実験	1							
		食品安全実験	1					1	10 22 22 22 22 22 22 21 22 21 22 21 21 22 21 21	
		卒業研究	10							10
	バイオテクノロジー	微生物バイオテクノロジー	2					2		
	コース必修科目	植物バイオテクノロジー	2							
	(27単位)	動物バイオテクノロジー	2					2		
		生物工学	2		1		2			
		植物科学	2		-		2			
		バイオインフォマティクス	2		ĺ			2		
		酵素化学	2				2			
		微生物・遺伝子工学実験	1				1			
		植物バイオテクノロジー実験	1					1		
		生化学・細胞工学実験	1					1		
		卒業研究	10							10
	生命環境化学コース		2				2			
	必修科目	有機化学Ⅱ	2				2			
	(27単位)	環境科学Ⅱ	2					2		
		有機合成化学	2							
		化学工業とグリーンケミストリー	2							
		環境分析化学	2				2		-	
		生体分子化学	2				-	2		
		環境工学実験	1		-		1		-	
		有機化学実験	1				1	1	-	
		生体分子化学実験	1					1		
		卒業研究	10				-	1	-	10
	理科教職コース	半 教育心理学	2				2	-	-	10
	理料教職コース 必修科目							0		
	(27単位)	*教育課程論	2		1			2		
		*理科教育法Ⅱ	2		-		2	0	-	
		*理科教育法Ⅲ	2		-		-	2		\vdash
		*教育制度・行政	2					2		
		*教職演習 I	2		-		2			<u> </u>
		*教職演習 II	2					2		
		物理学実験	1				1			
		地学実験	1		!		1			
		有機化学実験	1					1		
		卒業研究	10							10

			配当学年・学期と単位数						
		W 11-	1	2	_	4	5		7 8
区 分	授業科目	単位	1	年	2	年		年	4年
			前	後	前	後	前	後	前:後
専門選択科目(36.5 単位以上)	基礎生物学	1	1	!					
#は薬学部開講科目 専門選択科目	基礎化学 I	1	1						
には他コースのコース別必修科目を	基礎化学Ⅱ	1		1					
含む。	生物学Ⅱ演習	1		1					
ただし、自コースと共通の必修科目 は除く。	生化学I演習	1		!	1				
「食品安全学は食品微生物学の単位を	生化学Ⅱ演習	1				1			
修得していなければ履修できない]	物理化学	2		2					
	資源循環論	2		<u>.</u>		2			
	環境汚染論	2		į		2			
	生物有機化学	2		į				2	
	分子生物学	2		į			2		
	環境修復論	2		i !			2		
	細胞免疫学	2		į			2		
	分子構造解析学	2		į				2	
	構造生物学とタンパク質工学	2		į			2		
	植物育種学	2						2	
	廃棄物管理工学	2						2	
	食品安全学	2						2	
	食中毒疫学	2						2	
	食品流通学	2						2	
	食品商品学	2		1			2		
	公衆衛生学	2						2	
	生物科学	2						2	
	食品の予防コントロール	2		1					2
	*理科教育法 I	2		1	2				
	*教育原論	2		1			2		
	*生徒・進路指導の理論と方法	2		1				2	
	*道徳教育の指導法	2		1		2			
	国際食品ビジネス論	1		1	1				
	海外ビジネス研修I	1				1			
	海外ビジネス研修Ⅱ	1		į			1		
	b農業ビジネス論 I	2		2					
	b農業ビジネス論Ⅱ	2		!		2			
	b食品管理論	2			2				
	b経営管理論	2		!			2		
	b地域産業ビジネス論	2		į	2				
	bレギュラトリーサイエンス	2					2		
	b食文化論 I	2		<u>.</u>	2				
	b食文化論Ⅱ	2		!	2				
	b食品経済学	2		į		2			
	b産業組織論	2			2				
	b食品・植物資源論	2				2			
	b 食品開発論 I	2				2			
	b食品開発論Ⅱ	2					2		
	b農業経済学	2				2			
	b商品デザイン論	2						2	
	bコンサルティング論	2						2	
	b知的財産論	2						2	
	b食品製造論	2		1			2	_	
	b 食品産業の危機管理	2						2	
	#薬用植物と生薬	1.5					1.5		
	#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5		!				1.5	
	#生命情報と遺伝子	1.5		!			1.5		
	#生体の情報伝達	1.5		_			1.5		
	#化学物質と毒性	1.5		1				1.5	
	#生活環境と健康	1.5					_	1.5	
	#薬理作用と薬物治療の基礎	1.5						1.5	
	#神経系の疾患と薬	1.5					1.5	-	
	#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5		
	#免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	1.5		!		1		1.5	

	配当学年						・学期と単位数					
区	 授 業 科 目	授 業 科 目 単位	1	2	3	4	5 6	7 8				
L M	技术 竹 日	+17	1	年		年	3年	4年				
			前	後	前	後	前後	前後				
	#感染症と薬	1.5					1.5					
	#香粧品の科学	1					1					
	#サプリメントと保健機能食品の科学	1					1					
自由科目	教職概論	2	2									
(教員免許取得関係科目)	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2		2								
	教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2			2							
	理科教育法Ⅳ	2					2					
	教育相談の理論と方法	2			2							
	特別支援教育概論	1				1						
	教育実習事前事後指導	1					1					
	教育実習 I	2					2					
	教育実習Ⅱ	2					2					
	教職実践演習(中・高)	2					i	2				
	学習支援実地演習 I	1]	ĺ								
	学習支援実地演習Ⅱ	1]	1						
	学習支援実地演習Ⅲ	1						i				

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

bの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目

◎の科目は、他学部との共通科目

基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講

産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の3付表

別表第1の3と別表第1の1の授業科目の対応表

令和5年度の入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

が同じ文本作品と版例がある	
別表第1の3の授業科目 (令和5年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度以降の入学生の配当科目)
フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
コミュニケーション英語Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ
コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC英語II	TOEIC [®] 演習 II
確率と統計	統計学
■基礎経済学Ⅰ	経済学
基礎経済学Ⅱ	行動経済学
生命倫理	生命・医療倫理
環境科学Ⅰ	環境概論
植物科学	遺伝資源学
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会
食品科学実験	食品科学実験 I
食品安全実験	食品科学実験Ⅱ
生化学・細胞工学実験	生化学・分子生物学実験
植物バイオテクノロジー実験	細胞生物学実験
基礎生物学	基礎生物学 I
資源循環論	エネルギーとリサイクル
廃棄物管理工学	環境管理工学
環境科学Ⅱ	環境科学

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	52単位 (実験7単位以 上を必ず含む)
教 養 選択科目	8単位	8単位	8 単位
専 門 選択科目		6 単位	20単位

別表第2の3付表2

卒業要件単位区分表

	7 45	教養科目	専門	1 科 目	合 計
区分		秋食 杆日	共通科目	コース別科目	·
必	修科目	14.5単位	34単位	27単位	75.5単位
選	択科目	12単位以上	_	36.5単位以上	48.5単位以上
合	計	26.5単位以上	34単位	63.5単位以上	124単位以上

別表第2の3付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学 期		1	2	3	4	5	6	7	8
学	年	1	年	2	年	3	年	4	年
子	4-	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位	数	13	14.5	16	10(11)	10(9)	2	1	0
学 期 累	積	13	27.5	43.5	52(53)	62	64	7	4
学 年	計	27	7.5	26	(27)	12	(11)	1	0
2年次進級単	位数		15						
3年次進級単	位数				41				
4年次進級単	位数						52		

※カッコ内は理科教職コースのみの単位数です。

別表第1の4 応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表(令和4〔2022〕年度1年次入学生に適用)

					配	当学	年・鳥	学期と単	立数
□	A	極 豊 利 日	出台	1	2	3	4	5 6	7 8
区	分	授業科目	単位	1	年	2	年	3年	4年
				前	後	前	後	前:後	前後
教養必修科目		英語 I	1	1					
(13単位)		英語Ⅱ	1		1				
		英語Ⅲ	1			1			
		英語Ⅳ	1				1		
		フレッシャーズ・セミナー	2	2					
		早期体験学習	1	1					
		生命情報科学概論	1	1					
		生命情報科学演習 I	0.5	0.5					
		生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5				
		健康管理	2		2				
		データサイエンス入門	1		1				
		キャリア形成実践演習	1		-		1	:	
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語 I	1		-	1		1	+ + -
(13単位以上)	3単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1		-		1		
(10 [20,12])		上級リーディング英語	1			1	-		+ + + -
		TOEIC英語 I	1			1	1		+ + -
		TOEIC英語II	1				1	1	
		中国語	2	١.	2			1	+ + -
			2	_	<u> </u>				+ -
		韓国語		4	<u> </u>				+ -
	中かかツボ	海外語学研修	1		-	_	1		
	自然科学系	基礎数学	2	2			-		+ + -
	4 単位以上	物理学	2	-	2		-		
		地学	2		2		-		
		確率と統計	2	2			<u> </u>		
		◎プログラミング基礎	2				2		
	社会・人文科学系	b基礎経済学 I	2	2					1
	4 単位以上	b基礎経済学Ⅱ	2		2				
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1				
		バイオとフードに関する法律	2		2				
		生命倫理	2	2					
		科学技術論	2	2					
		法学	2		2				
		歴史学	2	2			!		
	キャリア教育	職業とキャリア形成I	1				1		
		大学商品開発社会実践演習 I	2			:	2		
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2				2		
		職業とキャリア形成Ⅱ	1		İ			1	
	体育	スポーツ	1	1					
専門必修科目	共通必修科目	生物学 I	2	2					
(61単位)	(34単位)	生物学Ⅱ	2		2				
		化学 I	2	2	İ				
		化学 I 演習	1	1					
		化学Ⅱ	2		2				
		化学Ⅱ演習	1		1				
		有機化学 I	2			2			
		有機化学 I 演習	1		!	1			
		生化学 I	2			2			
		生化学Ⅱ	2		!		2		
		分析化学	2		2				
		機器分析学	2			2			
		微生物科学	2			2			
		環境科学Ⅰ	2			2			
		食品化学	2		-	2	-		
		科学技術英語	1			-	-	1	+ + -
		作子衣州英語 応用生命科学基礎実験 I	1	1			-	1	
		応用生命科学基礎実験Ⅱ 応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1			-		+
		心用工即付于坐唌天駅Ⅱ	1	1				<u> </u>	<u> </u>

					一配	当学	年・自	芝期と	· 単位	数
	_			1			4	5		7 8
区	分	授 業 科 目	単位		 年	-	年	-	 年	4年
				-	後	前	. 後	前	後	前:後
専門必修科目	共通必修科目	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	100	1	100		100	124	
(61単位)	(34単位)	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1					
		応用生命科学基礎実験V	2			2				
	食品科学コース	食品微生物学	2			<u> </u>		2		
	必修科目	食品製造学	2				2			
	(27単位)	機能食品科学	2				-	2		
		食品分析学	2				2			
		栄養科学	2				2			
		発酵醸造学	2				- 4	2		
		栄養生理学	2					2		
		食品科学実験	1				1			
			_				1	,		
		食品製造・加工実験	1				-	1		
		食品安全実験	1				-	1		10
		卒業研究	10				-	_		10
	バイオテクノロジー	微生物バイオテクノロジー	2					2		
	コース必修科目	植物バイオテクノロジー	2					2		
	(27単位)	動物バイオテクノロジー	2					2		
		生物工学	2				2			
		植物科学	2				2			
		バイオインフォマティクス	2					2		
		酵素化学	2				2			
		微生物・遺伝子工学実験	1				1			
		植物バイオテクノロジー実験	1					1		
		生化学・細胞工学実験	1					1		
		卒業研究	10							10
	生命環境化学コース	無機化学	2				2			
	必修科目	有機化学Ⅱ	2				2			
	(27単位)	環境科学Ⅱ	2					2		
		有機合成化学	2					2		
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2		
		環境分析化学	2				2			-
		生体分子化学	2				-	2		
		環境工学実験	1				1			
		有機化学実験	1				1	1		-
		生体分子化学実験	1					1	_	
		卒業研究	10					1		10
	理科教職コース		2			_	2			10
	連件教職コース 必修科目	*教育心理学						0		
	(27単位)	*教育課程論	2	-			2	2		
		*理科教育法Ⅱ	2	-		-		0		
		*理科教育法Ⅲ ************************************	2				-	2		
		*教育制度・行政	2					2		
		*教職演習Ⅰ	2				2			
		*教職演習Ⅱ	2				-	2		
		物理学実験	1				1			
		地学実験	1				1			
		有機化学実験	1					1		
		卒業研究	10							10
専門選択科目(基礎生物学	1	1						
	科目 専門選択科目	基礎化学 I	1	1						
	コース別必修科目を	基礎化学Ⅱ	1		1					
含む。	フレサスのツばかり	生物学Ⅱ演習	1		1					
	スと共通の必修科目	生化学 I 演習	1			1				
は除く。	食品微生物学の単位を	生化学Ⅱ演習	1				1			
	している。 は配性を関する。 は配性をできない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 は	物理化学	2		2					
1919 しくいなり	4 いる限別でしさない。	資源循環論	2				2			
		環境汚染論	2				2			
		生物有機化学	2				-		2	
		14 14 14 10 1					:			

					一配	当学:	年・与	- 対期と	· 単位	数	
	_			1	2	_	4	5			8
区	分	授 業 科 目	単位			_	年		年	4	
							. 後		後	前	
専門選択科目(37単位以上	-)	分子生物学	2	13.5	122	11.0	112	2	-	13.3	12
#は薬学部開講科目 専		環境修復論	2					2			-
には他コースのコース別		細胞免疫学	2					2	_		<u> </u>
含む。		分子構造解析学	2				! 		2		-
ただし、自コースと共通	の必修科目	構造生物学とタンパク質工学	2				-	2			
は除く。		植物育種学	2				-		2		-
[食品安全学は食品微生物		一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個	2				-		2		-
修得していなければ履修で	『きない 』	食品安全学	2						2		
		食中毒疫学	2						2		
		 段下毋匁于 	2						2		-
		食品商品学	2			_		2			<u> </u>
											-
		公衆衛生学	2				-		2		-
		生物科学	2				-		2	- 0	
		食品の予防コントロール	2				-			2	-
		*理科教育法 I	2			2	1	-			-
		*教育原論	2	-			1	2			-
		*生徒・進路指導の理論と方法	2				-		2		-
		*道徳教育の指導法	2				2				<u> </u>
		国際食品ビジネス論	1			1					
		海外ビジネス研修 I	1				1				
		海外ビジネス研修Ⅱ	1					1			
		b農業ビジネス論 I	2		2						
		b農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
		b食品管理論	2			2					
		b経営管理論	2					2			
		b地域産業ビジネス論	2			2					
		b レギュラトリーサイエンス	2					2			
		b 食文化論 I	2			2	:				
		b食文化論Ⅱ	2			2					
		b食品経済学	2				2				
		b産業組織論	2			2					
		b食品・植物資源論	2				2				
		b食品開発論I	2				2				
		b食品開発論Ⅱ	2				-	2			-
		b農業経済学	2				2				
		b商品デザイン論	2				- 4		2		
		bコンサルティング論	2						2		-
		1111									-
		り知的財産論	2					0	2		
		b 食品製造論		-			:	2	_		-
		b 食品産業の危機管理	2	_			-		2		-
		井薬用植物と生薬	1.5				!	1.5	_		-
		#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5		-
		#生命情報と遺伝子	1.5				-	1.5			-
		#生体の情報伝達	1.5				-	1.5	_		
		#化学物質と毒性	1.5					_	1.5		
		#地球・生活環境と健康	1.5						1.5		!
		#薬理作用と薬物治療の基礎	1.5				1		1.5		
		#神経系の疾患と薬	1.5					1.5			
		#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5			
		#免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	1.5						1.5		
		#感染症と薬	1.5					1.5			
		#香粧品の科学	1						1		
		#サプリメントと保健機能食品の科学	1				:	1			
		教職概論	2	2							
自由科目		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		2		:				
		特別百里//又()・総合的な子音の飛音のが過去が		1			-	-			-
						2	1				1
		教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2			2			9		
自由科目 (教員免許取得関係科目)		教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む) 理科教育法IV	2 2						2		
		教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2			2	1		2		

	分						配当学年・学期と単位数									
X			授 業		I	単位	1	2	3 4	5 6	7 8					
			未	科	Ħ	中亚	1年		2年	3年	4年					
							前	後	前後	前後	前後					
		教育実習 I				2					2					
		教育実習Ⅱ				2					2					
自由科目		教職実践演習(中	・高)			2					2					
(教員免許取得関係科目)		学習支援実地演習	Ι			1]	Ĺ								
		学習支援実地演習	II			1			1							
		学習支援実地演習]	1			1				1						

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

bの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目 基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講 産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の4付表

別表第1の4と別表第1の1・1の2・1の3の授業科目の対応表

令和4年度の入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の授業科目で読み替えるものとし、「別表第1の2・1の3の授業科目」欄も開講されていない場合は、同表「別表第1の1の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の4の授業科目 (令和4年度入学生の配当科目)	別表第1の2・1の3の授業科目 (令和5年度以降入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度以降入学生の配当科目)
フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
生命情報科学概論	 - 情報リテラシー基礎	 情報リテラシー基礎
生命情報科学演習 I	旧秋リアノン 金炭	旧秋リアノン
生命情報科学演習Ⅱ	生命情報科学演習	生命情報科学演習
韓国語	コリア語	コリア語
コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC 英語 II	TOEIC英語Ⅱ	TOEIC [®] 演習 II
確率と統計	確率と統計	統計学
基礎経済学 I	基礎経済学 I	経済学
基礎経済学Ⅱ	基礎経済学Ⅱ	行動経済学
生命倫理	生命倫理	生命・医療倫理
環境科学 I	環境科学 I	環境概論
植物科学	植物科学	遺伝資源学
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会
食品科学実験	食品科学実験	食品科学実験 I
食品安全実験	食品安全実験	食品科学実験Ⅱ
植物バイオテクノロジー実験	植物バイオテクノロジー実験	細胞生物学実験
生化学・細胞工学実験	生化学・細胞工学実験	生化学・分子生物学実験
基礎生物学	基礎生物学	基礎生物学 I
資源循環論	資源循環論	エネルギーとリサイクル
廃棄物管理工学	廃棄物管理工学	環境管理工学
環境科学Ⅱ	環境科学Ⅱ	環境科学
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法
地球・生活環境と健康	生活環境と健康	生活環境と健康

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	52単位 (実験7単位以 上を必ず含む)
教 養 選択科目	8単位	8単位	8 単位
専 門 選択科目		6単位	20単位

別表第2の4付表2

卒業要件単位区分表

区	分	教養科目	専門] 科 目	合 計
	71	秋食竹日	共通科目	コース別科目	
必修	科目	13単位	34単位	27単位	74単位
選択	科目	13単位以上		37単位以上	50単位以上
合	計	26単位以上	34単位	64単位以上	124単位以上

別表第2の4付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学	期	1	2	3	4	5	6	7	8
学	年	1	年	2	年	3	年	4	年
子	4-	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修	单位数	12.5	13.5	16	10(11)	10(9)	2	1	0
学 期	累 積	12.5	26	42	52(53)	62	64	7	4
学	丰 計	2	6	26	(27)	12	(11)	1	0
2年次進	級単位数		15						
3年次進	級単位数				41				
4年次進	級単位数						52		

※カッコ内は理科教職コースのみの単位数です。

別表第1の5 応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表(令和3〔2021〕年度1年次入学生に適用)

					配	当学:	年・学期と単		- 単位	数	
				1	2		4		6	7	8
区	分	授 業 科 目	単位		年	_	 车		<u></u> 年	4 1	
					後		- 後		- 後		
教養必修科目		英語 I	1	1	1/2	וינו	1/2	HU	1/2	HU	12
(13単位)		英語Ⅱ	1	_	1				-		
(10-12)		英語Ⅲ	1		1	1				\vdash	
			1		1	1	.		-	 	
		英語Ⅳ			!		1		-	\vdash	
		初年次セミナー	3	3	:		-		-		
		生命情報科学概論	1		1						
		生命情報科学演習I	0.5	0.5				L		<u> </u>	
		生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5						
		健康管理	2		2						
		データサイエンス入門	1		1		1				
		キャリア形成実践演習	1		! !		1				
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語I	1		1	1					
(13単位以上)	3 単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1		:		1				
		上級リーディング英語	1			1					
		TOEIC英語 I	1				1				
		TOEIC英語Ⅱ	1					1			
		中国語	2		: 2						
		韓国語	2	_	2				-	 	
		海外語学研修	1	- 4	:		1		-	 	
	ウかが ※ 素				!		1		-	\vdash	
	自然科学系	基礎数学	2	2			-		-		
	4 単位以上	物理学	2	1	2			<u> </u>	-	-	
		地学	2		2			<u> </u>			
	社会・人文科学系 4単位以上	確率と統計	2	2	1						
		◎プログラミング基礎	2		1		2				
		b 基礎経済学 I	2	2							
		b基礎経済学Ⅱ	2		2						
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1						
		バイオとフードに関する法律	2		2						
		生命倫理	2	2	-				-		
		科学技術論	2	2	!						
		法学	2	-	2		-		-		
		歴史学	2	2						 	
	よ、ロマル方		_		:		1		-	 	
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1		!		1		-	\vdash	
		大学商品開発社会実践演習I	2		!		2	<u> </u>	-	⊢	
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2		!	_	2	Ь—	-	-	
		職業とキャリア形成Ⅱ	1		1				1		
	体育	スポーツ	1		1			Щ.			
専門必修科目	共通必修科目	生物学Ⅰ	2	2	1						
(61単位)	(34単位)	生物学Ⅱ	2		2			L		L	
		化学 I	2	2	į						
		化学 I 演習	1	1	:						
		化学Ⅱ	2		2		1		:		
		化学Ⅱ演習	1		1						
		有機化学 I	2		-	2			-		
		有機化学 I 演習	1		!	1	-	-	-	 	
								-		 	
		生化学 I	2	-	-	2			-	 	
		生化学Ⅱ	2		-		2	<u> </u>	-	 	
		分析化学	2		2			<u> </u>		<u> </u>	
		機器分析学	2		1	2		Щ.		\sqcup	
		微生物科学	2		1	2					
		環境科学I	2		1	2				LI	
		食品化学	2		i !	2	-				
		科学技術英語	1		1				1		_
		応用生命科学基礎実験 I	1	1					_		
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1	:		-	<u> </u>	-	 	
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	_	1				-		
			_					-		\vdash	
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	-	1	_	-		-	 	
		応用生命科学基礎実験V	2	1	1	2	1		1	1 1	

(61単位)	分 食品科学コース 必修科目 (27単位)	授 業 科 目 食品微生物学 食品製造学 機能食品科学	単位 2 2	1	2 年 後	3	4 年 後	5	年	7	年	
専門必修科目(61単位)	食品科学コース必修科目	食品微生物学食品製造学	2			_		_		<u> </u>	<u> </u>	
(61単位)	必修科目	食品製造学		前	後	前	後	前	: 後	前	-	
(61単位)	必修科目	食品製造学							! !~	130	後	
			2					2				
	(27単位)	機能食品科学					2					
			2					2				
		食品分析学	2				2					
		栄養科学	2				2					
	_		発酵醸造学	2					2			
		栄養生理学	2					2				
		食品科学実験	1				1					
		食品製造・加工実験	1					1				
		食品安全実験	1					1				
		卒業研究	10							10		
1	バイオテクノロジー	微生物バイオテクノロジー	2					2				
	コース必修科目	植物バイオテクノロジー	2					2				
	(27単位)	動物バイオテクノロジー	2					2				
		生物工学	2				2					
		植物科学	2				2					
		バイオインフォマティクス	2					2				
		酵素化学	2				2					
		微生物・遺伝子工学実験	1				1					
		植物バイオテクノロジー実験	1				1	1				
		生化学・細胞工学実験	1					1				
		卒業研究	10					1		10	—	
	生命環境化学コース	無機化学	2				2			10		
	生の環境化チュース 必修科目	有機化学Ⅱ	2				2					
	(27単位)	環境科学Ⅱ	2					2				
		有機合成化学	2				_	2				
			_					2				
		化学工業とグリーンケミストリー	2				2	Z				
		環境分析化学			-			- 0				
		生体分子化学	2				1	2				
		環境工学実験	1				1	_		 		
		有機化学実験	1				-	1		 		
		生体分子化学実験	1					1		ٺــــــ		
ļ.		卒業研究	10							10		
	理科教職コース	*教育心理学	2				2			\vdash		
	必修科目	*教育課程論	2					2		<u> </u>		
	(27単位)	*理科教育法Ⅱ	2				2			<u> </u>		
		*理科教育法Ⅲ	2					2				
		*教育制度·行政	2					2		اٰــــــــا		
		*教職演習 I	2				2			<u> </u>		
		*教職演習Ⅱ	2		!			2				
		物理学実験	1				1					
		地学実験	1				1				<u>. </u>	
		有機化学実験	1					1				
		卒業研究	10							10		
専門選択科目(37		基礎生物学	1	1								
	斗目 専門選択科目	基礎化学 I	1	1								
The state of the s	コース別必修科目を	基礎化学Ⅱ	1		1							
含む。		生物学Ⅱ演習	1		1							
	スと共通の必修科目	生化学I演習	1			1						
は除く。	日御片肺学の光片ナ	生化学Ⅱ演習	1				1					
修得していなけれ	品微生物学の単位を は関修できない	物理化学	2		2							
10月0 (いなりれ	いる方でしてい	資源循環論	2				2					
		環境汚染論	2				2					
		生物有機化学	2				_		2			
		分子生物学	2					2	_			
		環境修復論	2					2				
		細胞免疫学	2					2				
		分子構造解析学	2						2			
		構造生物学とタンパク質工学	2					2				
		植物育種学	2				-		2			

					配	当学	年・皇	- 学期と	:単位	.数	
E		les alle tal))/ (I-	1	2	_	4	1	6		8
区 分		授業科目	単位	1	年	2	年	3	年	4	年
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門選択科目(37単位以上)		廃棄物管理工学	2						2		
#は薬学部開講科目 専門		食品安全学	2						2		
には他コースのコース別必	修科目を	食中毒疫学	2		!				2		
含む。	か 極 が ロ	食品流通学	2		1				2		
ただし、自コースと共通の	必修科目	食品商品学	2		1			2			
は除く。 [食品安全学は食品微生物学	かの単位を	公衆衛生学	2		i				2		
修得していなければ履修でき		生物科学	2		!				2		
		食品の予防コントロール	2		:					2	
		*理科教育法 I	2			2					
		*教育原論	2		1			2			
		*生徒・進路指導の理論と方法	2		:				2		
		*道徳教育の指導法	2		:				2		-
		国際食品ビジネス論	1		!	1					
		海外ビジネス研修 I	1				1				
		海外ビジネス研修Ⅱ	1					1			
		b農業ビジネス論 I	2		2			1			-
		b 農業ビジネス論 II	2		_		2				
		り食品管理論	2			2	-				-
		b 経営管理論	2		:	-		2			-
		b地域産業ビジネス論	2		:	2			-		-
		bレギュラトリーサイエンス	2		!		-	2	-		-
		b食文化論 I	2		1	2					-
		b食文化論Ⅱ	2			2			-		-
			2		!		2				-
		り食品経済学			:	2	- 4		:		!
		b 産業組織論 L の日 - 技物の運動	2		:		-		-		
		b 食品・植物資源論	2		!		2		-		
		b食品開発論 I	2		:		2	0	-		
		b食品開発論Ⅱ	2		:			2	-		
		り農業経済学	2		1		2				-
		b商品デザイン論	2		1		1		2		-
		bコンサルティング論	2		!				2		-
		b 知的財産論	2					_	2		-
		b食品製造論	2		!			2	-		<u> </u>
		b食品産業の危機管理	2						2		<u> </u>
		井薬用植物と生薬	1.5		!			1.5			
		#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5		!				1.5		<u> </u>
		#生命情報と遺伝子	1.5		1			1.5			
		#生体の情報伝達	1.5		!			1.5			
		#化学物質と毒性	1.5						1.5		
		#地球・生活環境と健康	1.5		1				1.5		
		‡薬理作用と薬物治療の基礎	1.5		!				1.5		
		#神経系の疾患と薬	1.5					1.5			
		#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5			
		#免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	1.5						1.5		
		#感染症と薬	1.5		1			1.5			
		#香粧品の科学	1						1		
		#サプリメントと保健機能食品の科学	1		:			1			
自由科目		教職概論	2	2	1						
(教員免許取得関係科目)		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		2						
		教育方法論	2		: : :	2	:				-
		理科教育法Ⅳ	2		:				2		-
		教育相談の理論と方法	2			2					
		特別支援教育概論	1			Ť	1				:
		教育実習事前事後指導	1		!		1				1
		教育実習I	2		:				-		2
		教育実習Ⅱ	2		:		-		-	_	<u>2</u> 2
		教順実践演習(中・高)	2		1		-			<u> </u>	2
			1	-	1		-		-		
		学習支援実地演習 I			1		1				-
		学習支援実地演習Ⅱ	1		:	_	1		1	-	<u> </u>
		学習支援実地演習Ⅲ	1				1		1		<u>: </u>

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

bの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目 基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講 産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の5付表

別表第1の5と別表第1の1・1の2・1の3・1の4の授業科目の対応表

令和3年度の入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の4の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の4の授業科目」欄も開講されていない場合は、同表の「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、同表の「別表第1の2・1の3の授業科目」欄のも開講されていない場合は、同表の「別表第1の1の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の5の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の4の授業科目 (令和4年度入学生の配当科目)	別表第1の2・1の3の授業科目 (令和5年度以降入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度以降の入学生の配当科目)
in to the 1 and	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
初年次セミナー	早期体験学習	早期体験学習	早期体験学習
生命情報科学概論		はおりっここ サ7株	
生命情報科学演習 I	情報リテラシー基礎	情報リテラシー基礎 	情報リテラシー基礎
生命情報科学演習Ⅱ	生命情報科学演習	生命情報科学演習	生命情報科学演習
韓国語	韓国語	コリア語	コリア語
コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC 英語 II	TOEIC英語 II	TOEIC英語 II	TOEIC [®] 演習 Ⅱ
確率と統計	確率と統計	確率と統計	統計学
基礎経済学 I	基礎経済学 I	基礎経済学 I	経済学
基礎経済学Ⅱ	基礎経済学Ⅱ	基礎経済学Ⅱ	行動経済学
生命倫理	生命倫理	生命倫理	生命・医療倫理
環境科学Ⅰ	環境科学Ⅰ	環境科学Ⅰ	環境概論
植物科学	植物科学	植物科学	遺伝資源学
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会
食品科学実験	食品科学実験	食品科学実験	食品科学実験 I
食品安全実験	食品安全実験	食品安全実験	食品科学実験Ⅱ
植物バイオテクノロジー実験	植物バイオテクノロジー実験	植物バイオテクノロジー実験	細胞生物学実験
生化学・細胞工学実験	生化学・細胞工学実験	生化学・細胞工学実験	生化学・分子生物学実験
基礎生物学	基礎生物学	基礎生物学	基礎生物学 I
資源循環論	資源循環論	資源循環論	エネルギーとリサイクル
廃棄物管理工学	廃棄物管理工学	廃棄物管理工学	環境管理工学
環境科学Ⅱ	環境科学Ⅱ	環境科学Ⅱ	環境科学
教育方法論	教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)
地球・生活環境と健康	地球・生活環境と健康	生活環境と健康	生活環境と健康

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	52単位 (実験7単位以 上を必ず含む)
教 養 選択科目	8単位	8単位	8 単位
専 門 選択科目		6 単位	20単位

別表第2の5付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学年	1	年	2	年	3	年	4	年
子	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	12.5	13.5	16	10(11)	10(9)	2	1	0
学期累積	12.5	26	42	52(53)	62	64	7	4
学 年 計	2	6	26	(27)	12	(11)	1	0
2年次進級単位数		15						
3年次進級単位数				41				
4年次進級単位数						52		

※カッコ内は理科教職コースのみの単位数です。

別表第2の5付表2 卒業要件単位区分表

専門科目 区 分 教養科目 合 計 共通科目 コース別科目 必修科目 13単位 34単位 27単位 74単位 選択科目 13単位以上 37単位以上 50単位以上 計 26単位以上 34単位 64単位以上 124単位以上

別表第1の6

応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表

(平成31〔2019〕年度及び令和2〔2020〕年度1年次入学生に適用、ただし平成30〔2018〕年度入学生の休学生を含む)

					配	当学	年・台	学期 と	: 単位	数
□	Z,	1位 希 7/1 日	777 T-	1	2	3	4	5	6	7 8
<u> X</u>	分	授業科目	単位	1	年	2	年	3	年	4年
				前	後	前	後	前	: 後	前後
教養必修科目		英語 I	1	1						
(12単位)		英語Ⅱ	1		1					
		英語Ⅲ	1			1				
		英語Ⅳ	1				1			
		初年次セミナー	3	3					1	
		生命情報科学概論	1	1						
		生命情報科学演習 I	0.5	0.5						
		生命情報科学演習 Ⅱ	0.5		0.5					
		健康管理	2		2					
		キャリア形成実践演習	1				1			
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語 I	1			1				
(14単位以上)	3 単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1				1			
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語 I	1				1			
		TOEIC 英語 II	1					1		
		中国語	2	:	2					
		韓国語	2	:	2					
		海外語学研修	1				: 1			
	自然科学系	基礎数学	2	2						
	4 単位以上	物理学	2	_	2					
		地学	2		2					
선 천 4		確率と統計	2	2						
		◎プログラミング基礎	2				: 2			
	社会・人文科学系	基礎経済学	2	2						
	4 単位以上	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
	キャリア教育	職業とキャリア形成 I	1				i			
		大学商品開発社会実践演習I	2				2			
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2				2			
2 文養選択科目 14単位以上) 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「		職業とキャリア形成Ⅱ	1						1	
	体育	スポーツ	1		1					
専門必修科目	共通必修科目	生物学 I	2	2						
(77単位)	(47単位)	生物学Ⅰ演習	1	1						
		生物学Ⅱ	2		2					
攻養選択科目 514単位以上) 14単位以上) 14単位以上) 14単位以上) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		生物学Ⅱ演習	1		1					
		化学 I	2	2						
		化学 I 演習	1	1						
		化学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅱ演習	1		1					
		無機化学	2				2			
		有機化学Ⅰ	2			2				
		有機化学Ⅰ演習	1			1				
		有機化学Ⅱ	2				2			
		生化学 I	2			2				
		生化学Ⅱ	2				2			
		物理化学	2		2		_			
		分析化学	2		2					
		機器分析学	2		-			2		
		微生物科学	2			2		_		
		分子生物学	2	 	-	<u> </u>		2	-	

					- 配	当学	年・与	- 学期 と	:単位	数	
F	73	1호 뿐 전 [7	334 AL-	1	2	_	4	5		7	8
K K	バイオ工学コース 必修科目	授 業 科 目	単位	1	年	2	年	3	年	4	年
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目	共通必修科目	生物工学	2				2				
(77単位)	(47単位)	環境科学I	2			2					
		食品化学	2			2					
		応用生命科学特別講義	2					2			
		科学技術英語	1						1		
		応用生命科学基礎実験 I	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1							
	科目 共通必修科目	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	_	1						-
		応用生命科学基礎実験IV	1		1						-
		応用生命科学入門実験	1			1	-		\vdash		-
	バイナ工学コーフ	微生物バイオテクノロジー	2			1		2	\vdash		-
		植物バイオテクノロジー	2				2		-		-
	バイオ工学コース 必修科目 (30単位) 環境科学コース 必修科目						Z	0	\vdash		-
	(30年1年)	動物バイオテクノロジー	2					2			-
		植物科学	2				2				<u> </u>
		有機合成化学	2				<u> </u>	2			<u> </u>
		細胞免疫学	2					2			:
		バイオインフォマティクス	2					2			
		酵素化学	2				2				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			-
		卒業研究	10				-	1	\vdash	10	
	必修科目	環境科学Ⅱ	2				2			10	:
		資源循環論	2				2				-
	必修科目		2				- 4	2	-		-
		バイオインフォマティクス					-				-
		有機合成化学	2					2			-
		微生物バイオテクノロジー	2					2			
		環境汚染論	2				2				
		環境修復論	2					2			!
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		環境工学実験	1					1			
		有機化学実験	1					1			:
		卒業研究	10							10	
	食品科学コース	食品微生物学	2				 	2			:
	型科教職コース 必修科目	食品製造学	2				-	2			-
		機能食品科学	2				-	2			-
			$\frac{2}{2}$				2		\vdash		-
		食品分析学		-		_	-	-	-		-
		栄養科学	2	-			2		\vdash		<u> </u>
		発酵醸造学	2				-	2	-		-
		酵素化学	2				2				<u> </u>
		栄養生理学	2					2			
		食品分析実験	1				1				!
		食品機能実験	1				1				
		食品製造・加工実験	1					1			
		食品安全実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
		*教育心理学	2				2				
		*教育課程論	2					2			
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*理科教育法Ⅲ	2				-	2	+		-
			2					2	\vdash		-
		*教育原論				-	<u> </u>				
		*教育制度・行政	2	_	-			2	\vdash		-
		*教職演習Ⅰ	2		:		2	_	\vdash		<u> </u>
		*教職演習Ⅱ	2					2			<u> </u>
		物理学実験	1		}		1		;]		1

					配	当学	年・4	学期と	・単位	- 数
				1	2	_	4		6	7 8
区	分	授 業 科 目	単位		<u></u> 年	-	<u>: 1</u> 年	-	<u>:</u> 年	4年
					後	_	. 後		<u>'</u> 後	前後
専門必修科目	理科教職コース	地学実験	1	130	12	130	1	130	12	110 12
(77単位)	必修科目	有機化学実験	1				-	1		
	(30単位)	生化学・細胞工学実験	1		-		1	1	-	
		卒業研究	10		:			-		10
専門選択科目(基礎生物学 I	1	1	1		1		-	10
	\$科目 専門選択科目	基礎生物学Ⅱ	1	-	1					
	コース別必修科目を	基礎化学 I	1	1	1		-		-	
含む。		基礎化学Ⅱ	1	1	1		1			
ただし、自コー	スと共通の必修科目	生物有機化学	2		1				2	
は除く。		分子構造解析学	2		!				2	
[食品安全学は食	食品微生物学の単位を		2		:		-	2		
修得していなけ	れば履修できない]	構造生物学とタンパク質工学							0	
		植物育種学	2		!		-		2	
		廃棄物管理工学	2		!		-		2	
		食品安全学	2		1		-		2	
		食中毒疫学	2		1		1		2	
		食品流通学	2		1		-	_	2	
		食品商品学	2		:		1	2	-	
		公衆衛生学	2						2	
		生物科学	2		!		1		2	
		食品の予防コントロール	2							2
		★理科教育法 I	2		1	2				
		*生徒・進路指導の理論と方法	2		1		1		2	
		*道徳教育の指導法	2		1		1		2	
		国際食品ビジネス論	1		1	1				
		海外ビジネス研修I	1		1		1			
		海外ビジネス研修Ⅱ	1		!			1		
		食品管理論	2		İ	2				
		食文化論 I	2		!	2				
		食文化論Ⅱ	2		1	2				
		食品・植物資源論	2		1		2			
		食品開発論 I	2				2			
		食品産業の危機管理	2		!				2	
		#薬用植物と生薬	1.5		1			1.5		
		#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5		!				1.5	
		#生命情報と遺伝子	1.5					1.5		
		#生体の情報伝達	1.5					1.5		
		#化学物質と毒性	1.5						1.5	
		井地球・生活環境と健康	1.5		:			1	1.5	
		井薬理作用と薬物治療の基礎	1.5		!				1.5	
		#神経系の疾患と薬	1.5		!			1.5	-	
		#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5		
		#免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	1.5		1				1.5	
		#感染症と薬	1.5		1		1	1.5	-	
		井香粧品の科学	1.5		!			1.0	1	
		# 世 元 品 の 日 子	1		:			1	-	
自由科目		教職概論	2	2	1		1	1	-	
(教員免許取得]	関係科目)	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	4	2		-			
(JAZAZIERI FIXITIZI	**************************************	教育方法論	2			2	-			
		理科教育法IV	2		:		-		2	
			2		1	2		-		
		教育相談の理論と方法	1		:		1			
		特別支援教育概論					1			1
		教育実習事前事後指導	1		<u> </u>		1	-		1
		教育実習Ⅰ	2		!		-	1		2
		教育実習Ⅱ	2		1		-			2
		教職実践演習(中・高)	2							2
		学習支援実地演習 I	1		1		<u> </u>			
		学習支援実地演習Ⅱ	1				1	<u> </u>		
		学習支援実地演習Ⅲ	1	1	1	I	1	1 .	1	1 1

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。 #の科目は、薬学部開講科目 ②の科目は、他学部との共通科目

別表第1の6付表

別表第1の6と別表第1の1・1の2・1の3・1の4・1の5の授業科目の対応表

平成31年度及び令和2年度の入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の5の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の5の授業科目」欄も開講されていない場合は、同表の「別表第1の4の授業科目」欄の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の4の授業科目」欄も開講されていない場合は、「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、同表の「別表第1の2・1の3の授業科目」欄も開講されていない場合は、同表「別表第1の1の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

	別表第1の5の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)		別表第1の2・1の3の授業科目 (令和5年度以降入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度以降の入学生の配当科目)
DIAT Volume	如在地上下上	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
初年次セミナー	初年次セミナー	早期体験学習	早期体験学習	早期体験学習
生命情報科学概論	生命情報科学概論	生命情報科学概論	情報リテラシー基礎	情報リテラシー基礎
生命情報科学演習 I	生命情報科学演習 I	生命情報科学演習 I	開報リアノノ一座帳	
生命情報科学演習Ⅱ	生命情報科学演習Ⅱ	生命情報科学演習Ⅱ	生命情報科学演習	生命情報科学演習
韓国語	韓国語	韓国語	コリア語	コリア語
コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC英語Ⅱ	TOEIC英語 II	TOEIC 英語 II	TOEIC 英語 II	TOEIC [®] 演習 II
確率と統計	確率と統計	確率と統計	確率と統計	統計学
基礎経済学	基礎経済学 I	基礎経済学 I	基礎経済学 I	経済学
生命倫理	生命倫理	生命倫理	生命倫理	生命・医療倫理
生物学 I	生物学 I	生物学Ⅱ	生物学Ⅱ	生物学Ⅱ
生物学Ⅰ演習	生物学Ⅰ演習	生物学Ⅱ演習	生物学Ⅱ演習	生物学Ⅱ演習
環境科学 I	環境科学 I	環境科学Ⅰ	環境科学 I	環境概論
植物科学	植物科学	植物科学	植物科学	遺伝資源学
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会
食品分析実験	食品科学実験	食品科学実験	食品科学実験	食品科学実験 I
食品安全実験	食品安全実験	食品安全実験	食品安全実験	食品科学実験Ⅱ
植物バイオテクノロジー実験	植物バイオテクノロジー実験	植物バイオテクノロジー実験	植物バイオテクノロジー実験	細胞生物学実験
生化学・細胞工学実験	生化学・細胞工学実験	生化学・細胞工学実験	生化学・細胞工学実験	生化学・分子生物学実験
基礎生物学 I	基礎生物学	基礎生物学	基礎生物学	基礎生物学 I
資源循環論	資源循環論	資源循環論	資源循環論	エネルギーとリサイクル
廃棄物管理工学	廃棄物管理工学	廃棄物管理工学	廃棄物管理工学	環境管理工学
環境科学Ⅱ	環境科学Ⅱ	環境科学Ⅱ	環境科学Ⅱ	環境科学
教育方法論	教育方法論	教育方法論	教育方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)	教育方法及び技術(情報通信技術の活用含む)
地球・生活環境と健康	地球・生活環境と健康	地球・生活環境と健康	生活環境と健康	生活環境と健康
免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	18単位 (実験 4 単位を 必ず含む)	47単位 (実験 7 単位を 必ず含む)	66単位 (実験9単位を 必ず含む)
教 養 選択科目	8単位	8単位	8 単位

別表第2の6付表2

卒業要件単位区分表

区	分	教養科目	専門	1 科 目	合計
	71	秋食竹日	共通科目	コース別科目	百百
必修	科目	12単位	47単位	30単位	89単位
選択	科目	14単位以上	_	21単位以上	35単位以上
合	計	26単位以上	47単位	51単位	124単位以上

別表第2の6付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

	学	期		1	2	3	4	5	6	7	8
学		年		1	年	2	年	3	年	4	年
子		-4	•	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必	修耳	单位数	C	13.5	15.5	13	17	18	2	1	0
学	期	累積	į	13.5	29	42	59	77	79	8	9
学	名	F 計	-	2	9	3	0	2	0	1	0
2年	次進	級単位数	ί		18						
3年	次進	級単位数	ί				47				
4年	次進	級単位数	ί						66		

新潟薬科大学応用生命科学部生命 産業ビジネス学科授業科目履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、新潟薬科大学学則(以下「学則」という。)第43条及び新潟薬科大学授業科目の区分等に関する規程第4条の規定に基づき、応用生命科学部生命産業ビジネス学科の教育課程及び履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(共通専門科目と学科別専門科目)

(学年と学期)

- 第2条 第1学年の前期を第1学期、後期を第2学期、第2学年の前期を第3学期、後期を第4学期、第3学年の前期を第5学期、後期を第6学期、第4学年の前期を第7学期、後期を第8学期とする。(授業科目の履修)
- 第3条 授業科目の区分、単位数、必修・選択の別 及び履修学期は別表第1の通りとする。
- 2 履修できる授業科目は、別表第1の各授業科目 の配当学年が在籍学年を超えないことを原則とす る。
- 3 必修科目の履修には履修申請を必要としない。 ただし、次学年に進級できなかった者については 別に定める。
- 4 必修科目を再履修するときは所定の期日までに 履修申請を提出しなければならない。
- 5 選択科目を履修するときは所定の期日までに履 修申請を提出しなければならない。
- 6 前2項に定める手続きを経ないで出席しても履 修は無効である。
- 7 選択科目の履修申請について、その科目の選択 履修学生数が所定の人員を超えたときには、履修 を許可しない場合がある。
- 8 受け付けられた履修申請は原則として変更を認めない。
- 9 過年度修得済み科目の再履修は認めない。
- 10 履修した科目の授業には毎時出席しなければならない。ただし、忌引及び届出により大学が適当と認めた場合は、欠席に算入しない。
- 11 忌引は父母の喪 (7日以内)、祖父母・兄弟姉妹の喪 (5日以内)、その他の親族 (1日)、その他居出により大学が適当と認めた場合とする。いずれも欠席届にその旨を記載し、届け出なければならない。

12 同じ曜日・時限に開講される複数科目を重複して履修してはいけない。ただし、不合格科目の再履修において第7条第2項に定める取扱いを受けたときを除く。

(履修科目の登録の上限)

第3条の2 各年度の履修登録単位数の上限は49単位とする。

(試験の種類等)

- 第4条 単位の認定のために行う試験は定期試験、 追試験、再試験及びその他の試験とする。
- 2 定期試験は各学期末に実施する。各科目について授業時間の3分の2以上出席している者に受験 資格を与える。ただし、定められた期限までに所 定の学費を納入していない者には受験資格を与え ない。
- 3 追試験は以下のいずれかの事由に該当し、所定 の期日までにその事由を証明する書類を添えて申 請があった場合に実施する。追試験の最高評価点 は90点とする。
 - (1) 学校保健安全法施行規則が定める感染症に罹患し登校禁止となった場合。
 - (2) 公共交通機関の乱れにより、登校できなかった場合。
 - (3) 天災の発生により、登校できなかった場合。
 - (4) 忌引きにより、登校できなかった場合。なお、 忌引きは父母の喪(7日以内)、祖父母・兄弟 姉妹の喪(5日以内)とする。
 - (5) その他大学が適当と認めた場合。
- 4 再試験は、科目担当教員が必要と認めたときに、 定期試験不合格者のうちで所定の期日までに受験 を申請した者に対して実施する。再試験の最高評 価点は60点とする。
- 5 その他の試験は科目担当教員が必要と認めたときに実施する。
- 6 前2項に定める追試験及び再試験の受験を申請する者は、定められた期限までにそれぞれ1科目につき追試験は1,000円、再試験は2,000円の試験手数料を納付しなければならない。

(受験上の順守事項)

第5条 前条に定める試験の受験に際しては、別に 定める「新潟薬科大学応用生命科学部受験心得」 に掲げる事項を順守しなければならない。

(成績評価と単位の認定)

第6条 成績評価及び評価基準は次のとおりとする。

区分	評価	評点	GP	評価基準
	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、特に優れている
合格	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、優れている
	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成 している
	C (II)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低 限達成している
	D (不可)	60点未満		授業科目の到達目標を達成 していない
不合格	X(追欠)	欠	0.0	天災、疾病などやむを得な い事情により定期試験欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試 験受験資格なし
認定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等 で修得した科目を本学部の 単位として認定

- 2 卒業研究は提出された卒業研究論文の審査の合格をもって単位を認定する。
- 3 第6条第1項に規定する成績評価をもとに、GPA (Grade Point Average/成績平均点数)を 算出する。また算出したGPAに基づき、第3条 の2に定める履修登録上限単位数を超えて履修で きる場合がある。GPAの算出方法と履修登録上 限単位数の取り扱いは別に定める。

(不合格科目の再履修)

- 第7条 成績評価が不可となった必修科目は次年度 に再履修しなければならない。
- 2 再履修は講義への出席を原則とするが、再履修 科目が在籍学年の必修科目と授業時間が重複した 場合、科目担当者が適当と認めたときには前年度 の出席が3分の2を超えている者に対して、出席 以外の他の方法に代えることができる。

(進級)

第8条 各学年で所定の単位(別表第2)を取得した者は次学年に進級できる。

(進級できなかった者の授業科目履修特例)

- 第9条 進級できなかった者は未修得の必修科目を 優先して再履修しなければならない。
- 2 進級できなかった者は前項によって履修すべき 科目に重複しない限りにおいて、在籍学年の次学 年の開講科目を履修することができる。
- 3 第2項の規定に基づいて次学年開講科目を履修 しようとするときは、所定の期日までに申請しな ければならない。
- 4 第2項の規定により取得した単位数は進級のための単位数に算入する。

(卒業研究室配属)

- 第10条 第3学年に進級した者を第6学期から卒業 研究室に配属する。
- 2 卒業研究室への配属の決定は、本人の希望申請 と第5学期までの成績等に基づいて行う。

(卒業研究論文審査)

- 第11条 卒業研究室に配属して卒業研究を通算して 2学期間行う者は、卒業研究指導教員の指導のも とに卒業研究論文を提出し、審査を申請できる。
- 2 卒業研究論文の審査の方法については別に定め る。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 目

この規程は、平成28年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2付表1の変更)

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2付表1の変更)

附則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。(第3条の別表第1の変更並びに第4条第3項及び第6項の変更)

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。(第3条の別表第1、第3条の1第10項、第3条の2、第6条第1項及び第10条の変更)ただし、改正後の第3条の2の規定は、平成31年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

附具

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。 (規程の表題、第1条、並びに第3条の別表第1 及び第8条の別表第2の変更)
- 2 改正後の規程の表題及び第1条については、令 和5年度1年次入学生から適用し、令和4年度以

前の生命産業創造学科入学生及び令和5年度2年 次以上の生命産業創造学科に編入した学生につい ては、なお従前の例による。

附則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。(第3条の別表第1の変更)

附則

この規程は、令和6年10月25日から施行し、令和6年4月1日から適用する(第3条第11項の文言整理)

附則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。(第3条の別表第1及び第8条の別表第2の変更)

別表第1の1 応用生命科学部生命産業ビジネス学科授業科目単位配分表(令和7〔2025〕年度1年次入学生より適用)

					配	当学	年・ <u></u>	- 学期 と	: 単位	.数	
₽	c.	les 2012 - 471 - 17)V (I-	1	2		4		6	7	8
区	分	授 業 科 目	単位	1	年	2	年		年		年
				前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目		◎フレッシャーズセミナー	2	2	1						
(20単位)		早期体験学習	1	_	!						
		健康管理	2	_	2				-		-
		キャリア形成実践演習	1		-	1	:		-		-
		○英語 I	2	2		1					
			_		0		-				-
		◎英語Ⅱ	2		2		-		-		-
		英語Ⅲ	2		!	2	-		-		-
		英語IV	2		<u> </u>		2				_
		◎統計学	2	2	!						
		◎情報リテラシー基礎	2	2	1		1		1		1
		◎情報リテラシー応用	2		2						-
教養 選択科目	外国語	英語コミュニケーションI	1	1	1						
(12単位以上)	3 単位以上	英語コミュニケーションⅡ	1		1						
		◎海外語学研修	1				1				
		上級英語リーディング	1		1	1			-		-
		ビジネス英語	1		!	1		1	-		-
			_		i		1	1	-		-
		TOEIC [®] 演習 I	1		1		1		-		-
		TOEIC [®] 演習 II	1		1		-	1	-		-
		◎ドイツ語	2		2						
		◎中国語	2		2						
		◎コリア語	2	:	2						
	自然科学系	◎基礎数学	2	2	1						
	2単位以上	◎医療・生命科学に親しむ	2		2						1
		◎アロマセラピー	2		2						
		◎地学	2	_	2		 				
		気象学	1		1		-		-		
		◎昆虫と人のかかわり	2		2		-				-
	九人 1 上和兴万		_	0			-		-		-
	社会・人文科学系		2	2	1		-		-		-
	4 単位以上	◎マス・メディア論	2	2	!				-		-
		歴史学	2	2	į						
		◎文化人類学	2		2						
		◎哲学	2		2						
		◎法学	2		2						
		バイオとフードに関する法律	2		2						
		◎生命・医療倫理	2	2	!						
		科学技術論		2							
	キャリア教育	インターンシップ実践演習	1		1	_	1				-
	1 1 7 7 32 1	職業とキャリア形成Ⅰ	1		1	_					-
			_		i t		1		1		-
		職業とキャリア形成Ⅱ	1		:				1		-
		◎大学商品開発社会実践演習 I	2		!	_	2		-		-
		◎大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2		į .		2				
	体育	◎スポーツ	1	1							
専門必修科目		◎経済学	2	2	!						
(43単位)		会計学	2		2						
		マーケティング論	2	2							
		ブランド構築論	2		!	2					
		食品商品学	2		! 	Ť		2			
		農業ビジネス論Ⅰ	2		2		:		:		
			2			2	:		:		
		環境概論			!		-		-		-
		地域産業ビジネス論	2		1	2	-		-		-
		経営管理論	2		!	2	-				1
		経営戦略論・経営組織論	2		!		2				
		ビジネス実践演習	2	:	2						
		地域活性化フィールドワーク I	2		2						-
		地域活性化フィールドワークⅡ	2		:		:	2			:
						1					-
		◎生物学入門	2	2	1						

				配	当学:	年・亨		: 単位	.数	
	les alle to E	W 41.	1	,						8
区 分		単位	1	年					_	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目	◎プログラミング基礎	2		!	;	2				
(43単位)	ゼミナールI	2		-			2			
	ゼミナールⅡ	2		1				2		
	リサーチ・イングリッシュ	1		1				1		
	卒業研究 I	3		<u> </u>					3	
	卒業研究Ⅱ	3		1						3
専門選択科目		+	2							
(49単位以上)										
[食品安全学は食品微生物学の単位を										
修得していなければ履修できない]				; 	2	\vdash				
			-	 		\vdash				-
				!			2			-
			-	1		2		-		-
		-	-	1						-
			-		 		-	-		-
		-	-	 	-	<u>:</u>		-	H	
			-		-	1	-	-		-
			-	!	<u> </u>	\vdash	2		 	-
			-		<u> </u>	\vdash		-	<u> </u>	!
			 	!	-	\vdash	<u> </u>	2	<u> </u>	<u> </u>
			<u> </u>	<u>:</u>	<u>l</u>			-		<u> </u>
		-	<u> </u>	<u> </u>		1				<u> </u>
	1111		<u> </u>	<u> </u>			1			
			<u> </u>			2				<u> </u>
			<u> </u>	1	<u> </u>		2			
			<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>			2		<u> </u>
	食文化論I	2		1	_					<u> </u>
	食文化論Ⅱ	2			2					
	食品経済学	2		1		2				
	食品管理論	2			2					
	食品・植物資源論	2				2				
	食品製造論	2		İ			2			
	食品産業の危機管理	2		Ī				2		
	農業ビジネス論Ⅱ	2		1		2				
	農業経済学	2		-		2				
	スマート農業・食品産業	2		-		2				
	持続可能性とビジネス	2				2				
	環境修復論	2		1			2			
		2		:		2				
		## 日								
	投業科目 単位									
				<u> </u>	2					
		Ye								
				 						-
		+	\vdash	! 						-
			<u> </u>	!			2			-
			+-	1	\vdash	\vdash		-		
			-	 	 	\vdash		-		-
		+	-	+	\vdash	\vdash		\vdash		-
			-			\vdash			\vdash	-
			-	<u> </u>	\vdash	-			\vdash	<u> </u>
			+		<u> </u>	\vdash		9		-
			-			-			\vdash	-
			-			1		-	<u> </u>	<u>: </u>
			₩	!		\vdash	-			-
			₩	<u> </u>	<u> </u>	\vdash	<u> </u>	2		-
			<u> </u>	1	<u> </u>				2	-
	4 手煙口の利益	1 1	1	1	1	;	Ĺ	1 1	1 !	1
自由科目			_	1	_	-		-		-

bの科目は、応用生命科学に関連が深い科目 #の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目 行動経済学、都市経済学は、奇数年度の開講 産業組織論、消費者行動論は、偶数年度の開講

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	38単位	47単位
教 養 選択科目	4 単位	8単位	12単位
専 門 選択科目		10単位	36単位

別表第2の1付表2

卒業要件単位区分表

区:	分	教養科目	専	門	科	目	合	計
必修科	ŀ目	20単位	43単	i位			63単位	
選択科	ŀ目	12単位以上	49単	i位以	上		61単位以	上
合	計	32単位以上	92革	i位以	止		124単位」	以上

別表第2の1付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

:	学	期	1	2	3	4	5	6	7	8
学		年	1	年	2	年	3	年	4	年
子		4-	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必有	修単	位数	17	14	10	7	6	3	3	3
学	期	累 積	17	31	41	48	54	57	60	63
学	年	計	3	1	1	7	Ç)	(5
2年	次進紀	级単位数		22						
3年	次進紀	級単位数				38				
4年	次進紀	级単位数						47		

別表第1の2 応用生命科学部生命産業ビジネス学科授業科目単位配分表(令和5〔2023〕年度及び令和6〔2024〕年度 1年次入学生に適用)

					配	当学	年・肖	対期と	単位	数
l G	Δ	怪 娄 利 日	単位	1	2	3	4	5	6	7 8
区	分	授業科目	里1仏	1	年	2	年	3	年	4年
				前	後	前	後	前	後	前後
教養必修科目		英語 I	1	1	:					
(14単位)		英語Ⅱ	1		1					
		フレッシャーズ・セミナー	2	2						
		早期体験学習	1	1						
		健康管理	2	_	2					
		英語Ⅲ	1		-	1				
		英語IV	1				1			
		キャリア形成実践演習	1				1		:	
		◎情報リテラシー基礎	2	2						
		◎情報リテラシー応用	2	-	2					
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	1	1		_	-		_	-
(12単位以上)	3単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1	1	1					-
(124 (22)	0十世次工	上級リーディング英語	1		1	1				-
		TOEIC英語 I	1			1	1			
		TOEIC英語 II	1				1	1		
					2			1		
		◎ドイツ語	2		2					\vdash
		◎中国語								\vdash
		◎コリア語	2		2		-			\vdash
		◎ロシア語 とはま ※ ボルル・	2	2	2					\vdash
		海外語学研修	1		!		1			
	A KN TO W T	ビジネス英語	1		-		-	1		
	自然科学系	地学	2	_	2					-
	2単位以上	確率と統計	2	2	<u> </u>					
		気象学	1		1					
		◎昆虫と人のかかわり	1		1					
		◎プログラミング基礎	2				2			
	社会・人文科学系	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
	4単位以上	バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2	-					
		◎マス・メディア論	1	1	ĺ					
		◎哲学	1		1					
		◎文化人類学	1		1					
	キャリア教育	職業とキャリア形成I	1				ĺ			
		◎大学商品開発社会実践演習 I	2				2			
		◎大学商品開発社会実践演習 Ⅱ	2				2			
		職業とキャリア形成Ⅱ	1						1	
	体育	◎スポーツ	1	1						
	専門医療薬学系科目	#アロマセラピー	1		ĺ					
専門必修科目		生物学入門	2	2	i					
(50単位)		化学入門	2	2						
		食品・環境科学入門実験	2		2					
		地域活性化フィールドワーク I	2		2					
		学習論	2	2						
		ITアドバンスト	2		!	2				
		食品管理論	2			2				
		ブランド構築論	2			2				
		経営管理論	2	2		_				
		基礎経済学Ⅰ	2	2						-
		基礎経済学Ⅱ	2	<u> </u>	2					
		環境科学概論	2			2	-			-
		マス・プロイトコーアル自用			:		:			

				配	当学	年・岩	対期と	上単位	数	
E	拉 樂 刊 口	114 (L	1	2	3	4	5	6	7	8
区 分	授 業 科 目	単位	1	年	2	年	3	年	4	年
			前	後	前	後	前	: 後	前	後
専門必修科目	社会調査論	2	10.0		177	124	2		100	
(50単位)	地域産業ビジネス論	2		i	2			-		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	論理的思考論	2		2						-
	レギュラトリーサイエンス	2					2			
	マーケティング論	2		-	- 0			-		
	2 2 1 2 1994			-	2			-		-
	経営組織論	2				2		-		
	農業ビジネス論Ⅰ	2		2		-		-		-
	会計学	2		2				-		-
	地域活性化フィールドワークⅡ	2					2			
	食品商品学	2					2			
	卒業研究 I	3							3	
	卒業研究Ⅱ	3		!				1		3
専門選択科目	食文化論 I	2			2					
(48単位以上)	食文化論Ⅱ	2			2					
[食品安全学は食品微生物学の単位を	食品経済学	2				2				
修得していなければ履修できない〕	産業組織論	2			2					
	食品・植物資源論	2				2				
	食品開発論 I	2				2				
	サービス産業論	2				2				
	農業ビジネス論Ⅱ	2		į –		2		<u> </u>		
	地域コミュニケーション演習	1				<u>:</u> 1				
	ビジネスプロデュース論	2		-			2	-		
	環境汚染論	2				2		-		
	農業経済学	2				2				
	商品デザイン論	2						2		
					_	_	2			
	研究入門	2		:		-	2	0		-
	コンサルティング論	2		-				2		-
	知的財産論	2				-	-	2		
	リサイクル論	2				-	2	-		-
	食品製造論	2		-			2	_		
	環境技術論	2						2		
	食品開発論Ⅱ	2					2			
	食品産業の危機管理	2						2		
	国際食品ビジネス論	1			1					
	海外ビジネス研修I	1		-		1				
	海外ビジネス研修Ⅱ	1					1			
	b食品化学	2		1	2					
	b食品分析学	2				2				
	b栄養科学	2				2				
	b酵素化学	2				2				
	b化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
	b食品微生物学	2					2			
	b機能食品科学	2					2			
	b発酵醸造学	2					2			
	b栄養生理学	2					2	_		
	b廃棄物管理工学	2		-	_	-		2		
	b食品安全学	2						2		-
	b 食品流通学	2				-		2		
	b 公衆衛生学	2			_			2		-
	b 食品の予防コントロール	2							2	
				:				1		
· 古中到 □	#香粧品の科学	1				-		1		
自由科目	教育心理学	2				2				

bの科目は、応用生命科学に関連が深い科目 #の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目 基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講 産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の2付表

別表第1の2と別表第1の1の授業科目の対応表

令和5年度及び令和6年度入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと同じ授業科目を履修する。

別表第1の2の授業科目 (令和5年度及び令和6年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度入学生の配当科目)
フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC 英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC英語II	TOEIC [®] 演習 II
確率と統計	統計学
生命倫理	生命・医療倫理
基礎経済学 I	経済学
基礎経済学Ⅱ	行動経済学
環境科学概論	環境概論
レギュラトリーサイエンス	環境管理工学
経営組織論	経営戦略論・経営組織論
サービス産業論	サービスマーケティング
研究入門	ゼミナール I
リサイクル論	エネルギーとリサイクル
環境技術論	環境修復論
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会

別表第2の2

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	38単位	47単位
教 養 選択科目	4 単位	8単位	12単位
専 門 選択科目		10単位	36単位

別表第2の2付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学年	1	年	2	年	3	年	4	年
子	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	16	17	13	3	8	1	3	3
学期累積	16	33	46	49	57	58	61	64
学 年 計	3	3	1	6	Ç)	(5
2年次進級単位数		22						
3年次進級単位数				38				
4年次進級単位数						47		

別表第2の2付表2 卒業要件単位区分表

区	分	教養科目	専門科目	合 計
必修	科目	14単位	50単位	64単位
選択	科目	12単位以上	48単位以上	60単位以上
合	計	26単位以上	98単位以上	124単位以上

別表第1の3

応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表

(令和4〔2022〕年度1年次入学生、及び令和5〔2023〕年度2年次編入した学生に適用)

					配	当学:	年・島	学期と	単位	数
	e ²	tes alle to E	W 64.	1	2		4		6	7 8
区	分	授業科目	単位	1	年	2	年	3	年	4年
				前	後	前	後	前	後	前:後
教養必修科目		英語 I	1	1	i					
(14単位)		英語Ⅱ	1		1					
		フレッシャーズ・セミナー	2	2						
		早期体験学習	1	1						
		健康管理	2		2					
		英語Ⅲ	1		1	1				
		英語Ⅳ	1		1		1			
		キャリア形成実践演習	1		:		1			
		◎情報リテラシー基礎	2	2	:					
		◎情報リテラシー応用	2		2					
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語 I	1	1	!					
(12単位以上)	3単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1		1					
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語 I	1				1			
		TOEIC英語II	1		.			1		
		◎ドイツ語	2		<u>:</u> 2					
		◎中国語	2	_	2					
		◎コリア語	2		2					
		◎ロシア語	2		2		-			
		海外語学研修	1	 '	-		1			
		ビジネス英語	1		:			1		
	自然科学系	地学	2		2		-	1		
	2単位以上	確率と統計	2	2			-			
	2 4 2 2 2	気象学	1		1					
		□ □ 昆虫と人のかかわり	1		1					
		◎プログラミング基礎	2		1		<u>:</u> 2			
	社会・人文科学系	● ノロググミング			1		<u> </u>			
	4 単位以上	バイオとフードを巡る国際製作調	1		2					
	1 + 医丛上	生命倫理	2	2	: -					
			2	2	:		-			
		科学技術論			2					
		法学	2	0			:			
		歴史学		2	!		-			
		◎マス・メディア論	1	1	-		-			
		◎哲学	1		1		-			
	十、11 7 14 左	◎文化人類学	1		1		1			
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	-		!		1			
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2		-	_	2			
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2		1	-	2		-	
	从 去	職業とキャリア形成Ⅱ	1	-	:		-		1	
	体育	◎スポーツ 	1	1			1			
	専門医療薬学系科目	#アロマセラピー	1		1		-			
専門必修科目		生物学入門	2	2			!			
(50単位)		化学入門	2	2			-			
		食品・環境科学入門実験	2	-:	2					
		地域活性化フィールドワーク I	2		2					
		学習論	2	2	<u> </u>					
		ITアドバンスト	2			2				
		食品管理論	2			2				
		ブランド構築論	2		1	2				
		経営管理論	2	2						
		基礎経済学Ⅰ	2	2						
		基礎経済学Ⅱ	2		2					

					当学	年・当	芝期 と	:単位	数	
E 75	拉 拳 利 口	114 LL	1	2	3	4	5	6	7	8
区 分	授 業 科 目	単位	1年	:	2	年	3	年	4	<u>年</u>
			前	$\overline{}$		後		. 後	前	後
専門必修科目	環境科学概論	2	13.0	100	2	12	13.5	112	13.3	12
(50単位)	社会調査論	2					2	-		
(00-122)	地域産業ビジネス論	2			2	-		-		
		_		0				:		
	論理的思考論 	2		2				-		
	レギュラトリーサイエンス	2				-	2	-		
	マーケティング論	2			2			-		
	経営組織論	2				2				
	農業ビジネス論 I	2		2						
	会計学	2		2						
	地域活性化フィールドワーク Ⅱ	2					2			
	食品商品学	2					2			
	卒業研究 I	3							3	
	卒業研究Ⅱ	3								3
専門選択科目	食文化論 I	2			2	:				
(48単位以上)	食文化論Ⅱ	2			2	:				
[食品安全学は食品微生物学の単位を	食品経済学	2			_	2				
修得していなければ履修できない]	産業組織論	2		\dashv	2	-				
	食品・植物資源論	2		\dashv		2		-		_
	食品開発論 I	2		-		2		-		_
	艮印用完論 1 サービス産業論		-					:		
		2				2		-		
	農業ビジネス論Ⅱ	2				2		-		_
	地域コミュニケーション演習	1				1		-		
	ビジネスプロデュース論	2					2			
	環境汚染論	2				2				
	農業経済学	2				2				
	商品デザイン論	2						2		
	研究入門	2					2			
	コンサルティング論	2	1					2		
	知的財産論	2						2		
	リサイクル論	2					2			
	食品製造論	2					2			
	環境技術論	2						2		
	食品開発論Ⅱ	2					2	-		_
	食品産業の危機管理	2						2		
	国際食品ビジネス論	1			1					
			1			1		-		
	海外ビジネス研修 I	1	-			1	1	:		<u> </u>
	海外ビジネス研修Ⅱ	1			0	-	1	-		
	b 食品化学	2	-	-	2	-		-		
	b食品分析学	2				2		-		
	b栄養科学	2				2		-		
	b酵素化学	2				2		1		
	b化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
	b食品微生物学	2					2			
	b機能食品科学	2					2			
	b発酵醸造学	2					2			
	b栄養生理学	2					2			
	b廃棄物管理工学	2						2		
	b食品安全学	2						2		
	b 食品流通学	2						2		
	b 公衆衛生学	2	 					2		_
								- 4	2	_
	b食品の予防コントロール	2	-	-				1	2	<u> </u>
	#香粧品の科学	1						1		
	教育心理学	2	1 1			2				

bの科目は、応用生命科学に関連が深い科目 #の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目 基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講 産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の3付表

別表第1の3と別表第1の1の授業科目の対応表

令和4年度入学生及び令和5年度2年次編入生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと同じ授業科目を履修する。

別表第1の2・1の3の授業科目 (令和5年度及び令和6年度入学生の配当科目) (令和4年度及び令和5年度2年次編入生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度入学生の配当科目)
フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーション I
コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC 英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC英語Ⅱ	TOEIC [®] 演習 II
確率と統計	統計学
生命倫理	生命・医療倫理
基礎経済学 I	経済学
基礎経済学Ⅱ	行動経済学
環境科学概論	環境概論
レギュラトリーサイエンス	環境管理工学
経営組織論	経営戦略論・経営組織論
サービス産業論	サービスマーケティング
研究入門	ゼミナールI
リサイクル論	エネルギーとリサイクル
環境技術論	環境修復論
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会

別表第2の3

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	38単位	47単位
教 養 選択科目	4 単位	8単位	12単位
専 門 選択科目		10単位	36単位

別表第2の3付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

	7	学	期		1	2	3	4	5	6	7	8
Ι.	学年		1年		2年		3	年	4年			
				4-	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
-	必作	多耳	单位	数	16	17	13	3	8	1	3	3
1	学;	期	累	積	16	33	46	49	57	58	61	64
:	学	年	Ē.	計	3	3	1	6	Ç)	(;
	2年	欠進	級単	位数		22						
	3年	欠進	級単	位数				38				
	4年	欠進	級単	位数						47		

別表第2の3付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	14単位	50単位	64単位
選択科目	12単位以上	48単位以上	60単位以上
合 計	26単位以上	98単位以上	124単位以上

別表第1の4

応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表

(令和3〔2021〕年度1年次入学生、及び令和4〔2022〕年度の2年次に編入した学生に適用、ただし令和2〔2020〕年度入学生の休学生を含む)

				配当学年・学期と単位数							
区	es.	15	単位	1	2	_	4		6	7 8	
	分	授業科目		1	年	2	年	3	年	4年	
				前	後	前	後	前	: 後	前後	
教養必修科目		英語 [1	1	ļ		-				
(11単位)		英語Ⅱ	1		1						
		初年次セミナー	3	3	!						
		健康管理	2		2						
		データサイエンス入門	1		1						
		英語Ⅲ	1		1	1					
		英語IV	1				1				
		キャリア形成実践演習	1		i		1				
教養選択科目	外国語	コミュニケーション英語 I	1	1	1						
(13単位以上)	3 単位以上	コミュニケーション英語Ⅱ	1		1						
		上級リーディング英語	1			1					
		TOEIC英語 I	1		!		1				
		TOEIC英語Ⅱ	1		1			1			
		中国語	2		:		2				
		韓国語	2		!	_	2				
		海外語学研修	1		:	-	1		:		
		ビジネス英語	1		1			1			
	自然科学系	基礎数学	2	2							
	2 単位以上	地学	2		2						
		確率と統計	2	2							
		生命情報科学概論	1	1							
		◎プログラミング基礎	2				<u>: </u>				
	社会・人文科学系	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1]				
	4 単位以上	バイオとフードに関する法律	2		2						
		生命倫理	2	2	-						
		科学技術論	2	2	 						
		法学	2	-	2				-		
		歴史学	2	2	-						
	キャリア教育	職業とキャリア形成I	1	-			<u>:</u> 1				
	1 () / 32 [大学商品開発社会実践演習 I	2		-	_	2				
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2		1	-	2				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1		1		1		1		
	体育	スポーツ	1	1					-		
専門必修科目	111.13	生物学入門	2	2	1		 		! 		
(54単位)		化学入門	2	2							
		食品・環境科学入門実験	2	_	2						
		地域活性化フィールドワーク I	2	_	2						
		学習論	2	2	-				-		
		ITリテラシー基礎	2	2	1						
		ITリテラシー応用	2		2		-				
		ITアドバンスト	2			2			-		
		食品管理論	2		:	2	-		:		
		ブランド構築論	2		:	2					
		経営管理論	2	2	:	-			:		
		基礎経済学Ⅰ	2	2	:				-		
		基礎経済学Ⅱ	2	-	2				-		
		環境科学概論	2			2	-		1		
		社会調査論	2		:	4	-	2	-	_	
		地域産業ビジネス論	2		:	2	-		:		
					2				-		
		論理的思考論 しぢゅうトリーサイエンフ	2			-		0			
		レギュラトリーサイエンス			<u>:</u>		<u>: </u>	2	<u>: </u>		

			配当学年・学期と単位数							
F	15、 业 10 日	277 (-I-	1	2		4		6	7 8	
区分	授業科目	単位	1	年	2	年	3	年	4年	
			前	後	前	後	前	後	前後	
専門必修科目	マーケティング論	2			2					
(54単位)	経営組織論	2		1		2				
	農業ビジネス論Ⅰ	2		2						
	会計学	2		2						
	地域活性化フィールドワーク Ⅱ	2		!			2			
	食品商品学	2		!			2			
	卒業研究 I	3							3	
	卒業研究Ⅱ	3		!					3	
専門選択科目	食文化論 I	2		İ	2					
(46単位以上)	食文化論Ⅱ	2		.	2					
[食品安全学は食品微生物学の単位を	食品経済学	2		 	_	2				
修得していなければ履修できない]	産業組織論	2		!	2	-				
	食品・植物資源論	2		:		2				
	食品開発論Ⅰ	2		-		2		-		
	サービス産業論	2		-		2		-		
	農業ビジネス論Ⅱ	2				2		-		
	地域コミュニケーション演習	1		1		1				
	ビジネスプロデュース論	2		!		<u> </u>	2			
	環境汚染論	2		-		2		-		
		2				2				
	農業経済学商品デザイン論							2		
		2 2		:		-	-0			
	研究入門			!			2	0		
	コンサルティング論	2		1		-		2	- 	
	知的財産論	2		!		-	0	2	\vdash	
	リサイクル論	2		-		-	2	-	\vdash	
	食品製造論	2		:		-	2	-		
	環境技術論	2		1		-	0	2		
	食品開発論Ⅱ	2		:		-	2	-		
	食品産業の危機管理	2		!		-		2		
	国際食品ビジネス論	1		1	1					
	海外ビジネス研修I	1		!		1				
	海外ビジネス研修Ⅱ	1			_		1			
	b食品化学	2			2	-				
	b食品分析学	2				2				
	b栄養科学	2		į		2				
	b酵素化学	2		i		2				
	b化学工業とグリーンケミストリー	2		!			2	_		
	b食品微生物学	2		!			2			
	b機能食品科学	2					2			
	b発酵醸造学	2		1			2	_		
	b栄養生理学	2		!			2	-		
	b廃棄物管理工学	2		!				2		
	b食品安全学	2		1		1		2		
	b食品流通学	2		1				2		
	b公衆衛生学	2						2		
	b食品の予防コントロール	2							2	
	#香粧品の科学	1						1		
自由科目	教育心理学	2				2				

bの科目は、応用生命科学に関連が深い科目 #の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目 基礎経済学Ⅱは、奇数年度の開講 産業組織論は、偶数年度の開講

別表第1の4付表

別表第1の4と別表第1の1・1の2・1の3の授業科目の対応表

令和3年度入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の授業科目も開講されていない場合は、同表の「別表第1の1の授業科目」欄の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の4の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の2・1の3の授業科目 (令和5年度及び令和6年度入学生の配当科目) (令和4年度及び令和5年度2年次編入生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度入学生の配当科目)
 初年次セミナー	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
初午 人でく) 一	早期体験学習	早期体験学習
IT リテラシー基礎	情報リテラシー基礎	情報リテラシー基礎
IT リテラシー応用	情報リテラシー応用	情報リテラシー応用
韓国語	コリア語	コリア語
コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC 英語 II	TOEIC英語Ⅱ	TOEIC [®] 演習 Ⅱ
確率と統計	確率と統計	統計学
生命倫理	生命倫理	生命·医療倫理
基礎経済学 I	基礎経済学I	経済学
基礎経済学Ⅱ	基礎経済学Ⅱ	行動経済学
環境科学概論	環境科学概論	環境概論
レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンス	環境管理工学
経営組織論	経営組織論	経営戦略論・経営組織論
サービス産業論	サービス産業論	サービスマーケティング
研究入門	研究入門	ゼミナールI
リサイクル論	リサイクル論	エネルギーとリサイクル
環境技術論	環境技術論	環境修復論
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会

別表第2の4

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	38単位	47単位
教 養 選択科目		8単位	12単位
専 門 選択科目		10単位	36単位

別表第2の4付表2 卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	11単位	54単位	65単位
選択科目	13単位以上	46単位以上	59単位以上
合 計	24単位以上	100単位以上	124単位以上

別表第2の4付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学年	1年		2年		3年		4	年
子	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	16	18	13	3	8	1	3	3
学期累積	16	34	47	50	58	59	62	65
学 年 計	3	4	1	6	ć)	(j.
2年次進級単位数		22						
3年次進級単位数				38				
4年次進級単位数						47		

別表第1の5 応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表 (平成31〔2019〕年度及び令和2〔2020〕年度1年次入学生に適用、ただし令和2〔2020〕年度入学生の

(平成31〔2019〕年度及び令和 2〔2020〕年度 1 年次入学生に適用、ただし令和 2〔2020〕年度入学生の 休学生を除く)

				配	当学	年・鳥	学期 と	単位	数
G A	+应 ※ ◆1 □	兴县	1	2	3	4	5	6	7 8
区	授業科目	単位	1	年	2	年	3	年	4年
			前	後	前	後	前	後	前:後
教養必修科目	英語 I	1	1						
(10単位)	英語Ⅱ	1		1					
	初年次セミナー	3	3						
	健康管理	2		2					
	英語Ⅲ	1			1				
	英語IV	1				1			
	キャリア形成実践演習	1				1			
教養選択科目	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
(14単位以上)	バイオとフードに関する法律	2		2					
	生命倫理	2	2						
	科学技術論	2	2						
	法学	2		2					
	歴史学	2	2						
	基礎数学	2	2						
	地学	2		2					
	確率と統計	2	2						
	スポーツ	1	1						
	生命情報科学概論	1	1						
	コミュニケーション英語 I	1	1						
	コミュニケーション英語Ⅱ	1		1					
	上級リーディング英語	1			1				
	TOEIC英語入門	1				1			
	TOEIC英語基礎	1					1		
	中国語I	1			1				
	中国語Ⅱ	1				1			
	韓国語 I	1			1				
	韓国語Ⅱ	1			_	1			
	海外語学研修	1				1			
	職業とキャリア形成I	1				1			
	大学商品開発社会実践演習 I	2				2			
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2				2			
	職業とキャリア形成Ⅱ	1						1	
	英語V	1					1		
	英語Ⅵ	1						1	
	◎プログラミング基礎	2				2			
専門必修科目	生物学入門	2	2						
(56単位)	化学入門	2		2		-			
	食品・環境科学入門実験	2	2	2					
	地域活性化フィールドワークI	2		2		-			
	学習論 ************************************	2	2			-			
	ITリテラシー基礎	2	2			-			
	ITリテラシー応用	2		2	_	-			
	食品管理論	2		-	2	-			
	食文化論Ⅰ	2			2	-			
	食文化論Ⅱ	2		-	2	-			
	ブランド構築論	2	0		2	-			-
	経営管理論	2	2			-			
	基礎経済学	2	2	-		-			
	食品・植物資源論	2		-		2			
	食品開発論I	2			<u> </u>	2			
	環境科学概論	2		-	2	-			
	社会調査論	2			2				

			配当学年・学期と単位数								
E	les alle tal		1	2	_	1 4		6	, ,	7 8	
区	授 業 科 目	単位	1	年	2	年	3	—— 年	4		
				後		. 後		· · 後	前		
専門必修科目	地域産業ビジネス論	2	133	12	2		155	12	133	1/~	
(56単位)	論理的思考論	2		2	-	1					
	レギュラトリーサイエンス	2				1	2				
	マーケティング論	2		2		 		-			
	経営組織論	2		2		1					
	機名組織画 農業ビジネス論 I	2		2		1					
		_				 	0	:			
	地域活性化フィールドワークⅡ	2		-		-	2	-			
	食品商品学	2		-		-	2	-	0		
	卒業研究 I	3				1			3		
	卒業研究Ⅱ	3	-			! 		<u> </u>		3	
専門選択科目	産業会計学	2		2		1		-			
(44単位以上)	ITアドバンスト	2		!	2	1					
[食品安全学は食品微生物学の単位を	食品経済学I	2			2						
修得していなければ履修できない]	サービス産業論	2				2					
	農業ビジネス論Ⅱ	2				2					
	地域コミュニケーション演習	1		1		1					
	起業論	2					2				
	低炭素論	2					2				
	環境汚染論	2				2					
	食品経済学Ⅱ	2				2					
	農業経済学	2		i		2					
	商品デザイン論	2						2			
	研究入門	2		i		1	2				
	コンサルティング論	2		-		1		2			
	知的財産論	2						2			
	リサイクル論	2				1	2	-			
	食品製造論	2				1	2				
	環境技術論	2				1		2			
		2		-		-		2			
	スマートシティ論			:		-	0				
	食品開発論Ⅱ	2		-		-	2				
	食品産業の危機管理	2		1		1		2			
	食品化学	2		:	2			-			
	食品分析学	2		1		2		-			
	栄養科学	2		!		2		-			
	酵素化学	2		-		2		-			
	化学工業とグリーンケミストリー	2		-			2				
	食品微生物学	2					2				
	機能食品科学	2					2				
	発酵醸造学	2			L_		2				
	栄養生理学	2					2				
	廃棄物管理工学	2						2			
	食品安全学	2						2			
	食品流通学	2						2			
	公衆衛生学	2						2			
	食品の予防コントロール	2							2		
	#香粧品の科学	1						1			
	国際食品ビジネス論	1			1			-			
	海外ビジネス研修I	1		-	<u> </u>	1					
	海外ビジネス研修Ⅱ	1				1	1	-			
自由科目	教育心理学	2	-			2	1	-	\vdash		

#の科目は、薬学部開講科目 ◎の科目は、他学部との共通科目

別表第1の5付表

別表第1の5と別表第1の1・1の2・1の3・1の4の授業科目の対応表

平成31年度及び令和2年度の入学生が左欄の科目を令和7年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の4の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の4の授業科目」欄の授業科目も開講されていない場合は、同表の「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の履修で読み替えるものとし、「別表第1の2・1の3の授業科目」欄の授業科目も開講されていない場合は、同表の「別表第1の1の授業科目」欄の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の5の授業科目 (平成31年度及び令和2年度入学生の配当科目)	別表第1の4の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の2・1の3の授業科目 (令和5年度及び令和6年度入学生の配当科目) (令和4年度及び令和5年度2年次編入生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和7年度入学生の配当科目)
初年次セミナー	初年次セミナー	フレッシャーズ・セミナー	フレッシャーズセミナー
初年代セミナー	初年代セミケー	早期体験学習	早期体験学習
生命倫理	生命倫理	生命倫理	生命・医療倫理
確率と統計	確率と統計	確率と統計	統計学
コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 I	英語コミュニケーションI
コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ
上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級リーディング英語	上級英語リーディング
TOEIC英語入門	TOEIC英語 I	TOEIC英語 I	TOEIC [®] 演習 I
TOEIC英語基礎	TOEIC 英語 II	TOEIC英語II	TOEIC [®] 演習 II
中国語 I	中国語	中国語	中国語
中国語Ⅱ	1 中国商		
韓国語 I	井戸芸	- 11 7 F	- II
韓国語Ⅱ	韓国語	コリア語	コリア語
英語V	ビジネス英語	ビジネス英語	ビジネス英語
ITリテラシー基礎	ITリテラシー基礎	情報リテラシー基礎	情報リテラシー基礎
IT リテラシー応用	ITリテラシー応用	情報リテラシー応用	情報リテラシー応用
基礎経済学	基礎経済学 I	基礎経済学 I	経済学
環境科学概論	環境科学概論	環境科学概論	環境概論
レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンス	環境管理工学
経営組織論	経営組織論	経営組織論	経営戦略論・経営組織論
産業会計学	会計学	会計学	会計学
食品経済学 [泰日奴汝兴	企 日奴这类	企口 勿这些
食品経済学Ⅱ	食品経済学	食品経済学	食品経済学
サービス産業論	サービス産業論	サービス産業論	サービスマーケティング
起業論	ビジネスプロデュース論	ビジネスプロデュース論	ビジネスプロデュース論
研究入門	研究入門	研究入門	ゼミナール I
リサイクル論	リサイクル論	リサイクル論	エネルギーとリサイクル
環境技術論	環境技術論	環境技術論	環境修復論
化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業とグリーンケミストリー	化学工業と循環社会

別表第2の5

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	41単位	50単位
教 養 選択科目	6 単位	10単位	12単位
専 門 選択科目		10単位	32単位

別表第2の5付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単 位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学年	1年		2年		3	年	4	年
子	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	14	19	15	5	6	1	3	3
学期累積	14	33	48	53	59	60	63	66
学 年 計	3	3	2	0	7	7	(j.
2年次進級単位数		22						
3年次進級単位数				41				
4年次進級単位数						50		

別表第2の5付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	10単位	56単位	66単位
選択科目	14単位以上	44単位以上	58単位以上
合 計	24単位以上	100単位以上	124単位以上

新潟薬科大学応用生命科学部受験心得

この心得は、新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程第5条の規定及び新潟薬科大学応用生命科学部生命産業ビジネス学科授業科目履修規程第5条の規定に基づき、受験に際し受験生が順守すべき事項について定める。

(試験における順守事項)

- 1 受験生は下記の事項を順守しなければならない。
 - (1) 試験開始時刻までに指定された席に着席すること。ただし、遅刻者については試験開始時刻から30分以内に着席すれば受験を認める。
 - (2) 試験中は、筆記用具以外の携帯品は試験監督者が指示する場所に置くこと。
 - (3) 学生証を机上に置くこと。学生証又は仮学生 証のない学生は受験できない。学生証を忘れた 者は試験開始前に仮学生証の交付を受けるこ と。有効期限は1日で、再交付はしない。
 - (4) 試験開始時刻から30分間及び終了時刻前の5 分間は退席しないこと。
 - (5) 前第1号から第4号にかかわらず、特別に定める事項がある場合には、それに従うこと。
 - (6) その他試験場内においては試験監督者の指示に従うこと。
 - (7) 試験中に不正とみなされる行為(以下「不正行為等」という。)をしないこと。

(不正行為等)

- 2 前項第7号に規定する試験における不正行為等とは、以下の号に該当する行為をいう。
 - (1) 机上や見える位置に事前に書き込みをする、 又はそれに類する物品を故意に配置し、それを 閲覧する。
 - (2) 許可されていない物品を机上に置く、身につける又は使用する。
 - (3) 解答開始の指示の前に、問題を閲覧する又は解答を始める。
 - (4) 他人の学生証を提示する又は他人の氏名を解 答用紙に記入する。
 - (5) 他の受験者と会話する又は解答を教える。
 - (6) 他の受験者の解答用紙等を見る又は解答を教わる。
 - (7) 解答用紙を提出する前に、問題用紙を場外へと持ち出す。

- (8) 解答用紙を試験監督者に提出せずに、場外へと持ち出す。
- (9) 解答終了の指示があったにもかかわらず、解答を続ける。
- (10) 試験監督者等の制止にかかわらず、他人への 迷惑行為を続ける。
- (11) その他、公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をする。

(処分)

3 第1項第7号に規定する試験における不正行為 があった場合、その試験が実施された学期中の全 ての科目について零点扱いとし、当該学期中の追 試験及び再試験の受験資格を与えない。

附則

この心得は、平成27年4月1日から施行する。

新潟薬科大学応用生命科学部 GPA 制度 及び CAP 制に関する取扱要項

(趣旨)

1 この要項は、新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程(以下「応用生命科学科履修規程」という。)第3条の2及び第6条第3項の規定並びに新潟薬科大学応用生命科学部生命産業ビジネス学科授業科目履修規程(以下「生命産業ビジネス学科履修規程」という。)第3条の2及び第6条第3項に基づき、グレード・ポイント・アベレージ(成績平均値をいう。以下「GPA」という。)制度及び履修登録単位数の上限設定(以下「CAP制」という。)の運用に必要な事項について定める。

(目的)

- 2 GPA制度は、透明性の高い成績管理と履修指導、学生の責任のある履修行為の促進、学習意欲の向上を目的とするもので、次に掲げる方法で運用する。
 - (1) 別表第1の評価に基づき、グレード・ポイント(以下「GP」という。)を付す。
 - (2) GPAの算出方法は、履修した授業科目の単位数にGPを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出する。

GPAの算出方法

秀の修得単位数×4.0+優の修得単位数×3.0+良の修得単位数×2.0+可の修得単位数×1.0

総履修登録単位数

- (3) GPAは小数第2位を四捨五入し、小数第1 位までの数値とする。
- (4) 不合格科目 (D評価) を再履修した場合、再 履修後の評価をGPA 算定の基礎とする。

(対象授業科目)

- 3 GPAの対象科目は、当該年度において履修登録したすべての授業科目とする。ただし、次に掲げる科目は、当該年度のGPAの対象科目から除くものとする。
 - (1) 履修登録取消期間に、学生から別に定める履 修取消申請書により申請があった科目
 - (2) 履修取消期間を経過した後、休学、病気欠席 等のやむを得ない事由で、学生から履修取消申 請書により申請があった科目で、応用生命科学 部教務委員会が許可した科目

(3) GPAの対象科目から除かれた科目は事務部 教務課が当該授業科目の担当教員へ通知するも のとする。

(学修指導)

4 応用生命科学部長はGPAによる成績分布状況 を把握するとともに、必要に応じて学生に対し学 修指導を行う。

(退学勧告)

5 2年連続で年間GPAが1.0以下、かつ応用生命 科学部長が学修指導を実施後、改善が認められな い場合は、学長は当該学生に退学を勧告すること ができる。

(CAP制)

- 6 CAP制は、単位制度を実質化し、学修すべき 授業科目を精選することで十分な学修時間を確保 し、授業内容を深く真に身につけることを目的と するもので、次に掲げる方法で運用する。
 - (1) 令和2年度以降の入学生は各年度の履修登録 単位数の上限を49単位とする。平成31年度まで の入学生は各年度の履修登録単位数の上限を応 用生命科学科は49単位、生命産業創造学科は 48単位とする。ただし、当該年度の直前年度 GPAに基づき、次の単位数を上限とする。
 - ○令和2年度以降の入学生

直前の年のGPAが3.0以上の者 49単位 直前の年のGPAが1.5以上3.0未満の者 48単位 直前の年のGPAが1.5未満の者 47単位

○平成31年度までの入学生

(応用生命科学科)

直前の年のGPAが3.0以上の者 59単位 直前の年のGPAが2.5以上3.0未満の者 57単位 直前の年のGPAが1.5以上2.5未満の者 53単位 直前の年のGPAが1.5未満の者 49単位

(生命産業創造学科)

直前の年のGPAが3.0以上の者 58単位 直前の年のGPAが2.5以上3.0未満の者 56単位 直前の年のGPAが1.5以上2.5未満の者 52単位 直前の年のGPAが1.5未満の者 48単位

- (2) 休学、病気欠席等のやむを得ない事由により、 直前年度の授業科目を履修できなかった者の履 修登録単位数の上限は、(1)の規定にかかわらず、 令和2年度以降の入学生は49単位、平成31年度 までの入学生は、応用生命科学科は49単位、生 命産業創造学科は48単位とする。
- (3) 令和2年度以降の入学生で、届け出により学部が適当と認めた場合は、アドバイザー教員の

指導のもと、履修登録単位数の上限を、(1)の規 定にかかわらず、49単位とすることができる。

(CAP制から除外する科目)

- 7 CAP制には、次に掲げる授業科目は含まない ものとする。
- ○令和2年度以降の入学生
 - (1) 3の(1)、(2)により履修登録を取り消した科目
 - (2) 夏期集中講義科目
 - (3) キャリア形成実践演習
- ○平成31年度までの入学生
 - (1) 3の(1)、(2)により履修登録を取り消した科目
 - (2) 夏期集中講義科目
 - (3) 卒業要件単位に算入しない自由科目
 - (4) 卒業研究

(その他)

8 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(改廃)

9 この要項の改廃は、応用生命科学部教授会の議を経て、学長が行う。

附則

- この要項は、平成27年4月1日から施行する。 附 則
- この要項は、令和元年9月13日から施行する。 附 則
- この要項は、令和2年4月1日から施行する。 附 則
- この要項は、令和4年4月1日から施行する。 附 則
- この要項は、令和5年4月1日から施行する。 附 則
- この要項は、令和6年4月1日から施行する。 附 則
- この要項は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1

			_	1
区分	評価	評点	GP	評価基準
	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、特に優れている
合格	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分 達成し、優れている
16 俗	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成 している
	C (可)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低 限達成している
	D (不可)	60点未満		授業科目の到達目標を達成 していない
不合格	X(追欠)	欠	0.0	天災、疾病などやむを得な い事情により定期試験欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試 験受験資格なし
認定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等 で修得した科目を本学部の 単位として認定

新潟薬科大学応用生命科学部 教職課程履修規程

- 第1条 この規程は、新潟薬科大学応用生命科学部 教職課程(以下「本課程」という。)の履修に関し、 必要な事項を定める。
- 第2条 新潟薬科大学応用生命科学部(以下「本学部」という。)において取得できる教育職員免許状(以下「免許状」という。)は、次のとおりとする。

学 科	免許状の種類	免許教科
応用生命学科	中学校教諭一種免許状	理科
心用生可子件	高等学校教諭一種免許状	理科

- 第3条 前条の免許状を取得しようとする者は、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」 に定めるところに従い新潟薬科大学が定める以下 の単位を取得しなければならない。
- ○令和7年度以降の入学生

科目区分	中学校教諭一種免 許状取得に必要な 単位数	高等学校教諭一種 免許状取得に必要 な単位数
教科及び教科の指導法 に関する科目	32単位	36単位
教育の基礎的理解に関 する科目	11単位	11単位
道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に 関する科目	10単位	8 単位
教育実践に関する科目	7 単位	5 単位
大学が独自に設定する 科目	1 単位	1 単位
小 計	61単位	61単位
教育職員免許法施行規 則第66条の6に定める 科目	11単位	11単位
合 計	72単位	72単位

○平成31年度から令和6年度までの入学生

科目区分	中学校教諭一種免 許状取得に必要な 単位数	高等学校教諭一種 免許状取得に必要 な単位数
教科及び教科の指導法 に関する科目	32単位	36単位
教育の基礎的理解に関 する科目	11単位	11単位
道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に 関する科目	10単位	8 単位
教育実践に関する科目	7 単位	5 単位
大学が独自に設定する 科目	1 単位	1 単位
小 計	61単位	61単位

教育職員免許法施行規 則第66条の6に定める 科目	9 単位	9 単位
合 計	70単位	70単位

- 第4条 本課程の授業科目の区分、単位数、必修選 択の別及び配当学期は別表に定める。
- 第5条 本課程を履修しようとする者は、教職課程 履修届を所定の期日までに提出しなければならな い。
- 2 本課程の履修を変更又は取り消そうとする者 は、事前に届け出なければならない。
- 第6条 本課程で履修する授業科目については、毎 回出席の上履修しなければならない。欠席が多い 等受講姿勢が著しく不良であると教職課程運営委 員会(以下「運営委員会」という。)が判断した 場合は、本学部教授会の議を経て、学長が以降の 本課程の履修の継続を認めない場合がある。
- 第7条 平成31年度以降の入学生が大学が独自に設 定する科目を履修するためには、運営委員会によ る審査に合格しなければならない。
- 第8条 「教育実習事前事後指導」、「教育実習 I 」及び「教育実習 II 」(以下「教育実習」という。) を履修するためには、中学校の免許状取得希望者にあっては、次の第1号から第4号まで、高等学校の免許状取得希望者にあっては、第1号から第3号までの全てを満たさなければならない。
 - (1) 運営委員会による審査結果の報告に基づき、 学長が教育実習受講適格者と認めた者であるこ と。
 - (2) 教育実習にかかる指導及びガイダンスに全て 出席していること。
 - (3) 下表に規定する科目区分等毎の単位数を取得見込みであること。

○平成31年度以降の入学生

科目区分	中学校教諭一種免 許状取得に必要な 単位数	高等学校教諭一種 免許状取得に必要 な単位数
教科及び教科の指導法 に関する科目	30単位 (理科教育法4単 位必ず含む)	34単位 (理科教育法2単 位必ず含む)
教育の基礎的理解に関 する科目		
道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に 関する科目	併せて17単位	併せて15単位
大学が独自に設定する 科目	学習支援実地演習 I~Ⅲから1単位	学習支援実地演習 I~Ⅲから1単位

(4) 「介護等の体験」を済ませている又は行う予定であること。

- 2 第1項に定めるもののほか、教育実習に関し必要な事項については、別に定める。
- 第9条 「教育実践演習(中・高)」は、教育実習を 修得見込でなければ履修できない。
- 第10条 この規程の改廃は、本学部教授会の議を経て、学長が行う。

附則

この規則は、平成24年4月1日より施行し、平成23年度入学生より適用する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日より施行する。(第4条別表の変更)

附則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。(第4条別表の変更)

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。(第4条別表の変更)

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。(第7条の変更、第4条別表の変更)

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。(第4条別表の変更)

附則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。(第 3条、第7条及び第8条第4項の規定の変更並びに 第4条別表の変更)

附則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。(第4条別表の変更)

附則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。(第4条別表の変更)

附則

この規程は、令和5年9月21日から施行する。(第4条別表の変更、第8条第4号及び第5号の規定の変更)

附則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。(第3条、第7条、第8条第3号の規定の変更及びに第4条別表の変更)

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。(第3条の変更、第4条別表の変更)

別表(1) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔令和7〔2025〕年度入学生より適用〕

						得のための		配当	学年	E • È	 	と単	位数	
↓ ≉ E	4	各科目に含めること	極要利 日	出层料		尺の区分	1	2	3	4	5	6	7	8
į	İ	が必要な事項	授業科目	単位数	中一種免	高一種免		年		年		年	4	年
					(理科)	(理科)	前	後	前	後	前	後	前	後
		物理学	物理学	2	必修	必修		2						
教			化学 I	2	必修	必修	2							
			化学Ⅱ	2	必修	必修		2						
科	教		無機化学	2	必修	必修				2				
及	科	化学	有機化学 I	2	必修	必修			2					
	11		物理化学	2	_	必修		2						
び	に		分析化学	2	_	必修		2						
+1/4	関		食品化学	2	_	必修			2					
教	大		生物科学	2	必修	必修						2		
科	す		生物学 I	2			2							
	る		生物学Ⅱ	2				2						
の	2	生物学	生化学 I	2	3科目	5科目			2					
指	専		生化学Ⅱ	2	選択必修	選択必修				2				
	門		微生物科学	2				-	2					
導	L.1		分子生物学	2							2			
法	的	地学 地学	地学	2	必修	必修		2						
	±.	(中学校)	物理学実験 *	1	必修	ata CII o				1				
K	事	物理学実験・化学実験・	応用生命科学基礎実験 [*	1	必修	*印の 科目よ	1							
関	項	生物学実験・地学実験	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	選択	竹日よ		1						
			応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修	日選択	1							
す		物理学実験、化学実験、	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択	必修		1						
る		生物学実験、地学実験	地学実験 *	1	必修			1	_	1				
رم			理科教育法 I	2	必修	必修		1	2					
科		は科の指導法	理科教育法Ⅱ	2	必修	選択		!		2				
I	(情報	報通信技術の活用を含む。)	理科教育法Ⅲ	2	必修	必修					2			
H			理科教育法Ⅳ	2	必修	選択						2		
	必要	臣单位数			32単位以上	36単位以上								
		教職の意義及び教員の役割・職務内容	教職概論	2	必修	必修	2							
		(チーム学校運営への対応を含む。)	324 124 124	_	~ .,	~.,		:		-				-
	教	教育の理念並びに教育に関する歴	教育原論	2	必修	必修					2			
関す	育の	史及び思想 幼児、児童及び生徒の心身の発達						!		-				-
す	基	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育心理学	2	必修	必修				2				
る科	礎													-
科日	的珊	校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度・行政	2	必修	必修					2			
目	解	特別の支援を必要とする幼児、児	## HULL ISS #1 -는 Itm = A		at the	at the								-
	12	童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修				1				
		教育課程の意義及び編成の方法(カ	松安司印印	0	N libr	N We								
		リキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必修	必修					2			
4L K	~ \ *	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	_				2				
本の	争道の徳	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な探究の	2	. 沙. 4欠	.以.4欠			2					
相相		総合的な探究の時間の指導法	時間の指導法		必修	必修			2					
談導	享総.	教育の方法及び技術	教育の方法及び技術(情報通											
等石	去台	情報通信技術を活用した教育の理	教育の万伝及の技術(情報通 信技術の活用含む)	2	必修	必修		2						
関で	メのアな	論及び方法												
自相談等に関する 相談等に関する	上探	生徒指導の理論及び方法												
る科技	も究	進路指導及びキャリア教育の理論	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修		!				2		
日道	草時	及び方法						!		_				<u> </u>
目頭	、間	教育相談(カウンセリングに関する基準的な知識な会な。)の理念及び表述	教育相談の理論と方法	2	必修	必修		!	2					
		礎的な知識を含む。) の理論及び方法		1					-		<u> </u>	1		-
1.	~ 對	 数去中羽	教育実習事前事後指導	1	必修	必修						1		-
科員	教育実践	教育実習	教育実習 I	2	必修	必修						2		-
目。	実	教職実践演習	教育実習Ⅱ	2	<u>必修</u> 必修	選択 必修		1			 '	2		2
1 %	5 践		教職実践演習(中・高) 単位数		28単位以上	24単位以上		<u> </u>	1	<u> </u>				
		<u> </u>	^{卑[☑]} 学習支援実地演習 I	1	40半世以上	44平世以上	_	=		-				_
すら	大学に	 大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅱ	1	1科目	1科目	-	1	-	<u>:</u> 1				-
るに	子が	八丁// 孤口に以此りる符目	学習支援実地演習Ⅲ	1	選択必修	選択必修	-	!	-]		<u>!</u>
目光	を独	一	子百又按美地俱音皿 単位数	1	1単位以上	1単位以上				:				
			<u> </u>	2	<u>1 年 世 以 上 </u> 必修	必修		2		1		;		
条	免		伝子 健康管理	2	必修	必修		2						-
6	计	体育	スポーツ	1	必修	必修		1						-
条の6に定める	施	 数理、データ活用及び人工知能に関					<u> </u>							-
定	行	数壁、ゲーダ石用及び八工知能に関	情報リテラシー基礎	2	必修	必修	2	į						
め	規則		英語 I	2	必修	必修	2							-
る科目	第	外国語コミュニケーション	英語Ⅱ	2	必修	必修	_	2						-
目	66	必要単位			11単位	11単位		: -			_			<u> </u>
		2.女手世	-2^		11+11	11-1-17		_						

別表(2) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔令和6〔2024〕年度入学生に適用〕

					教員免許取	得のための		配当	学年	: · È		と単	位数	Į
乖	ŀ	各科目に含めること	拉柴利 口	出仕私		尺の区分	1	2	3	4	5	_	7	_
彩 目	İ	が必要な事項	授業科目	単位数	中一種免 (理科)	高一種免 (理科)		年		年		年		年
		物理学	物理学	2				後 2	刖	後	前	後	前	î
		物理字	化学 I	2	<u>必修</u> 必修	<u>必修</u> 必修	2		 	<u> </u>		-	_	÷
教			化学Ⅱ	2	必修	必修		2	_	_				÷
科	教		無機化学	2	必修	必修				2				+
	科	 化学	有機化学 I	2	必修	必修		-	2	-		-		-
及	件		物理化学	2	_	必修		2						
び	に		分析化学	2	_	必修		2						H
41.	関		食品化学	2	_	必修			2					
教	天		生物科学	2	必修	必修						2		Ī
科	す		生物学 I	2			2							
0	る		生物学Ⅱ	2				2						
0		生物学	生化学 I	2	3科目	5科目			2			1	<u> </u>	1
指	専		生化学Ⅱ	2	選択必修	選択必修			_	2			<u> </u>	
導	門		微生物科学	2					2		_		<u> </u>	1
守		bi W.	分子生物学	2	at the	at the			<u> </u>	<u> </u>	2	<u> </u>		-
法	的	地学	地学	2	必修	必修		2	<u> </u>	_		-	<u> </u>	-
ız	事	(中学校)	物理学実験 *	1	必修	*印の	1	-	<u> </u>	1		-	<u> </u>	-
	•	物理学実験・化学実験・	応用生命科学基礎実験 I * 応用生命科学基礎実験 Ⅳ	1	必修 選択	科目よ	1	1	<u> </u>	_		-	_	÷
関	項	生物学実験・地学実験 (高校)	応用生命科字基礎美験IV 応用生命科学基礎実験II *	1	選択 必修	り2科	1	1	\vdash	-				-
す		(同仅) 物理学実験、化学実験、	応用生命科学基礎実験Ⅲ * 応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択	目選択	1	1		-		-		-
,		生物学実験、地学実験	地学実験 *	1	必修	必修		1	\vdash	1				+
る		I	理科教育法 [2	必修	必修			2					+
科	么粉	は科の指導法	理科教育法Ⅱ	2	必修	選択			-	2		-		+
		報通信技術の活用を含む。)	理科教育法Ⅲ	2	必修	必修					2			H
目			理科教育法IV	2	必修	選択						2		H
		必要単作		ļ.	32単位以上	36単位以上		_		_	_	_	_	<u>-</u>
		教職の意義及び教員の役割・職務内容	教職概論	2	必修	必修	2							T
		(チーム学校運営への対応を含む。)	存义		少1/6	化修							<u></u>	
	教	教育の理念並びに教育に関する歴	教育原論	2	必修	必修					2		l	
関	育	史及び思想	3.4.17.7.11111		21/2	219		<u> </u>	_	_			<u> </u>	-
対す	基	幼児、児童及び生徒の心身の発達	教育心理学	2	必修	必修				2			l	
る	礎	及び学習の過程 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学						_	_	<u> </u>			_	∺
科目	的	教育に関する社会的、制度的人は程書的事項(子 校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度・行政	2	必修	必修					2		l	
H	理解	特別の支援を必要とする幼児、児												+
	ίΞ	童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修				1			l	
		教育課程の意義及び編成の方法(カ	教育課程論	2	必修	必修					2			1
		リキュラム・マネジメントを含む。)				化%							Щ.	-
教等	と、岩	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	_				2			<u> </u>	
教 ♥)徳	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な探究の	2	必修	必修			2				l	
植推	2	総合的な探究の時間の指導法	時間の指導法		219	2 19				_			Ь—	
談學	是総	教育の方法及び技術	 教育の方法及び技術(情報通	_	A 16	N 14-		~					I	
ずにア	的	情報通信技術を活用した教育の理	信技術の活用含む)	2	必修	必修		2					I	
関し	がな	論及び方法 は法と道の理念をが去せ						-	\vdash	-			<u> </u>	-
すなな	探	生徒指導の理論及び方法		2	 必修	.i'V #/5°						2	I	
教育相談等に関する科目での指導法及び生徒指導	元	進路指導及びキャリア教育の理論 及び方法	生徒・進路指導の理論と方法		少修	必修 						4	I	
目導	詩時	教育相談(カウンセリングに関する基	La transfer and the second sec						\vdash	<u> </u>				+
	間	礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	必修			2				I	
			教育実習事前事後指導	1	必修	必修						i		1
科関	教	教育実習	教育実習I	2	必修	必修						2		1
科関ロコ	育中		教育実習Ⅱ	2	必修	選択					_	2		
目する	夫践	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修	必修								2
- 4	٧		単位数		28単位以上	24単位以上			_	_	=	_		
すÉ	大		学習支援実地演習 I	1	1 私口	1 私 口		1					\Box	I
るに	学	大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅱ	1	1 科目 選択必修	1 科目 選択必修				l				
科記	大学が独		学習支援実地演習Ⅲ	1									L	
日 江	二四		単位数		1単位以上	1単位以上		_	_	_	_			_
条	免.	日本国憲法	法学	2	必修	必修		2						
0	許	体育	健康管理	2	必修	必修		2	_		_		<u> </u>	
6	法族		スポーツ	1	必修	必修		1	_		_		_	
定	他行	数理、データ活用及び人工知能に関	情報リテラシー基礎	2	必修	必修	2						I	
の6に定める科目	規	する科目 又は 情報機器の操作				**		-	<u> </u>	-	<u> </u>	-		+
る	則	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1	必修	必修	1	-	<u> </u>	<u>-</u>	<u> </u>			-
科目	男 66		英語Ⅱ	1	必修	必修		1	<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>		<u>!</u>
	UU	1 必要」	単位数		9 単位	9 単位								

別表(3) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔令和5〔2023〕年度入学生に適用〕

					数 目在新肋	但のわめの		阳业	一一	: . <i>i</i>	> 田	と単位	台 粉	r
at:	ы				教員免許取 必修選打		1	ac≡ 2	3	4	5 5	6	<u> 7</u>	_
乘 [* }	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数	中一種免	高一種免		<u>-</u> 年		_ -4_ 年		年	-	c - 年
					(理科)	(理科)		後	前	後		後	前	後
		物理学	物理学	2	必修	必修		2						
教			化学 I	2	必修	必修	2							
			化学Ⅱ	2	必修	必修		2						\top
科	教		無機化学	2	必修	必修				2				\top
T	科	 化学	有機化学 I	2	必修	必修			2					
及	14		物理化学	2	_	必修		2	ļ —					+
び	12		分析化学	2	_	必修		2						÷
			食品化学	2		必修		- 4	2					+
教	関		生物科学	2	必修	必修		_				2		÷
科	す		生物学Ⅰ	2	光刊多	光刊多	2							+
什	,		生物学Ⅱ	2				2			-			÷
の	る	 生物学	生化学 I	2	2 취 ㅁ	드쉬ㅁ			2					+
,,,	#	生初子	生化学Ⅱ	2	3 科目 選択必修	5 科目 選択必修				2	\vdash			÷
指	専			2	医扒化%	医扒化1%						:		÷
導	門		微生物科学					-	2					÷
- 13		M W	分子生物学	2	At 1600	at the					2			÷
法	的	地学	地学	2	必修	必修		2		-	<u> </u>			-
	事	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験 *	1	必修	*印の				1	<u> </u>			-
に	+	 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験 I *	1	必修	科目よ	1	-			<u> </u>			1
関	項	7 (17)	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	選択	り2科		1			_			1
		 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修	日選択	1							-
す			応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択	必修		1						
る		地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	必修					1				
6			理科教育法 I	2	必修	必修			2					
科	各教	(科の指導法	理科教育法Ⅱ	2	必修	選択				2				T
		報通信技術の活用を含む。)	理科教育法Ⅲ	2	必修	必修					2			T
目			理科教育法IV	2	必修	選択						2		Ī
		必要単位				36単位以上						_		÷
_		教職の意義及び教員の役割・職務内		_			_							T
		容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職概論	2	必修	必修	2							
	教	教育の理念並びに教育に関する歴	M	_	V 66-	\t \t.								t
	有	史及び思想	教育原論	2	必修	必修					2			
関	Ø.	幼児、児童及び生徒の心身の発達	41.75 A TH W	0	ot like	ot like				_				T
す	基礎的	及び学習の過程	教育心理学	2	必修	必修				2				
る私	從	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学	セナルウ ケア	0	ot like	ot like								
日	理	校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度・行政	2	必修	必修					2			
Ц	解	特別の支援を必要とする幼児、児	此 DD → 1公 初 → 大地 □ □ ∧	,	ot like	ot like				,				I
	に	童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修				1				
		教育課程の意義及び編成の方法(カ	业 -左=用41-5人	0	it libr	it libr								Ī
		リキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必修	必修					2			
uı k	-t- sate	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	_				2				
	穿道 徳	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な探究の	0	ot like	ot like								1
月り相は	戸徳、	総合的な探究の時間の指導法	時間の指導法	2	必修	必修		2						
淡草	草総	教育の方法及び技術												T
等污	去合	情報通信技術を活用した教育の理	教育の方法及び技術(情報通	2	必修	必修			2					-
に及	と 的	論及び方法	信技術の活用含む)	_		~ 12			-					
対し	上探	生徒指導の理論及び方法												-
る行	の旨算去及び上走旨算偲、総合的な探究の時	進路指導及びキャリア教育の理論	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修		:				2		1
科技	旨の	及び方法				12								
日草	算時 間	教育相談(カウンセリングに関する基	松本和歌の理会とより		N like	N like								Ī
	[日]	礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	必修			2					i
нн	+//-		教育実習事前事後指導	1	必修	必修						i		
関す	教	教育実習	教育実習Ⅰ	2	必修	必修					_	2		
9 ろ	宇	0.11751	教育実習Ⅱ	2	必修	選択						2		÷
科	教育実践に	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修	必修								
目	12		単位数		28単位以上			:						÷
_		2.5	学習支援実地演習 I	1			7	1			$\overline{}$			-
すして	自こ党が独 定	 大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅱ	1	1科目	1 科目								+
回り	こ子が	八丁// 孤日に臥たりる符目	学習支援実地演習Ⅲ	1	選択必修	選択必修			-	_	<u> </u>	: 		-
	全独	וווו עי	子育又抜夫地凋音 II 単位数	1	1単位以上	1 単位以上					\sqsubseteq		<u> </u>	_
_				0			_	0			_	-		,
条	免	日本国憲法	法学	2	必修	必修		2						÷
0	二十	 体育	健康管理	2	必修	必修		2			<u> </u>	\vdash		+
6	法		スポーツ	1	必修	必修]	<u>l</u>			<u> </u>			1
定	祀行	数理、データ活用及び人工知能に関	情報リテラシー基礎	2	必修	必修	2	:						-
め	規	する科目 又は 情報機器の操作									<u> </u>			1
7	則	 外国語コミュニケーション	英語 I	1	必修	必修	1	-						1
5									1			. 7	i .	
の6に定める科目	第		英語 Ⅱ 単位数	1	必修	必修		1						1

別表(4) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔令和4〔2022〕年度入学生に適用〕

					数目在新面	得のための		配业	(学年	E . A	芝 相	と単	台粉	Ť
4	١٠					代の区分	1	2	3	4	5		7	_
利 E	ት]	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数	中一種免	高一種免		<u>년</u> 年	_	<u> 4</u> 年		<u>し</u> 年		年
-	,				中一性兄	同一性兄		後		後	_	後	前	
		物理学	物理学	2	必修	必修		2	יינו	1/2	נינו	1/2	יים	#
.,		70年于	化学I	2	必修	必修	2					-		+
枚			化学Ⅱ	2	必修	必修		2				! 		÷
科	教		無機化学	2	必修	必修				2		-		÷
		 ∤レ賞	有機化学 I	2	必修	必修			2	-				+
及	科	化学		2	火沙湾 —			0						÷
バ	に		物理化学			必修		2		-		-		÷
)`	٧.		分析化学	2		必修		2	0	-		-		÷
枚	関		食品化学	2	ot ble	必修			2	-		-		÷
	. 1_		生物科学	2	必修	必修		-		1		2		÷
科	す		生物学Ⅰ	2			2					-		+
か	る		生物学Ⅱ	2				2				-		1
		生物学	生化学 I	2	3科目	5科目			2					1
旨	専		生化学Ⅱ	2	選択必修	選択必修				2				i
عد	門		微生物科学	2					2					1
	Il		分子生物学	2							2	1		1
去	的	地学 地学	地学	2	必修	必修		2				1		1
		物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験 *	1	必修					1				I
Š	事		応用生命科学基礎実験 I *	1	必修	*印の	1							Ī
H	項	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験IV	1	選択	科目よ		1						Ī
関	火	上版学中版/ランパーングロンムと	応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修	り2科 目選択	1					!		Ī
す		生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択			1						Ť
		 地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	必修	必修				1				Ť
3		1 /- /- / H/H & H 0 0/	理科教育法Ⅰ	2	必修	必修			2	-				÷
4	夂點	(科の指導法	理科教育法Ⅱ	2	必修	選択			Ť	2				Ť
7		報通信技術の活用を含む。)	理科教育法Ⅲ	2	必修	必修		-		-	2	-		÷
1	(1137	RELIXE VIOLET CO.	理科教育法Ⅳ	2	必修	選択		-		-	-	2		÷
		必要単			32単位以上	36単位以上				-				÷
_		教職の意義及び教員の役割・職務内容		1	32年区外工	10年世級工			Ī	;	_	;		÷
		(チーム学校運営への対応を含む。)	教職概論	2	必修	必修	2							-
関	教育	教育の理念並びに教育に関する歴 史及び思想	教育原論	2	必修	必修					2			-
関する	基	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育心理学	2	必修	必修				2				
る科目	的	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度·行政	2	必修	必修					2			-
	解に	特別の支援を必要とする幼児、児 童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修				1				-
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必修	必修					2			Ť
_		道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	_				2		!		÷
女争	を 道った	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な学習の	2	必修	必修		2						+
目指近	にに総	総合的な学習の時間の指導法 教育の方法及び技術	時間の指導法		2016	化顺								+
等こ門を	合的な	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法及び技術(情報通 信技術の活用含む)	2	必修	必修		! ! ! !	2					
付けるで	デン 計算法 及が 主走 計算、退徳、総合的な学習の時間	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修						2		T
打造	日暮れ	及び方法 教育相談 (カウンセリングに関する基	 教育相談の理論と方法	2	必修	必修			2					+
	. ,	礎的な知識を含む。)の理論及び方法		_								!		į
閗	對		教育実習事前事後指導	1	必修	必修							1	
ずす	育	教育実習	教育実習I	2	必修	必修							2	
る	教育実践に		教育実習Ⅱ	2	必修	選択			L		L		2	_
科日	践	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修	必修								İ
H	V _	必要	単位数		28単位以上	24単位以上								_
- É	1 +		学習支援実地演習 I	1	1 41 🗆	1 #1 🗆		1						Ī
1	大学が独 定数	大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅱ	1	1 科目 選択必修	1 科目 選択必修		L	L	1	L		L	-
· il	とが!		学習支援実地演習Ⅲ	1	透扒化%	选扒化修						1		-
Į Ž	ビ独	必要.	単位数		1単位以上	1単位以上		_	_	_	=	=	_	_
6	免	日本国憲法	法学	2	必修	必修		2				:		Ŧ
i	許		健康管理	2	必修	必修		2						Ť
定	法	体育	スポーツ	1	必修	必修		1		1				ŧ
めっ	施		生命情報科学概論	1	必修	必修	1	i		-		:		÷
る利	打押	 情報機器の操作	生命情報科学演習 I	0.5	必修	必修	0.5			-		-		+
17	別	1月十八八天右庁マノリオート 					_	-		-		!		÷
Ħ	给		生命情報科学演習 Ⅱ 英語 I	0.5	<u>必修</u> 必修	必修必修	1	0.5						+
目	カフ						1 1		i .		1		1	1
に定める科目	名 66 条	外国語コミュニケーション	英語Ⅱ	1	必修	必修	-	1				!		÷

別表(4)付表

別表(4)付表と別表(3)の授業科目対応表

令和4年度入学生が左欄の科目を令和5年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表(4)の授業科目	別表(3)の授業科目
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法
生命情報科学概論	情報リテラシー基礎
生命情報科学演習I	
生命情報科学演習 Ⅱ	生命情報科学演習※

[※]新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程 別表1の1参照

別表(5) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔平成31〔2019〕年度から令和 3〔2021〕年度 入学生に適用〕

					教員免許取	得のための				E • È		と単位	
科目	ŀ	 各科目に含めることが必要な事項	 授業科目	単位数	必修選技	尺の区分	1	2	3	4	5	6	7
B		谷村日に占めることが必安な事項	技术行日 	牛匹奴	中一種免	高一種免	1:			年	_	年	4年
					(理科)	(理科)	前	後	前	後	前	後	前
		物理学	物理学	2	必修	必修		2					
牧			化学 I	2	必修	必修	2						
-	.tur		化学Ⅱ	2	必修	必修		2					
斗	教		無機化学	2	必修	必修				2			
及	科	化学	有機化学 I	2	必修	必修			2				
×	71		物理化学	2	_	必修		2					
ゾ	に		分析化学	2	_	必修		2					
	BB		食品化学	2	_	必修			2				
牧	関		生物科学	2	必修	必修			-			2	
斗	す		生物学 I	2	212	219	2			-			-
7	ĺ		生物学Ⅱ	2				2					-
0	る	 生物学	生化学 I	2	3 科目	5 科目			2				-
,	車	1 1 1 1	生化学Ⅱ	2	選択必修	選択必修			_	2			-
H	子		微生物科学	2	(五)(五)(医八名响			2				
拿	門		分子生物学	2			-	-		-	2		-
		地学	地学	2	i'l Wr	必修		0		-			
去	的				必修	少修		2		1			
-	事	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験 *	1	必修	*印の	-	-	_	1			
-	-J-r	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験 I *	1	必修	科目よ	1	-				\vdash	į
	項	- 1,712.1	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	選択	り2科		1					
		 生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修	目選択	1						
-			応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択	必修		1					
		地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	必修					1			
·			理科教育法 I	2	必修	必修			2				
	各教	対科の指導法	理科教育法Ⅱ	2	必修	選択				2			
	(情報	報機器及び教材の活用を含む。)	理科教育法Ⅲ	2	必修	必修					2		
			理科教育法IV	2	必修	選択						2	
Ì		必要単位			32単位以上	36単位以上							
		教職の意義及び教員の役割・職務内					_						- 1
		容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職概論	2	必修	必修	2						
i	教	教育の理念並びに教育に関する歴 史及び思想	教育原論	2	必修	必修					2		
関する	基	女人の心心 幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育心理学	2	必修	必修				2			
る科目	礎 的 理	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度・行政	2	必修	必修					2		
1	解に	特別の支援を必要とする幼児、児 童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修				1			
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必修	必修					2		
· 华	声道	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	_						2	-
in	、	特別活動の指導法			光刊多					-			
指導	自総	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の 時間の指導法	2	必修	必修		2					
法及江	合的な	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2	必修	必修			2				
生徒指	に、総合的な学習の時	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論 及び方法	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修						2	
~	時間	教育相談(カウンセリングに関する基 礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	必修			2				
18	松		教育実習事前事後指導	1	必修	必修							1
Y-1	· 合	教育実習	教育実習 I	2	必修	必修	L		L	_	L]	2
判: す:	H		教育実習Ⅱ	2	必修	選択			L		L	ד⊒	2
対する	実					必修			L				
対する科目	実践に	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修								
判する計目	実践に			2	必修 28単位以上	24単位以上					_		
_			教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I	1	28単位以上	24単位以上		l l					
自に設	大学が		教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅱ					l		1		1	
自に設	実践に 大学が独	必要. 大学が独自に設定する科目	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ	1 1	28単位以上 1 科目 選択必修	24単位以上 1科目 選択必修		l I		1	-	1	
自に設定	大学が独	必要 大学が独自に設定する科目 必要	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数	1 1 1	28単位以上 1 科目 選択必修 1 単位以上	24単位以上 1科目 選択必修 1単位以上		1		1		1	
自に設定	大学が独	必要 大学が独自に設定する科目 必要 日本国憲法	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学	1 1 1	28単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1 単位以上 必修		2		1		1	
自に設定	大学が独	必要 大学が独自に設定する科目 必要	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学 健康管理	1 1 1 2 2	28単位以上 1 科目 選択必修 1 単位以上 必修 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1 単位以上 必修 必修		2		1	-	1	
自に設定 6に定め	大学が独一免許法施	必要 大学が独自に設定する科目 必要 日本国憲法	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学 健康管理 スポーツ	1 1 1 2 2 1	28単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修	_	2		1	-	1	
自に設定 6に定め	大学が独一免許法施	必要 大学が独自に設定する科目 必要 日本国憲法 体育	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学 健康管理 スポーツ 生命情報科学概論	1 1 1 2 2 2 1	28単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1 単位以上 必修 必修 必修 必修	1	2				1	
自に設定 6に定め	大学が独一免許法施	必要 大学が独自に設定する科目 必要 日本国憲法	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学 健康管理 スポーツ 生命情報科学概論 生命情報科学演習 I	1 1 1 1 2 2 2 1 1 0.5	28単位以上 1科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修 必修	_	2		1	-	1	
自に設定 6に定め	大学が独一免許法施	必要 大学が独自に設定する科目 必要 日本国憲法 体育	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学 健康管理 スポーツ 生命情報科学概論 生命情報科学演習 Ⅱ	1 1 1 2 2 2 1 1 0.5 0.5	28単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修 必修 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1 単位以上 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 0.5	2		1	-	1	
関する科目 自に設定 6に定める科目	大学が独一免許法施	必要 大学が独自に設定する科目 必要 日本国憲法 体育	教職実践演習(中・高) 単位数 学習支援実地演習 I 学習支援実地演習 Ⅲ 学習支援実地演習 Ⅲ 単位数 法学 健康管理 スポーツ 生命情報科学概論 生命情報科学演習 I	1 1 1 1 2 2 2 1 1 0.5	28単位以上 1科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修 必修	24単位以上 1 科目 選択必修 1単位以上 必修 必修 必修 必修	1 0.5	2		1		1	

別表(5)付表

別表(5)付表と別表(3)の授業科目対応表

平成31年度から令和3年度入学生が左欄の科目を令和5年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表(5)の授業科目	別表(3)の授業科目
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法
生命情報科学概論	
生命情報科学演習I	- 情報リテラシー基礎
生命情報科学演習Ⅱ	生命情報科学演習※

[※]新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程 別表1の1参照

資 料

履修登録について

事務部教務課

履修登録は、学期毎に指定された期間にインターネットに接続したPC等から行うことができます。 <u>履修登録をしていない科目および登録に不備のある科目については授業に全て出席しても試験を受ける</u> ことはできず、単位を取得できませんので、間違いのないように登録を完了してください。

1. 履修登録に必要な資料

- シラバス: 今年度開講される科目の授業内容が記載されています。「応用生命科学部授業科目単位 配分表」をよく読み、進級・卒業または資格取得のためにはどの科目を修得すればよい のかを確認し、各自で履修計画をたてなければなりません。特に留年を経験した学生や、 再履修科目を履修しなければならない学生は、履修のルールをよく理解してください。
- 履修ガイド:各学科の授業科目履修規程を各自で確認してください。
- 授業時間割表:今年度開講される各学年、各学科の全科目の時間割が記載されています。
- 成績通知書: 直近にポータルサイトで開示された「学業成績通知書」で単位の取得状況およびGP Aをチェックしてください。

登録できる上限単位数(CAP)は、年度末に通知する「履修登録単位上限数について」を必ず確認してください。

教務課ではいつでも皆さんからの履修相談に応じます。成績表の見方、進級に必要な科目や単位数、 資格取得に必要な科目等何でも尋ねてください。相談の際は、上記の資料を持ってきてください。

2. 履修登録日程

	2. 腹形豆蚜口性							
項目	前期·夏期集中講義 (前期科目)	夏期集中講義 (後期科目)	後期	注意等				
全学共通科目 履修登録	4/2(水)~ 4/9(水)	_	_	ポータルサイトのアンケートから回答して ください。 詳細は別途連絡します。				
Web 履修登録説明会 (前期・新入生のみ) ↓	4/2(水)	_	_	新入生の皆さんはオリエンテーションで配付されている ID・パスワード通知書を必ず持参してください。また無くさないよう大切に保管してください。 (再発行する場合は翌日発行となります)				
履修科目の選定 ↓	授業開始後 ~	-	授業開始後	選択科目は初回から積極的に参加して決め てください。				
再履修出席免除手続 ↓				出席免除手続きをする場合は、4. 再履修 科目及び次年次科目の履修登録についての ①を読んで手続してください。				
履修計画表に記入 ↓				予め履修計画表を作成して登録の準備をす ると良いでしょう。				
履修登録 本番 ↓	4/1(火)~ 4/14(月) 17:00	7/14(月)~ 7/18(金) 9:00	9/24(水)~ 10/2(木) 17:00	期間内は何度でも修正可能。 期間終了後の追加登録はできません!				
【重要】 時間割表の受領・確認 履修登録取消期間 ↓	4/17(木)~ 4/21(月) 17:00	7/22(火)~ 7/24(木)	10/7(火)~ 10/9(木) 17:00	確認用の時間割を必ず受領して、すぐに内容を確認。取消があれば、赤字で修正して 教務課に再提出。取消がなければここで登録完了。				
時間割の最終確認	4/22(火)	7/25(金)	10/10(金)	修正版の時間割表を必ず教務課で受け取り、 確認して完了。 <u>確認を怠ったために、履修</u> できなかった人が毎年います。各自の責任 になりますので注意してください。				

3. 利用環境

【利用施設等】

- ・情報実習室、図書館等学内 LAN に接続のパソコンから利用できます。
- ・無線 LAN 使用可能エリア(A 棟エントランスホール、B 棟各講義室、C 棟地下 2 階臨床大講義室及びロビー、C 棟 1 階ロビー及びカフェテリア、C 棟 2 階学生ロビー、D 棟 2 階・3 階ロビー、J 棟 1 階図書館、J 棟 2 階大講義室、J 棟 2 階ロビー及び学生自習室、K 棟体育館及びロビー、L 棟(部室棟)共用スペース、新津駅東キャンパス)からも自分のパソコンを持ちこんで利用できます。
- 学外からもアクセスできます。

【利用時間】

・利用時間は各施設の開放時間に準じます。

【その他】

- ・登録の際に不明な点がある場合は、教務課に問い合わせてください。 (ただし、平日 17:00~08:35 および土日祝日は対応できません)
- ・登録最終日は混雑しますので、なるべく早く履修計画を立てて、登録を済ませるよう心がけてください。
- 4. 再履修科目及び次年次科目の履修登録について

(1) 再履修科目の出席免除を願い出る方は・・・

授業をしっかり受けて(3分の2以上出席して) 「試験を受けたけれども不合格となった必修科目(未修得必修科目)は、上級学年に進級しても合格するまで履修(再履修)し続けなければなりません。 未修得必修科目と自分の今の学年の必修科目が同じ時間に開講されていて授業に出られない場合は、 履修登録時点で在籍している学年の必修科目に出席しなければなりません。このような場合、届出することにより、未修得必修科目の担当教員が、授業への出席に代えて別の学習を指定することがあります。該当する場合は①②の手順で出席免除の手続きをしてください。

- ①事務室設置の『再履修科目の授業出席免除願』に必要事項を記入し、科目担当教員の許可 (サイン、印鑑)を受けて教務課へ提出してください。
- ②提出期限後に教務課で履修登録します。履修取消期間終了後、ポータルサイトに反映されます。再履修出席免除の授業は集中講義の欄に表示されます。
- ※再履修出席免除は科目担当者の判断で認められないこともあります。 その場合は翌年度以降に再履修してください。

(2) 留年経験のある方は・・・

時間割に余裕がある場合は次年次の授業も履修することができます。Web で履修登録する際は登録方法が少し複雑になりますので、教務課にマニュアルを取りに来てください。

履修計画表

自分の履修計画を記入し、登録の際の資料にしてください。また、履修相談の際に利用してください。

◎自分の 【前期】)直近年度のG P	PA () -	→今年度履修登録□]能単位(単位)
	月	火		木	金
			-		
1					
2					
3					
4					
5					
実験・ス	ポーツ等				
集中講	隻				
	出席免除				
科目等)					
【後期】					
	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
•					
5					
実験・ス	ポーツ等				
集中講義	Š				
その他(科目等)	出席免除				
14 H 🛨	1		1		

履修登録単位数の確認

【入学年度と授業科目単位配分表の対応】(自分がどの別表か確認しましょう。)

	応用生命科学科	生命産業ビジネス学科 /生命産業創造学科
別表第1の1	25S∽	25S∽
別表第1の2	24S	235、245
別表第1の3	23S	22S
別表第1の4	22S	21S
別表第1の5	21S	19S、20S
別表第1の6	208	

※例えば、学籍番号25Sは2025年度入学生を意味します。

※転学部、転学科などを含む編入した学生は、上記表に適用しないため、事務部教務課に確認してください。

【履修単位数確認表】①~⑦の順に、合計単位数が履修登録単位数の上限内に収まるように単位数を入れてください。

	学年	前期	後期	合計	
1	教養必修(在籍年次)				←自分の入学年度に応じた別表の付表1を確認する。
3	教養必修(過年次)				※前年度以前の未修得科目(1年生はなし) 再履修出席免除の単位数も含む。
⑤	教養選択				
2	専門必修(在籍年次)				←自分の入学年度に応じた別表の付表1を確認する。
4	専門必修(過年次)				※前年度以前の未修得科目(1年生はなし) 再履修出席免除の単位数も含む。
7	専門選択				
6	自由科目] ※2019年度までの入学生は除外します。
Δ	夏期集中講義科目				←除外します。CAP制対象外
	合計				※履修登録単位数の上限を上回っていないことを確認してください。
	今年度履修登録単位数の上限				

【入学年度の履修登録単位数の上限】

2020年度以降入学生は49単位

【2年次以降の前年度GPAとCAPの対応表】

	2020年度以	以降入学生	2019年度までの入学生		
前年度GPA	応用生命科学科	生命産業ビジネス学科 /生命産業創造学科	応用生命科学科	生命産業創造学科	
3.0以上	49		59	58	
2.5以上3.0未満	48		57	56	
1.5以上2.5未満			53	52	
1.5未満	47		49	48	

教職課程について

教職課程運営委員会

【教員免許】

応用生命科学部応用生命科学科では、教職課程を履修することにより「中学校教諭一種免許状(理科)」「高等学校教諭一種免許状(理科)」を取得することができます。また通信教育を併用することで「小学校教諭二種免許状」の取得も可能です。年度によって差はありますが、毎年10~20人程度が教職課程を履修しています。

【高い教員就職率】

2024年度4年生の教員免許取得者は9人でした。このうち8人が教員採用試験に臨み、7人が現役で教員採用試験(新潟県、新潟市、宮城県、山形県)に合格しました。また昨年までに卒業した既卒生を含めると、理科教職コースの学生は10年間で70名以上が正規採用されています。この教員就職率は、新潟県はもちろん教職課程を持つ私学ではトップクラスです。その他の卒業生も教員志望者は講師として教壇に立っています。さらに教職大学院に進学して学びを継続している学生もいて、いずれも最終的には正規教員として採用されることを目指しています。

【中高免許の取得】

教員免許を取得するためには、卒業に必要な124単位以外にも単位を取得しなければなりません。たとえば1年生では「教職概論」などを自由科目として取得する必要があります。また、これ以外にも教員免許状取得のためには、教養選択科目(自然科学系)として「物理学」「地学」、3年次または4年次の教育実習なども必ず受講する必要があります。つまり、教員免許を取得するためには、1年生の時から教職科目を計画的に履修していく必要があります。2年生になってから教職課程を始めることも可能ですがとても大変です。従って1年次最初から必要な単位を履修することを心がけましょう。詳細は4月初めに教職オリエンテーションを行いますので、まず参加して、説明を聞いてみてください。

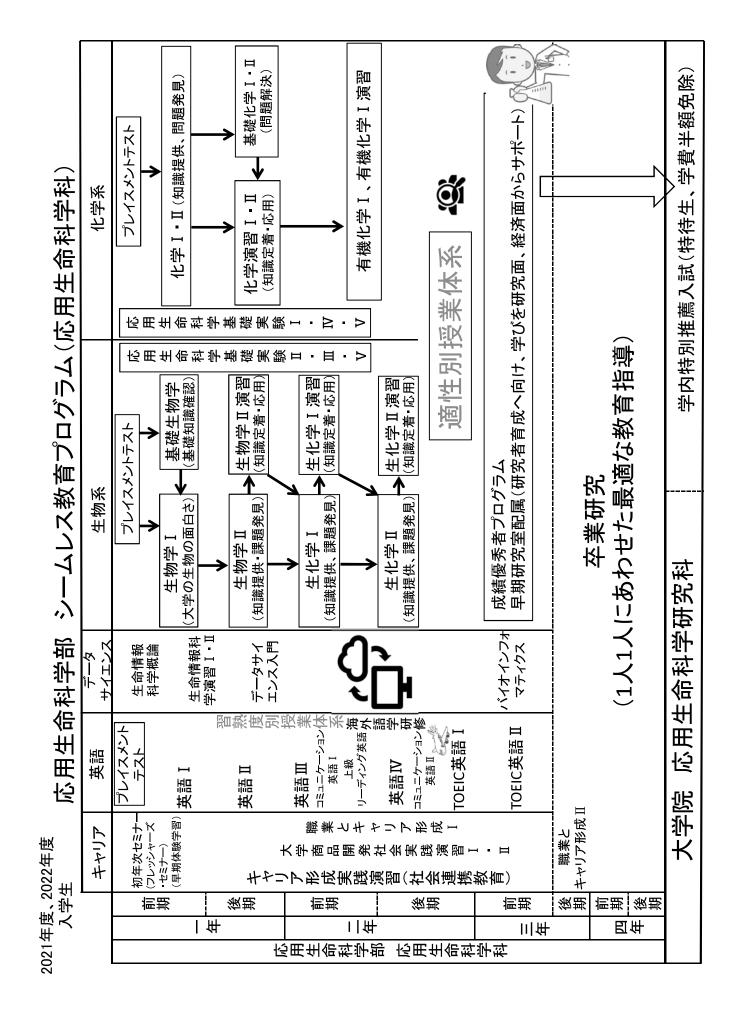
【小学校免許の取得】

中学校教職課程履修者は、明星大学との教育業務提携により、在学時に小学校教諭二種免許状の取得が可能です。これは2年次の4月から科目等履修生として学修を開始し、通信教育を利用して卒業までの3年間で免許を取得するものです。現在、小学校でも教科担任制が進められており、各分野(理科、外国語、数学、体育)における高い専門性を持つ教員が求められています。本学で小学校免許を取得することにより、理科の楽しさを教えることができる小学校教員になれます。現在まで4人が小学校で正規採用されており、在学生でも複数名が小学校教員を目指しています。履修方法や経費など、詳細は毎年11月頃説明会を開催します。

教職課程の履修は、免許状(資格)を取得するだけでなく、学習支援実地演習や教育実習など、 多様な子ども/大人との関わりがあり、コミュニケーションや自己表現の能力等、汎 用的な資質:能力を育成する価値ある学びの機会です。

化学演習 I (知識定着·応用) 化学演習 I (知識定着・応用) 有機化学演習 I (知識定着・応用) (基礎知識確認) 基礎化学 I 基礎化学工 (課題解決) 半額免除) プレイスメントテスト 成績優秀者プログラム早期研究室配属(研究者育成へ向け、学びを研究面、経済面からサポート 个 **学費**: シームレス教育プログラム(応用生命科学科 (知識提供・問題発見) 化学系 (知識提供・課題発見) (知識提供 課題発見) 有機化学 I 特別大学院入試(特待生 化学工 行评 適性別授業体系 応用生命科学基礎実験 ≥ (1人1人にあわせた最適な教育指導) 応用生命科学基礎実験 Ħ > , 生化学工演習 (知識定着·応用) 生物学工演習 (知識定着•応用) 基礎生物学 I (基礎知識確認) 生物学 I 演習知報定着 応用) (基礎知識確認) 基礎生物学工 プレイスメントテス 个 卒業研究 个 生物系 知識提供、課題発見) (知識提供、課題発見) 大学の生物の面白さ) 知識提供•課題発見) 生物学工 生化学工 生化学I 生物学 応用生命科学研究科 生命情報科学 演習 **応用生命科学**部 ゲータ サイエンス バイゲイソレド 情報リテラシー マティックス 情報リテラン 引用 習熟度別授業体系 海外語学 伊徳 TOEIC®演習 II プレイスメント TOEIC®演習 I ビジネス英語 147十分1 HUT-LADI 英語IV 英語工 リードィング 英語工 テスト 英韶 上級英語 英部] 大学院 大学商品開発社会実践演習 レフッツャーズ 早期体験学習 キャリア形成Ⅱ キャリア形成 4417 職業と 職業と - ンシップ実践演習 2025年度以降 キャリア形成実践演習(社会連携教育) 入学生 温型 後期 **信职** 後期 **信职** 後期 指型 後期 一年 二年 川仲 四年 応用生命科学部 応用生命科学科

化学演習 I (知識定着・応用) 化学演習 I (知識定着・応用) 有機化学演習] (知識定着・応用) 基礎化学 基礎化学 (問題解決) (問題解決) 半額免除) 学びを研究面、経済面からサポート) プレイスメントテスト 小 費 シームレス教育プログラム(応用生命科学科 ģí 化学系 知識提供 - 問題発見) 知識提供。問題発見) 知識提供 - 問題発見) (特待生、 有機化学 I 化评 化平 米 学内特別推薦入試 长 継 応用生命科学基礎実験 \geq 別城 (1人1人にあわせた最適な教育指導) 応用生命科学基礎実験U Ħ > 成績優秀者プログラム 早期研究室配属(研究者育成へ向け、 生物学工演習 (知識定着 応用) 生化学工演習 (知識定着·応用) 生化学 I 演習 (知識定着·応用) 刊 基礎生物学 (基礎知識確認) 炯 プレイスメントテスト 个 卒業研究 生物系 大学の生物の面白さ) (知識提供・課題発見) 知識提供、課題発見) 知識提供、課題発見) 生物学工 生化学 I 生化学口 生物学 **哈科学研究科** ベイナイソレキ **応用生命科学**部 生命情報科 学演習 サイエンス 情報リテラシ 情報リテラシ マティクス データ 引用 応用生 上級・ディング英語な子ディング英語語を指揮を開発を表現しませた。 ビジネス英語 習熟度別授業体系 職業と | キャリア形成 I | TOEIC英語 II コミューケーション プノイスメント ^{英語 I}TOEIC英語 I コミューケーション 英韶 テスト 英語 I 英語IV 英語日 \blacksquare 英語 英語 大学院 キャリア形成Ⅱ 社会実践演習 早期体験学習 レフシツャーズ キャリア 職業と 大学商品開発 2023年度、2024年度 セミナ キャリア形成実践演習(社会連携教育) **汽票** 後期 指型 後期 **涅斯** 後期 指型 後期 一件 二年 四年 川年 応用生命科学部 応用生命科学科

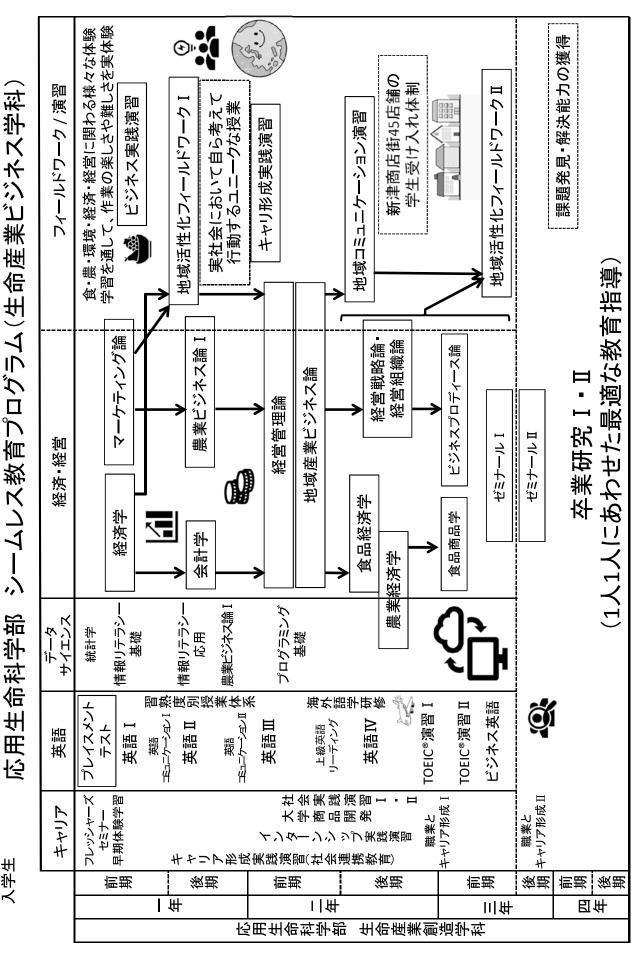


シームレス教育プログラム(応用生命科学科) **応用生命科学**部

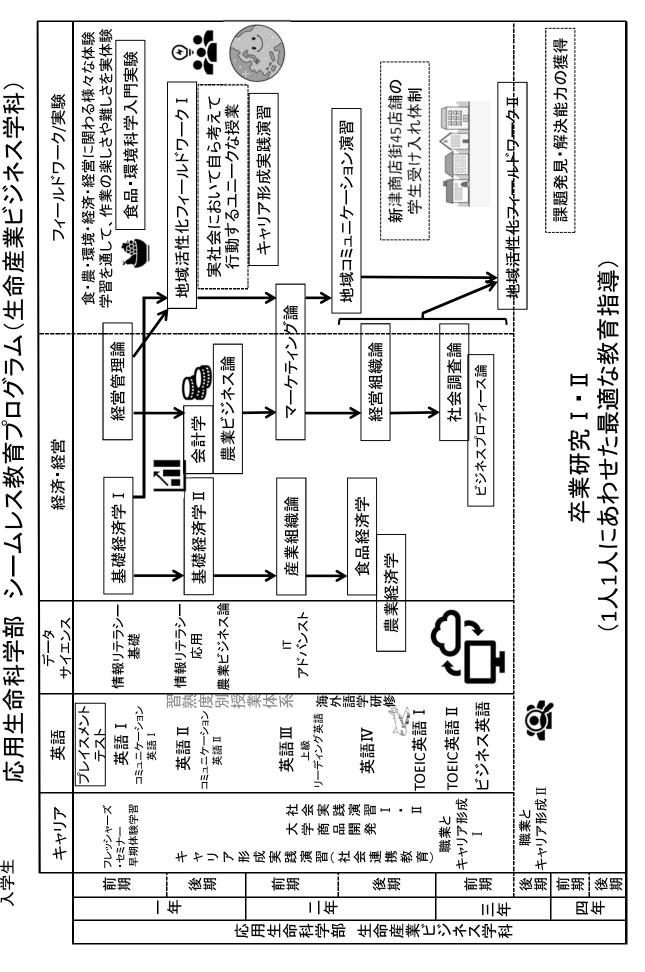
2020年度以前

(予習重視型) (復習重視型) 費半額免除) (研究者育成へ向け、学びを研究面、経済面からサポート) \blacksquare (知識定着確認) 生物学演習 1、 基礎化学 I、I (問題解決) 成績優秀者プログラム 別授業体系 早期研究室配 仆 (特待生 N • I 応用生命科学基礎実験 II·II 応用生命科学基礎実験 (知識定着確認) 生物学 1、1 (問題解決) 化学演習 I、 温 刊 く 生物 化学 学内特別推薦 (1人1人にあわせた最適な教育指導 煙 个 ベーシッククラス 有機化学 I 有機化学 I 演習 基礎生物学 I、I 知識提供、問題発見) 化学 I、T (知識提供、問題発) 卒業研究 適性別クラス分け アドバンストクラス 生化学工 生化学 応用生命科学研究科 プレイスメントテスト バイオイソレキ 生命情報科 学演習 I • II マティックス 生命情報 科学概論 情報 リーディング英語体 英語IV 海 智熱度別 フイスメント TOEIC英語II 英語皿 fi TOEIC英語 I 英韶 テスト コミュニケーシ 英語工 上級 英語 I 英語工 英語 大学院 キャリア形成Ⅱ 初年次 セ≅ナー キャリア 職業と リア形成ー キャリア形成実践演習(社会連携教育) の入学生 後期 指型 後期 後期 **信**野 指型 後期 一件 二年 三三年 四年 応用生命科学部 応用生命科学科

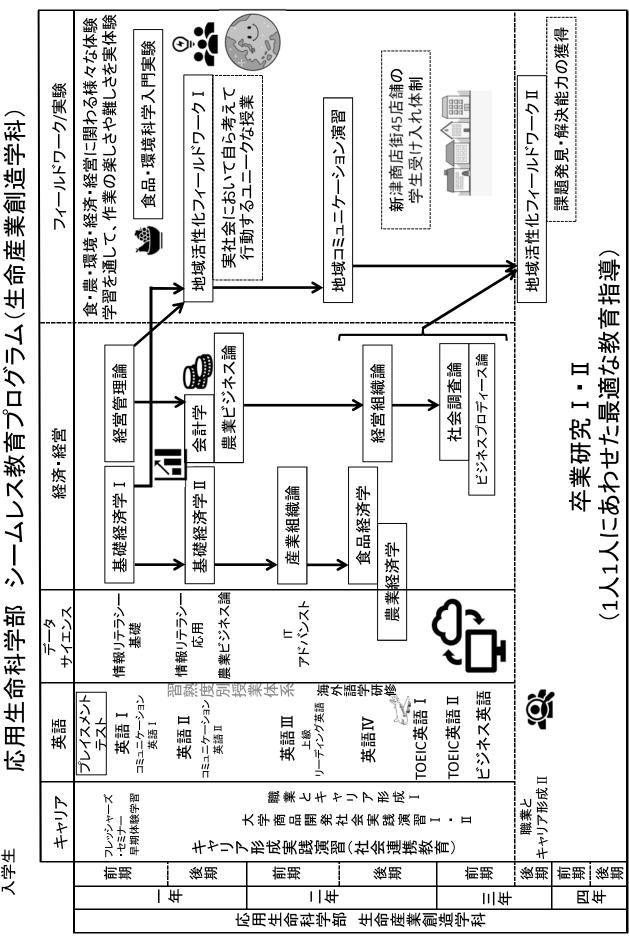
2025年度以降 入学生



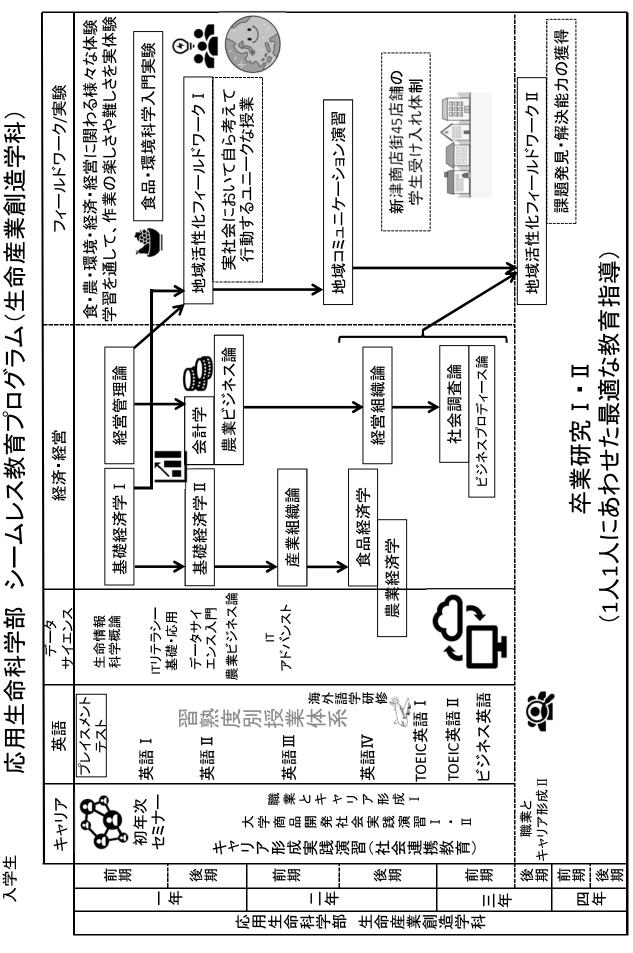
2023年度、2024年度



2022年度 入学生



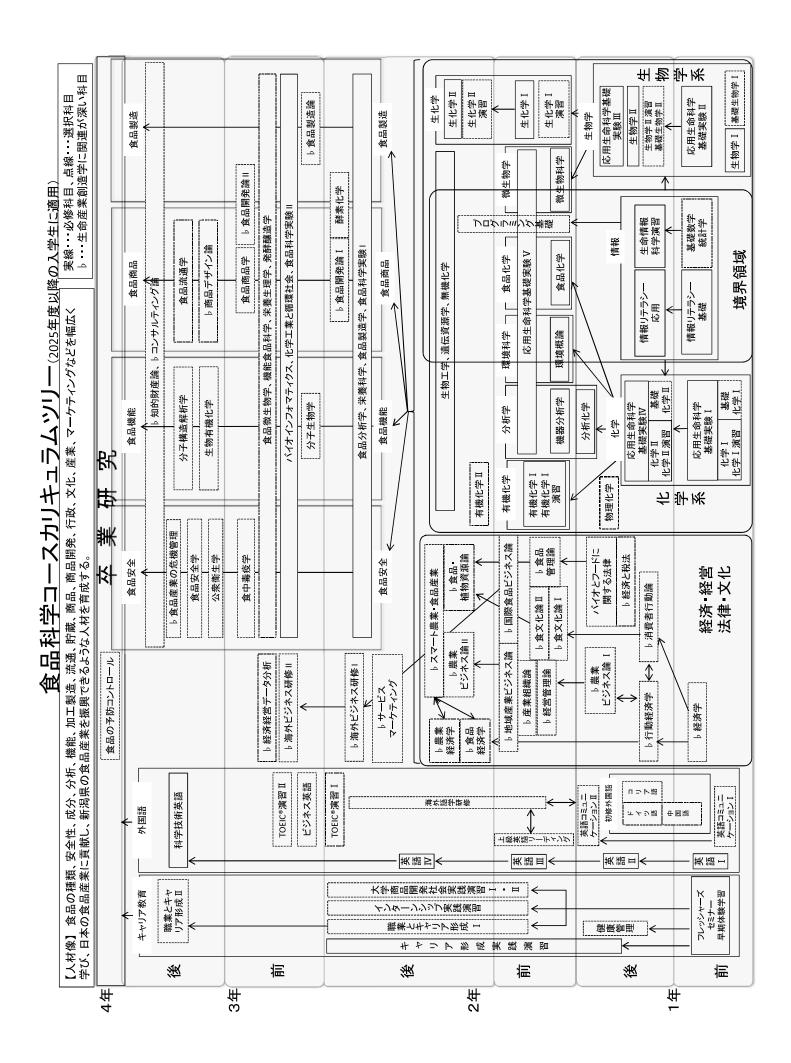
2021年度 入学生



2020年度以前 の入学生

応用生命科学部 シームレス教育プログラム(生命産業創造学科)

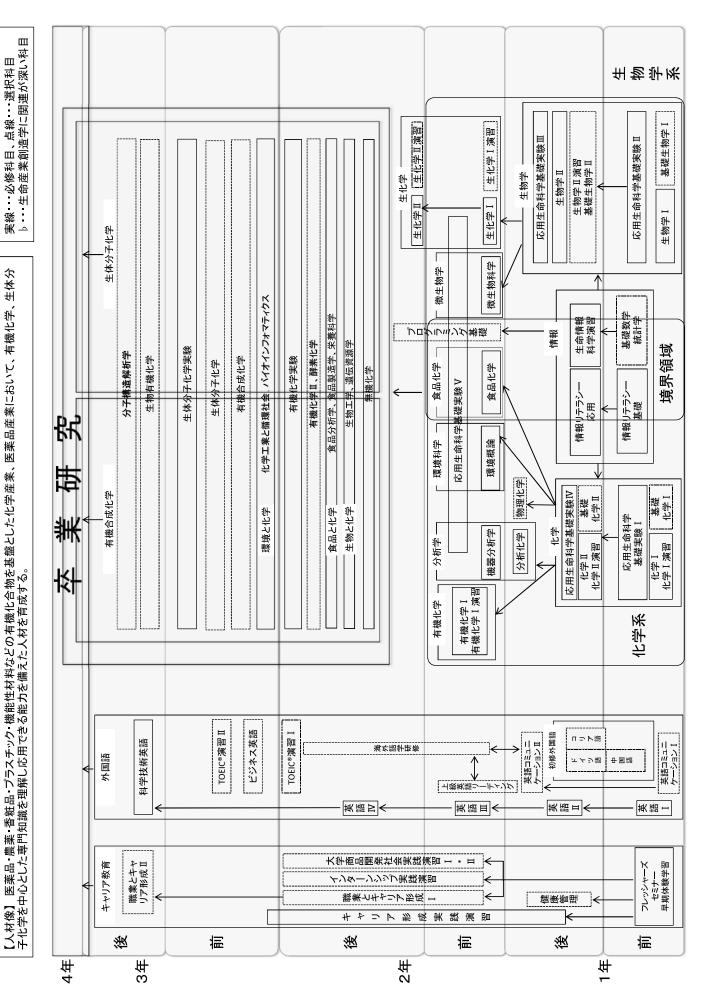
フィールドワーク/実験	食・農・環境・経営に関わる様々な体験学習を 通して、作業の楽しさや難しさを実体験 食品・環境科学入門実験 地域活性化フィールドワーク I	実社会において自ら考えて 行動するユニークな授業 新津商店街45店舗の学生 受け入れ体制整う	世域活性化フィールドワークII の獲得	究(1人1人にあわせた最適な教育指導)
情報	ITリテラシー 基礎 ITリテラシー 応用	アンバンスト業職		人にあれ
英語	サンイスメントテスト 英語 I (初後) (文法、ライティング、リーディング) 英語 II (初後) 問 (文法、ライティング、製 (文法、ライティング、製	英語 田 (中後) 記 海 (文法、ライティング、 添 を リーディング)		卒業研究(1人1
キャリア	₩ 20 - 0 %	リア形成実践演習(社職業とキャリア形	おり	
-	H	11件 標題 %型		四件 === %型
	1 44	信用生命科学部 14	生命産業創造学;	



Ш 生物学系 実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・生命産業創造学に関連が深い科 生化学工演習 生化学 I 演習 遺伝子工学 基礎生物学 I 遺伝子工学 応用生命科学基礎実験皿 応用生命科学基礎実験 ---(2025年度以降の入学生に適用) 生物学 II 演習 基礎生物学 II 生化学 I 生化学工 生物学 生物学I 生物系 徴生物バイオリクノロジー 生物学 I 生物工学、遺伝資源学、無機化学、食品分析学、栄養科学、食品製造学、細胞生物学実験 微生物科学 微生物学 バイオインフォマティクス、化学工業と循環社会、生化学・分子生物学実験 【人材像】 動物・植物・微生物を対象に、生命科学の基礎を理解した上で、生物資源を高度に利用でき、生命科学に関わる専門分野で活躍する ことができる人材を育成する。活躍できる分野として、医薬品(創薬)・化粧品・食品・農業・バイオ産業分野の研究者・技術者などが挙げられる。 微生物 微生物 生命情報 科学演習 基礎数学 統計学 プログラミン 基礎 バイオテクノロジーコースカリキュラムシリ 境界領域 境界領域 応用生命科学基礎実験V 食品化学 食品化学 情報 b 食品 植物資源論 分子生物学 情報 | | 応用 リテラシ 基礎 生物資源利用 情報 環境概論 環境科学 植物バイオテクノロジー 植物育種学 植物 뫇 専門基礎化学 応用生命科学基礎実験IV 化学工 基礎 化学 I 機器分析学 基礎 分析化学 化学系 応用生命科学 基礎実験 I 赹 化学 I 化学 I 演習 化学工 化学工演習 粣 有機化学 I 有機化学 I 演習 有機化学工 有機化学 掛 動物ベイオテクノロジー **台学** 条 細胞免疫学 動物 動物 バイオとフード に関する法律 バイオとフード b食文化論I り食品管理論 b食文化論 I TOEIC®演習Ⅱ ビジネス英語 初修外国語 ロリア語 英語コミュニ ケーション I TOEIC®演習 英語コミュニ ケーション II 科学技術英語 **催女** 脂 补 臣 穆 外国語 出国中 ドイツ語 上級英語リ 英語区 英語田 英語日 英語上 大学商品開発社会実践演習 職業とキャ リア形成ロ セミナー 早期体験学習 キャリア教育 レレッツャーズ -ンシップ実践演習 職業とキャリア形成 健康管理 成実践演習 7 黑 怱 湿 怱 後 湿 湿 3年 2年 4

応用化学コースカリキュラムツリー(2025年度以降のA学生に適用)

【人材像】 医薬品・農薬・香粧品・プラスチック・機能性材料などの有機化合物を基盤とした化学産業、医薬品産業において、有機化学、生体分子化学を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材を育成する。



環境共生システムコースカリキュラムツリー(2025年度以降の入学生に適用)

Ш

実線・・・・・必修科目、点線・・・選択科目 ト・・・生命産業創造学に関連が深い科

【人材像】 環境中の無機および有機化合物の挙動やリスク評価などを担う環境産業において、環境分析化学を中心とした専門知識を理解し応 用できる能力を備えた人材を育成する。

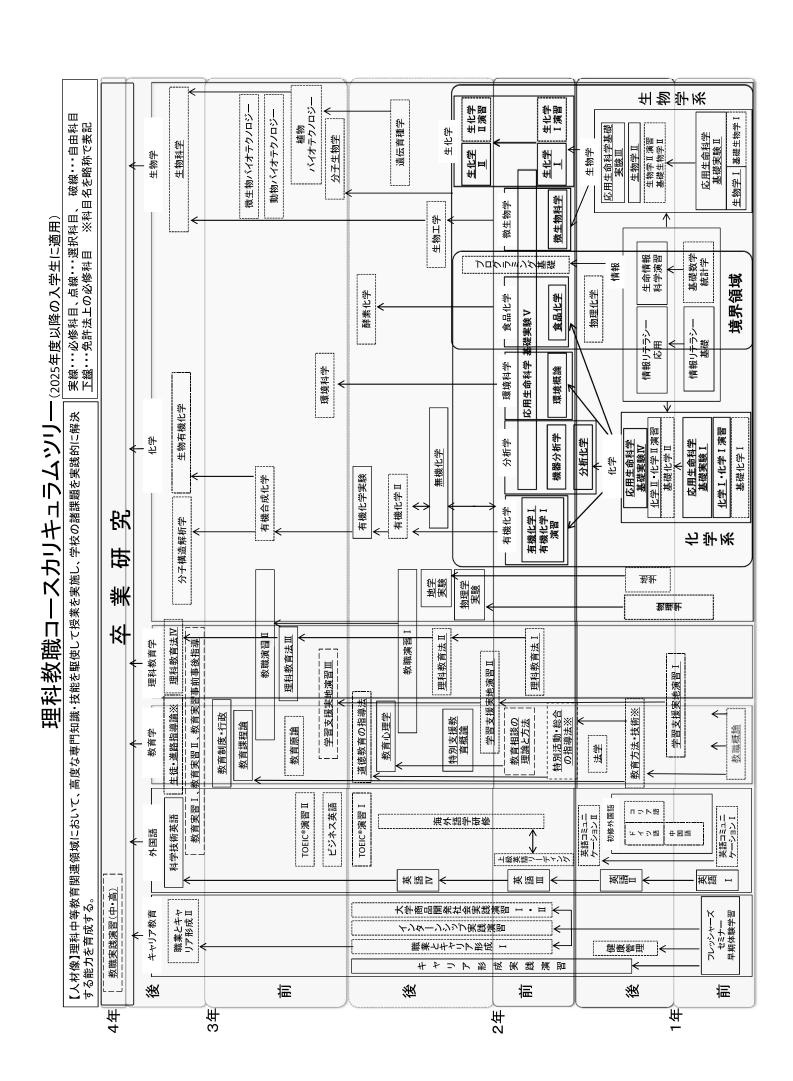
4年

3年

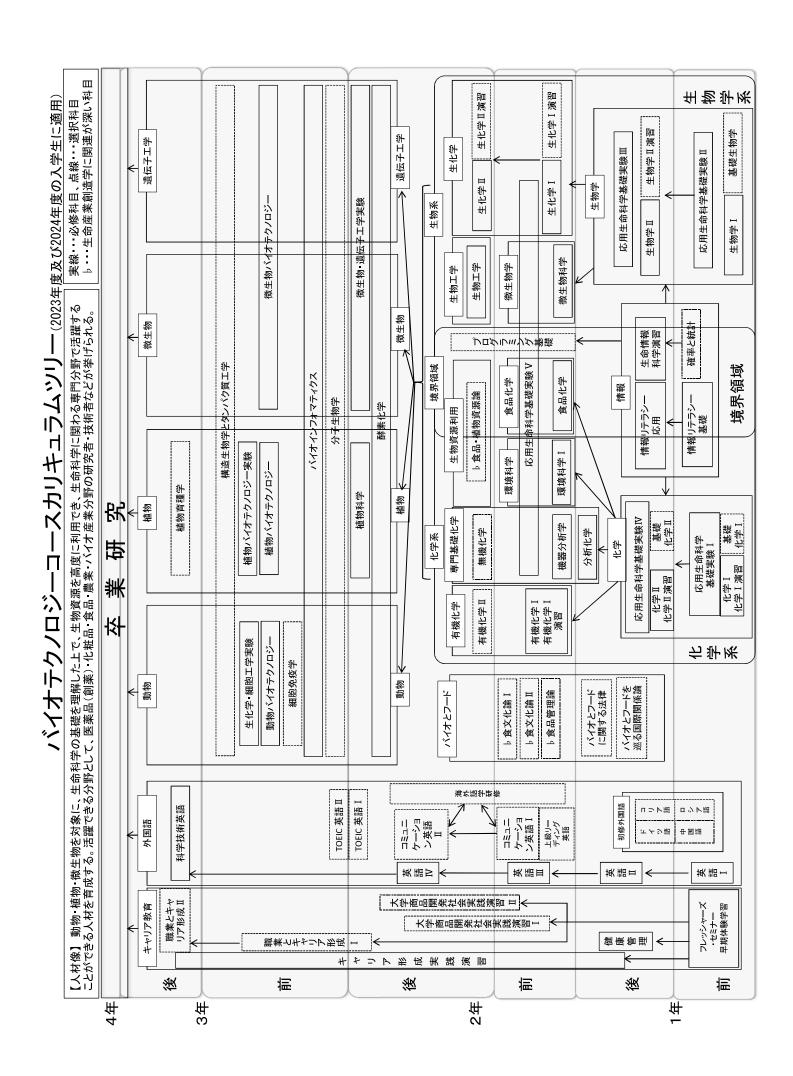
4 数 学 条 基礎生物学 I 生化学工演習 生化学 I 演習 応用生命科学基礎実験Ⅱ 応用生命科学基礎実験皿 り持続可能性とビジネス 生物学 II 演習 基礎生物学 II 生物有機化学 生物学 生物学工 生化学 環境と情報 生化学工 生化学 I 生物学 I 有機化学実験 微生物科学 微生物学 エネルギーとリサイクル 化学工業と循環社会、バイオインフォマティクス 基礎数学 統計学 生命情報 科学演習 栄養科学 ング基礎 プログラミ 情報 生物工学、遺伝資源学 境界領域 環境管理工学 環境工学実験 食品分析学、食品製造学、 食品化学 食品化学 無機化学 応用生命科学基礎実験V 環境工学 情報リテラシー 基礎 $\overline{\Diamond}$ 情報 | |応用 紀 環境分析化学 環境科学 環境概論 環境科学 哲 物理化学 応用生命科学基礎実験IV 基礎 化学 I 基礎 化学口 有機化学工 環境と化学 生物と化学 食品と化学 応用生命科学 基礎実験 I 洲 行手 機器分析学 分析化学 化学 I 化学 I 演習 分析学 化学 II 化学 II 演習 環境修復論 環境汚染論 松 有機化学 I 有機化学 I 演習 Γ 有機化学 化学系 TOEIC®演習Ⅱ ビジネス英語 初修外国語 ニリア語 TOEIC®演習] 英語コミュニ ケーション II 英語コミュニ ケーション I 科学技術英語 外国語 出国中 アイシ語 上級英語= 英語区 英語田 英語日 英語上 н н 大学商品開発社会実践演習 職業とキャ リア形成ロ フレッシャーズ セミナー 早期体験学習 キャリア教育 -ンシップ実践演習 **ムン**ダ-職業とキャリア形成 健康管理 F 実践演習 + 7 彩 出 怱 湿 怱 後 湿 湿

2年

4



生物学系 Ш 実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・生命産業創造学に関連が深い科目 生物学 1 基礎生物学 生化学 I 演習 生化学 II 演習 生化学工 生化学 I 生化学 応用生命科学 基礎実験皿 応用生命科学 基礎実験 I 生物学工演習 b食品製造論 生物学工 食品製造 食品製造 生物学 **食品科学コースカリキュラムツリー**(2023年度及び2024年度の入学生に適用) 食品微生物学、機能食品科学、栄養生理学、発酵醸造学、食品安全実験、食品製造・加工実験 微生物科学 微生物学 b 食品開発論 II 酵素化学 情報 確率と統計 生命情報 科学演習 プログラミ b 食品開発論 I 応用生命科学基礎実験V 食品分析学、栄養科学、食品製造学、食品科学実験 り商品デザイン鑑 境界領域 食品化学 食品化学 食品商品学 食品流通学 食品商品 食品商品 コンサルトインが端 情報リテラシー 応用 情報リテラシー 基礎 b レギュレトリーサイエンス 流通、貯蔵、商品、商品開発、行政、文化、産業、マーケティングなどを幅広く 環境科学 I 環境科学 知的財産論、 化学工 基礎 基礎 化学 I 分子構造解析学 機器分析学 生物有機化学 応用生命科学 基礎実験IV 分析化学 応用生命科学 分析学 分子生物学 食品機能 無機化学 食品機能 基礎実験 I 化评 化学工 化学工演習 化学 I 化学 I 演習 黙 有機化学 I 有機化学 I 演習 有機化学Ⅱ 有機化学 物理化学 齿 化 学 条 食中毒疫学、食品安全学 쌔 り食品産業の危機管理 バイオと フードに 関する 法律 ♭食品。 植物資源論 b 食品 管理論 公衆衛生学 【人材像】 食品の種類、安全性、成分、分析、機能、加工製造、流通、貯蔵、商品、商品目 学び、日本の食品産業に貢献し、新潟県の食品産業を振興できるような人材を育成する。 食品安全 食品安全 経済 経営 法律 文化 钬 b食文化論I b食文化論 I バイオと フードを 巡る 国際関 条論 Ħ b地域産業ビジネス論 ト 票業 ビジネス論 I ゥ 農業 ビジネス端 I 食品の予防コントロール b 経営管理論 b産業組織論 b 基礎経済学 b基礎経済学 √ 課業 格済学 り食品 経済中 TOEIC 英語 II TOEIC 英語 I 初修外国語 科学技術英語 ロシア語 コリア語 外国語 コニュニケーゲー ケーショ ソ英語 I 上級リー ディング 英語 ン英語 出国中 ドイツ語 英語口 英語 英語区 英語田 職業とキャ リア形成 II 大学商品開発社会実践演習 핍 キャリア教育 早期体験学習 大学商品開発社会実践演習了 職業とキャリア形成 健康管理 4 + 半 峃 実践演習 籢 怎 怱 怎 後 温 4年 3年 十 2年

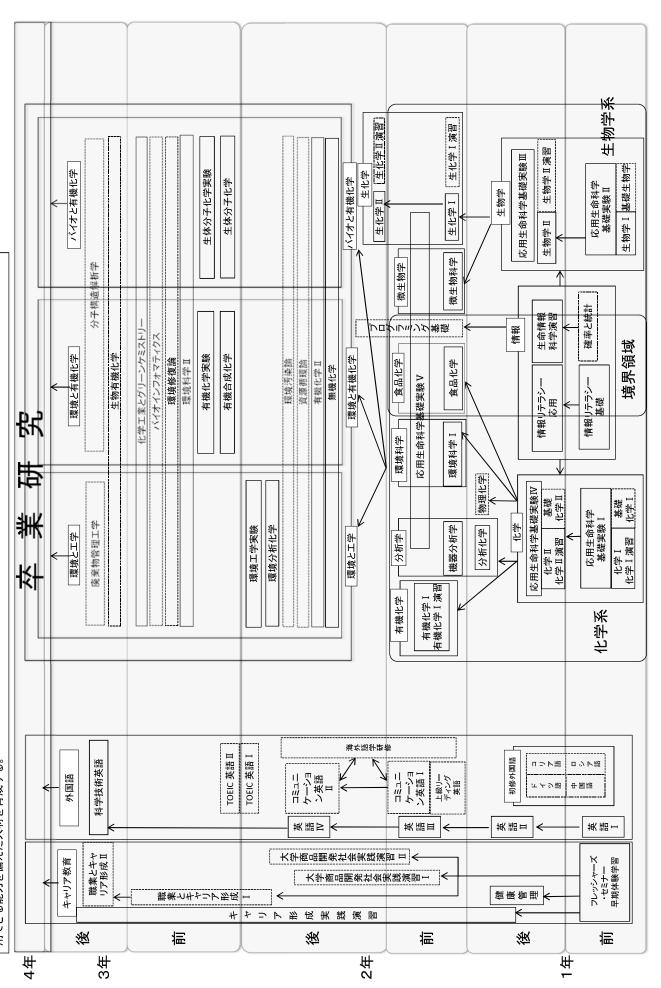


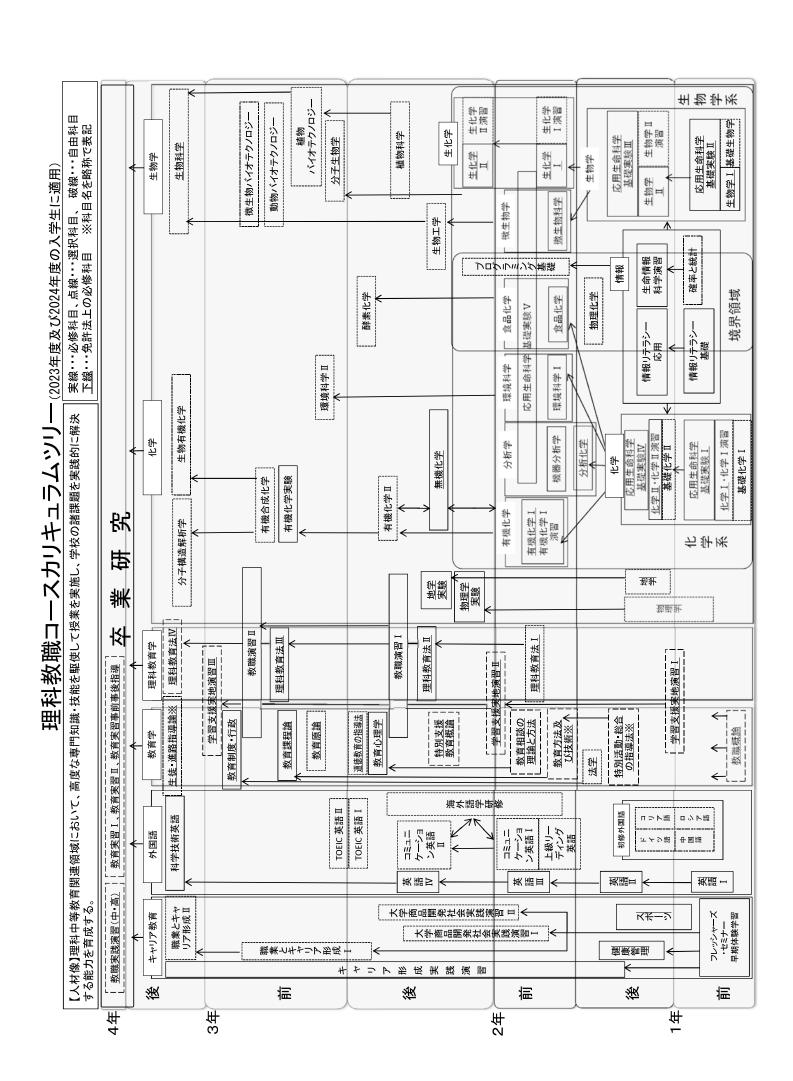
生 **命 環 境 化 学コースカリキュラムツリー** (2023年度及び2024年度の入学生に適用)

Ш

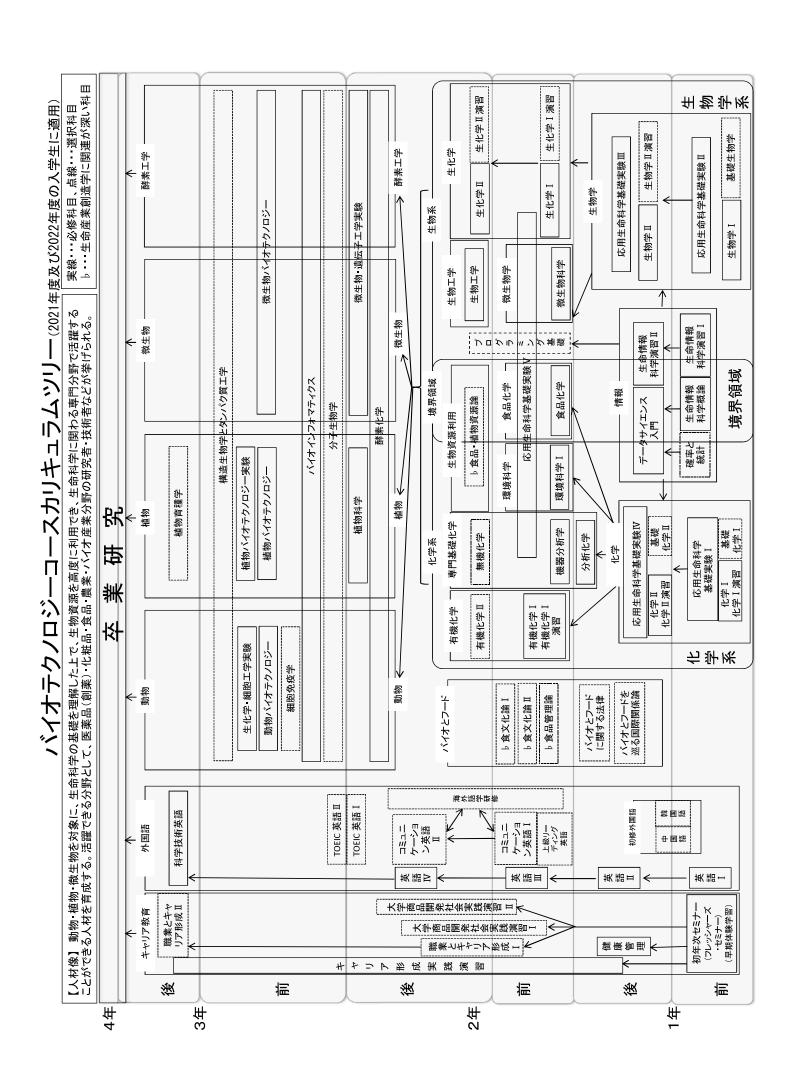
実線・・・・・必修科目、点線・・・選択科目 ト・・・生命産業創造学に関連が深い科

【人材像】 医薬品・農薬・香粧品・プラスチック・機能性材料などの有機化合物を基盤とした化学産業、医薬品産業ならびに環境中の無機および 有機化合物の挙動やリスク評価などを担う環境産業において、有機化学、生体分子化学および環境分析化学を中心とした専門知識を理解し応 用できる能力を備えた人材を育成する。





生物学系 Ш 生化学 I 演習 生化学 I 演習 生化学 I 生化学工 実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・生命産業創造学に関連が深い科目 生化学 生物学 1 基礎生物学 応用生命科学 基礎実験皿 応用生命科学 基礎実験 II 生物学工演習 b食品製造論 生物学工 食品製造 食品製造 生物学 **食品科学コースカリキュラムツリー**(2021年度及び2022年度の入学生に適用) 食品微生物学、機能食品科学、栄養生理学、発酵醸造学、食品安全実験、食品製造・加工実験 微生物科学 微生物学 н b食品開発論 酵素化学 生命情報 科学演習 I 生命情報 科学演習 II ミング基礎 プログラ b 食品開発論 I 応用生命科学基礎実験V 食品分析学、栄養科学、食品製造学、食品科学実験 り商品デザイン鑑 食品化学 食品化学 境界領域 食品商品学 生命情報 科学概論 基礎数学 食品流通学 食品商品 食品商品 情報 データサイエンス 入門 コンサラティング端 b レギュレトリーサイエンス 流通、貯蔵、商品、商品開発、行政、文化、産業、マーケティングなどを幅広く 確率と 統計 環境科学 I 環境科学 知的財産論、 化学工 基礎 基礎 化学 I 分子構造解析学 機器分析学 生物有機化学 分析化学 応用生命科学 応用生命科学 分子生物学 無機化学 分析评 食品機能 食品機能 基礎実験IV 基礎実験 I 化评 化学工 化学工演習 化学 I 化学 I 演習 KK 有機化学工 有機化学 I 有機化学 I 演習 有機化学 物理化学 齿 化 学 条 쌔 食中毒疫学、食品安全学 り食品産業の危機管理 バイオと フードに 関する 法律 ♭食品。 植物資源論 b 食品 管理論 公衆衛生学 【人材像】 食品の種類、安全性、成分、分析、機能、加工製造、流通、貯蔵、商品、商品目 学び、日本の食品産業に貢献し、新潟県の食品産業を振興できるような人材を育成する。 食品安全 食品安全 経済 経営 法律 文化 钬 н b食文化論 I バイオと フードを 巡る 国際関 条論 り食文化論 b地域産業ビジネス論 ゥ 悪業 ビジネス 輩] ト 農業 ビジネス端 1 食品の予防コントロール b 経営管理論 b産業組織論 b基礎経済学I b基礎経済学 √ 課業 格済学 り食品 経済中 TOEIC 英語 II TOEIC 英語 I 初修外国語 器田韓 科学技術英語 コニュニケーゲー ケーショ ソ英語 I 外国語 上級リー ディング 英語 ン英語 中国盟 英語日 英語-英語区 英語田 大学商品開発社会実践演習 L (フレッシャーズ ・セミナー) (早期体験学習) 職業とキャ リア形成 II 初年次セミナー キャリア教育 大学商品開発社会実践演習 健康管理 職業とキャリア形成 # + ¬ N 半 珱 実践演習 籢 怎 怱 症 後 温 4年 3年 2年 1年

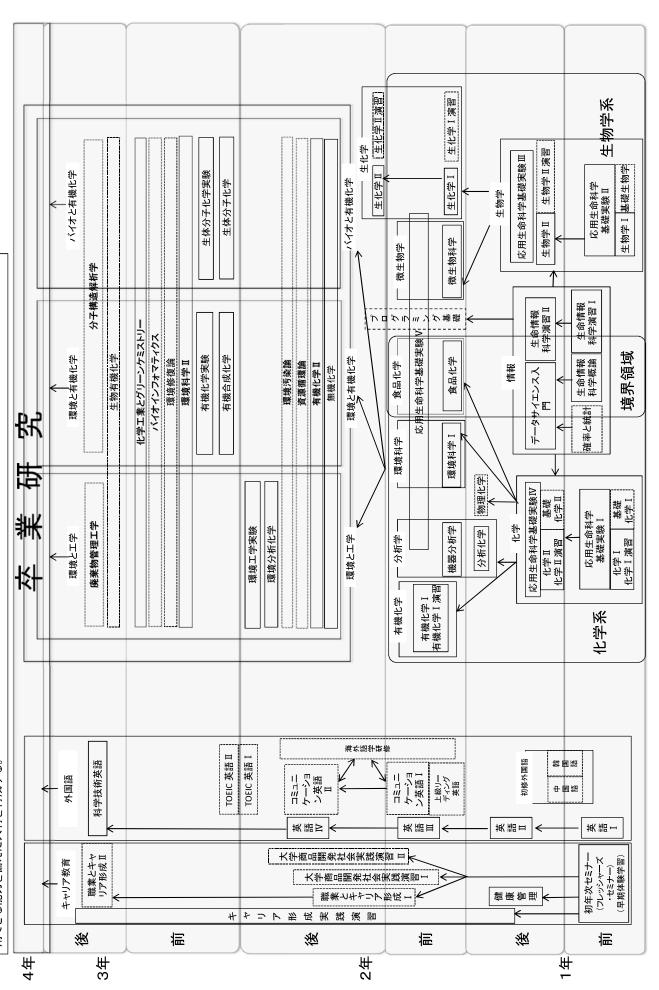


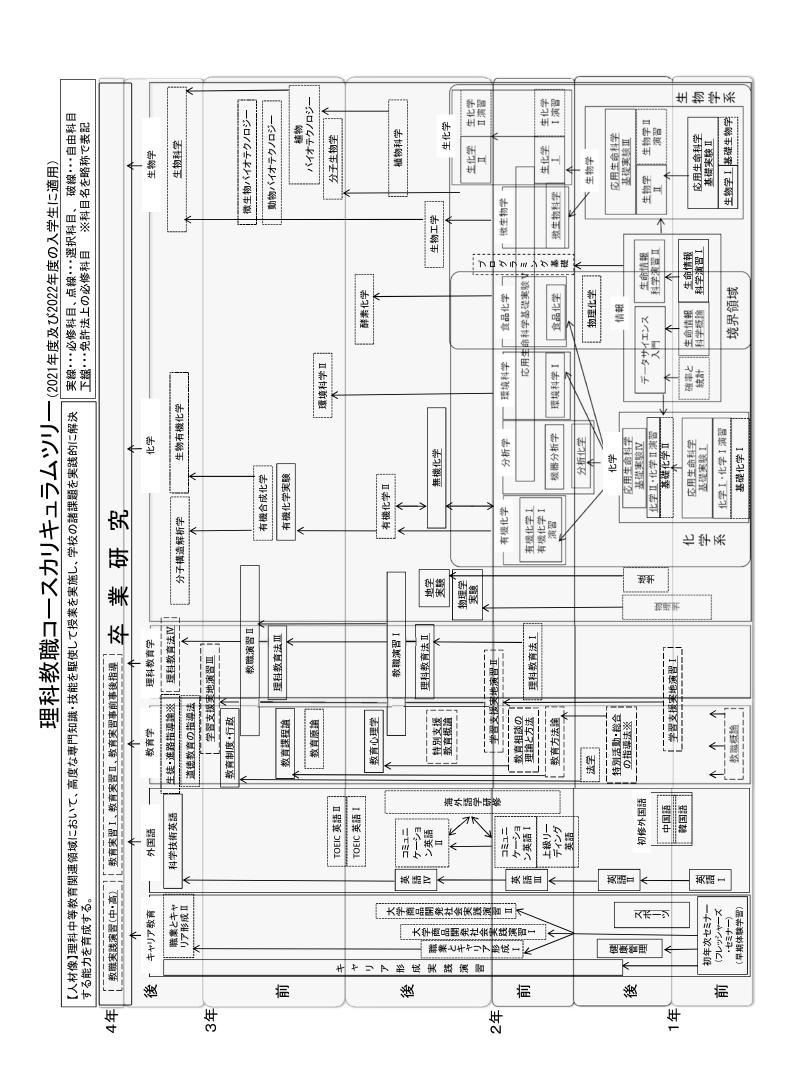
生**命環境化学コースカリキュラムツリー**(2021年度及び2022年度の入学生に適用)

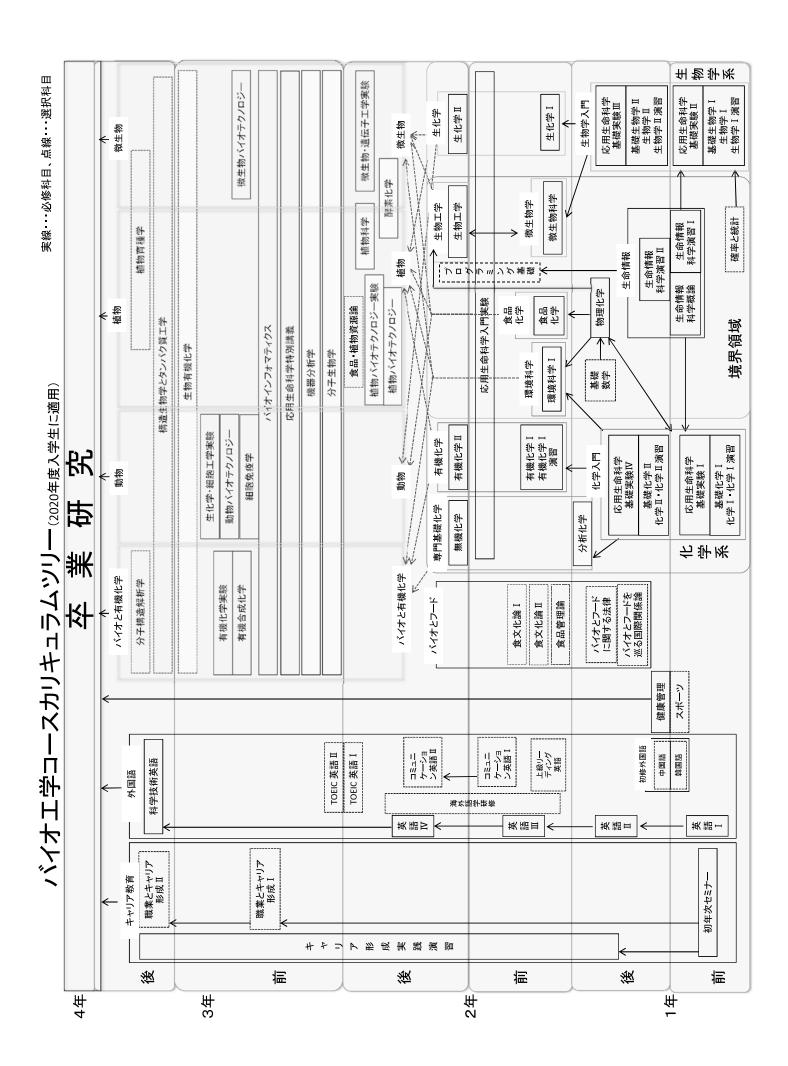
Ш

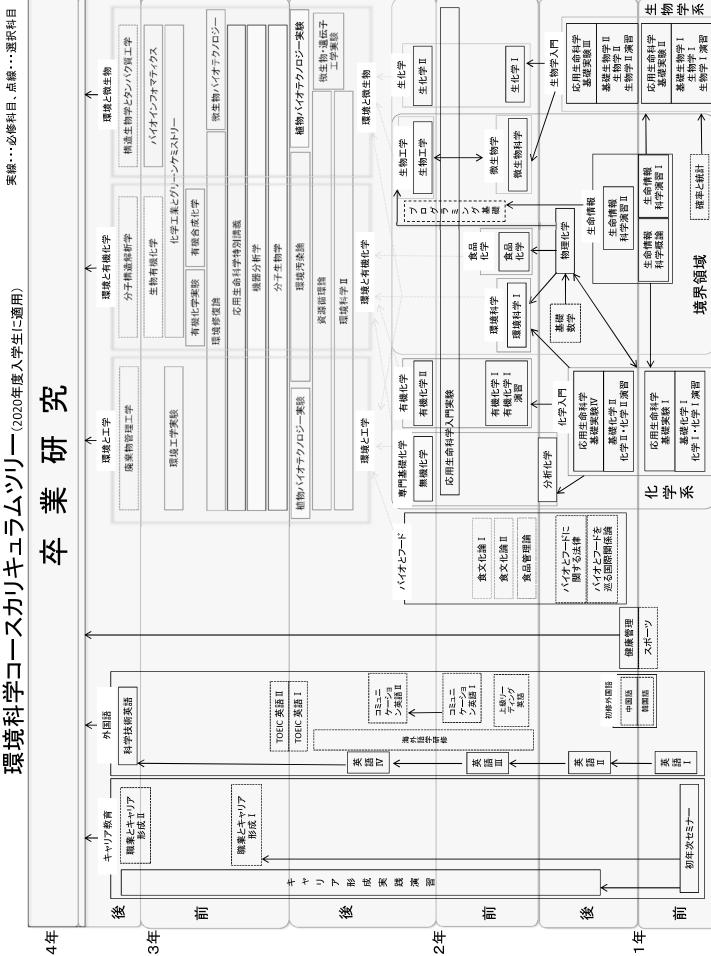
実線・・・・・必修科目、点線・・・選択科目 ト・・・生命産業創造学に関連が深い科

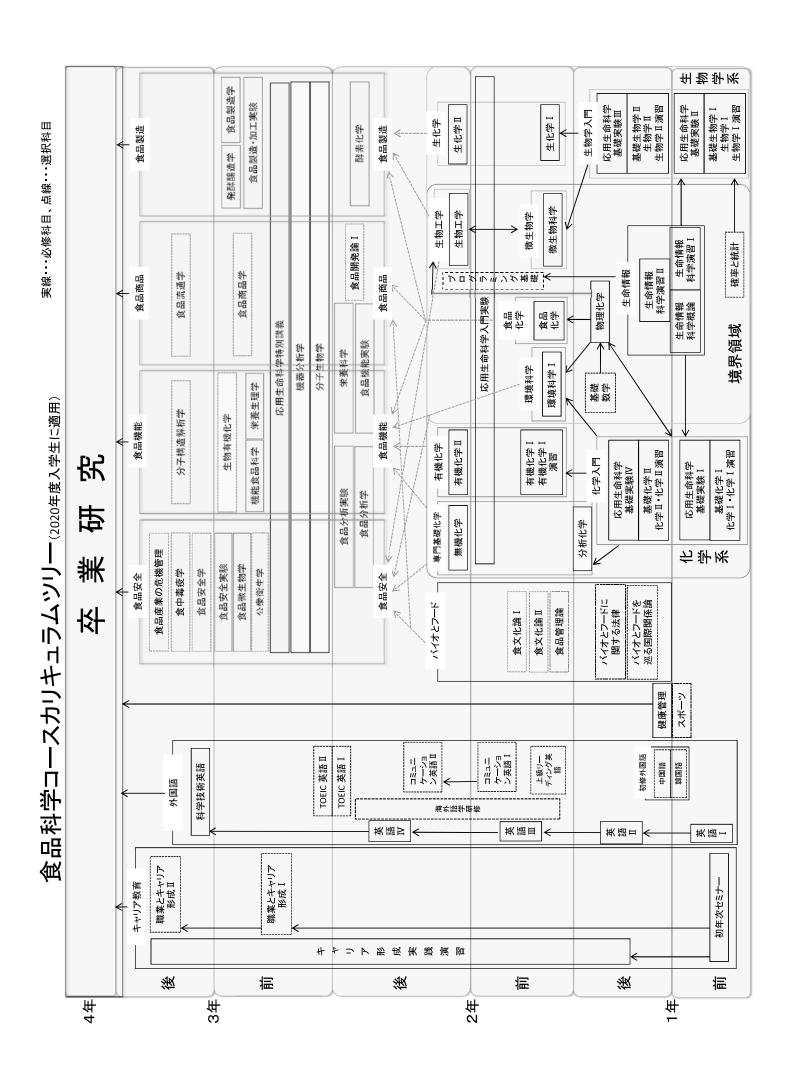
【人材像】 医薬品・農薬・香粧品・プラスチック・機能性材料などの有機化合物を基盤とした化学産業、医薬品産業ならびに環境中の無機および 有機化合物の挙動やリスク評価などを担う環境産業において、有機化学、生体分子化学および環境分析化学を中心とした専門知識を理解し応 用できる能力を備えた人材を育成する。

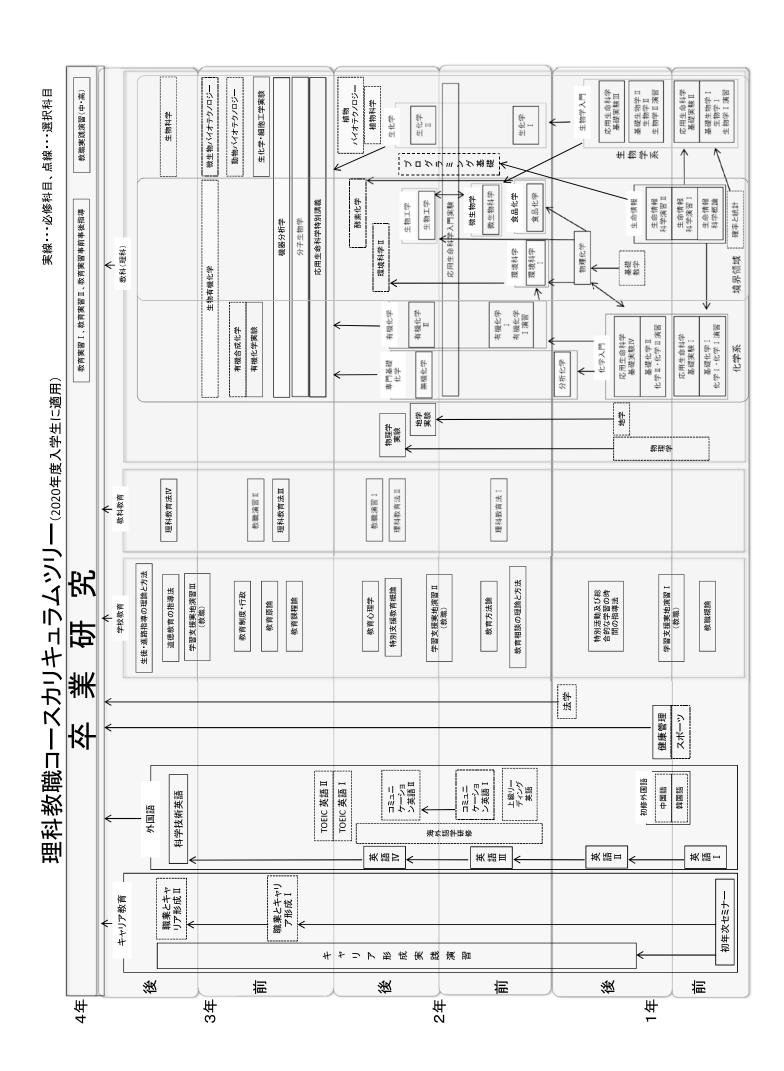








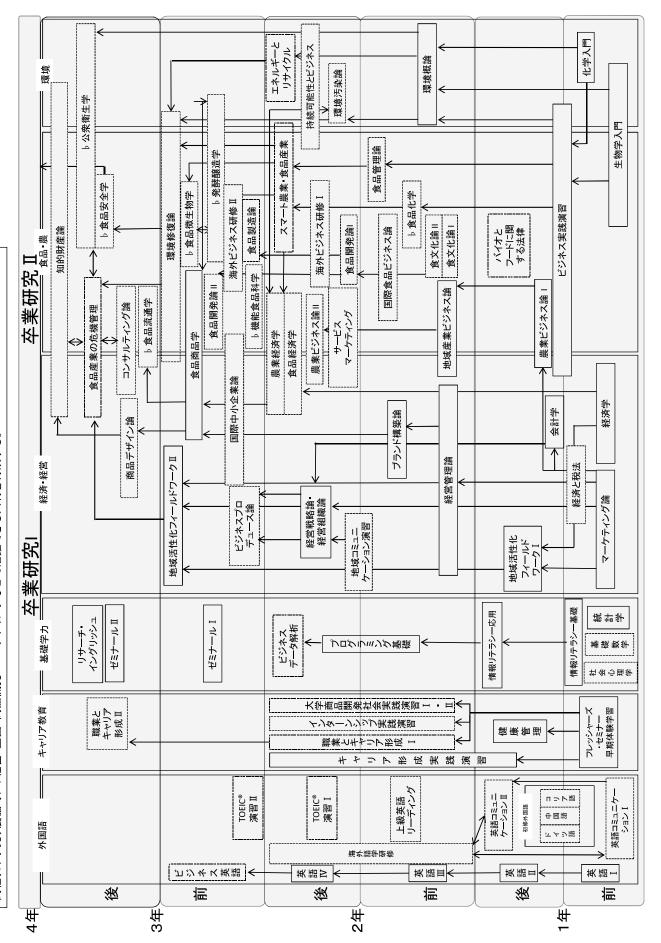




食品ビジネス分野・農業ビジネス分野カリキュラムツリー(2025年度以降の入学生に適用)

【人材像】経営学・経済学に関する基礎知識やマーケティング・ブランディングなどのビジネスに必要な知識を修得し、地域や関係機関とのコミュニケーション力を身に着けながら農業・食品分野の専門的な知識を修得することで、行政機関や食品関連企業等(食品製造、商社、卸小売、農協等)の経営・企画・商品開発・マーケティングなどで活躍できる人材を育成する。

実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・応用生命科学に関連が深い科目

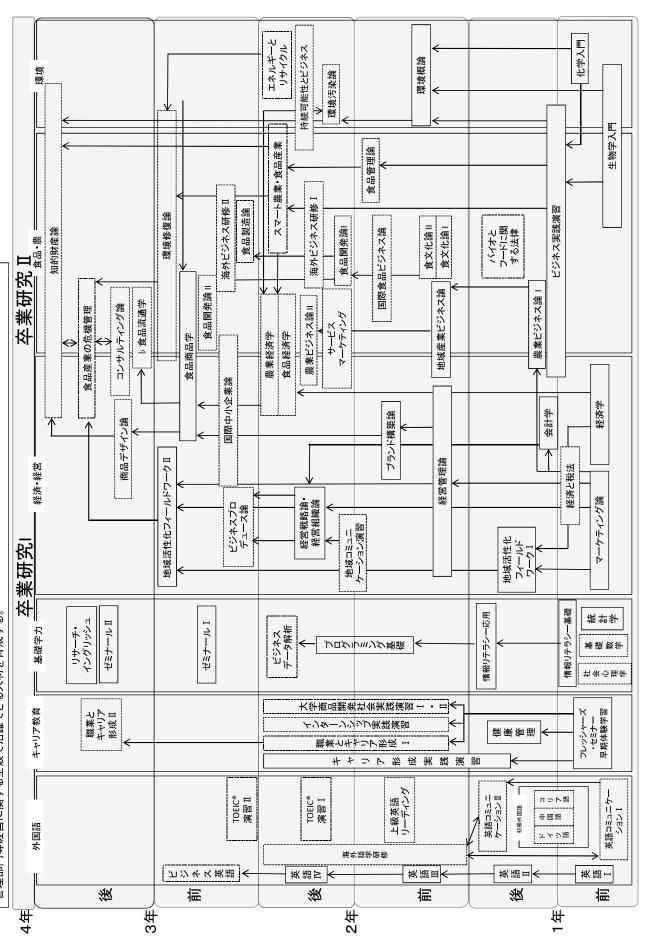


経済学・経営学分野・国際中小ビジネス分野カリキュラムツリー

【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識を理解した上で、グローバル社会や地域活性化等の経営・経済等社会に関 わる知識について深く学び、企業・行政・市民社会組織(NPO/NGO、農協漁協、学校、病院等)の企画・開発・製造・マーケティング 管理部門等経営に関する全般で活躍できる人材を育成する。

実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・応用生命科学に関連が深い科目

(2025年度以降の入学生に適用)



環境ビジネス分野・基礎科学ビジネス分野カリキュラムツリー(2025年度以降の入学生に適用)

【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識、生物学や化学等の基礎科学に関する知識を理解した上で、様々な社会の 課題や環境問題について深く学び、環境関連産業(上下水道サービス、廃棄物処分業、環境分析企業、各種企業環境部門等)の渉 外・技術営業担当・各種メーカ一の環境部門担当者・地域政策の企画運営等で活躍できる人材を育成する。

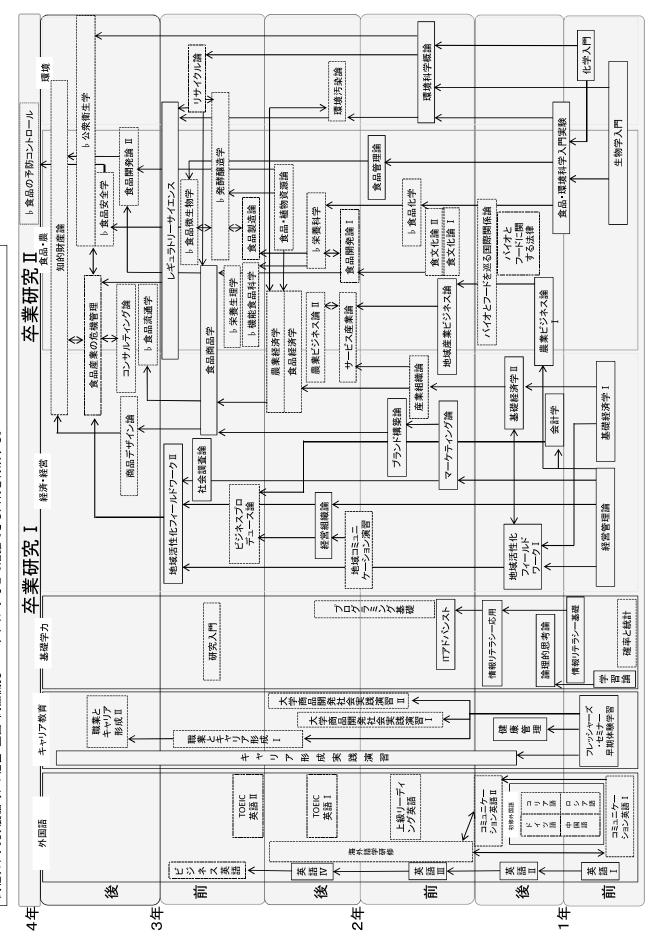
実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・応用生命科学に関連が深い科目

化学入門 持続可能性とビジネス り環境管理工学 エネルギーと リサイクル 環境概論 環境 環境汚染論 , 公衆衛生学 生物学入門 スマート農業・食品産業 食品管理論 海外ビジネス研修 I 海外ビジネス研修工 食品製造論 ビジネス実践演習 環境修復論 食文化論Ⅱ バイオと フードに関 する法律 食品開発論 国際食品ビジネス論 知的財産論 食文化論 食品 農 卒業研究 食品開発論Ⅱ 地域産業ビジネス論 農業ビジネス論 農業ビジネス論Ⅱ 食品産業の危機管理 コンサルトインが端 サービスマーケティング 食品商品学 食品経済学 農業経済学 国際中小企業論 経済学 会計学 ブランド構築論 商品デザイン端 地域活性化フィールドワークエ 経営管理論 経済 経営 経済と税法 経営戦略論-経営組織論 マーケティング端 ビジネスプロ デュース職 地域コミュニ ケーション演習 地域活性化 フィールド ワーク I 卒業研究 情報リテラシー基礎 情報リテラシー応用 統計学 リサーチ・ イングリッシュ ビジネス データ解析 ゼミナールロ ゼミナール I 基礎学力 プログラミング基礎 基礎数学 社会心理学 大学商品開発社会実践演習 L • 耳 < フレッシャーズ ・セミナー 早期体験学習 キャリア教育 職業と キャリア 形成 II ンシップ実践演習 健康管理 職業とキャ + 実践演習 1 黑 珱 上級英語 リーディング 英語コミュニ ケーション II 英語コミュニケー TOEIC® 演習 II TOEIC® 演習 I ヨシア語 ンコン I 出国中 外国語 ドイツ語 ビジネス英語 英語-英語田 英語口 英語区 後 怱 湿 湿 湿 後 3年(2年 1年

食品ビジネス分野・農業ビジネス分野カリキュラムツリー(2023年度及び2024年度の入学生に適用)

【人材像】 経営学・経済学に関する基礎知識やマーケティング・ブランディングなどのビジネスに必要な知識を修得し、地域や関係機関 との⊐ミュニケーション力を身に着けながら農業・食品分野の専門的な知識を修得することで、行政機関や食品関連企業等(食品製造、 商社、卸小売、農協等)の経営・企画・商品開発・マーケティングなどで活躍できる人材を育成する。

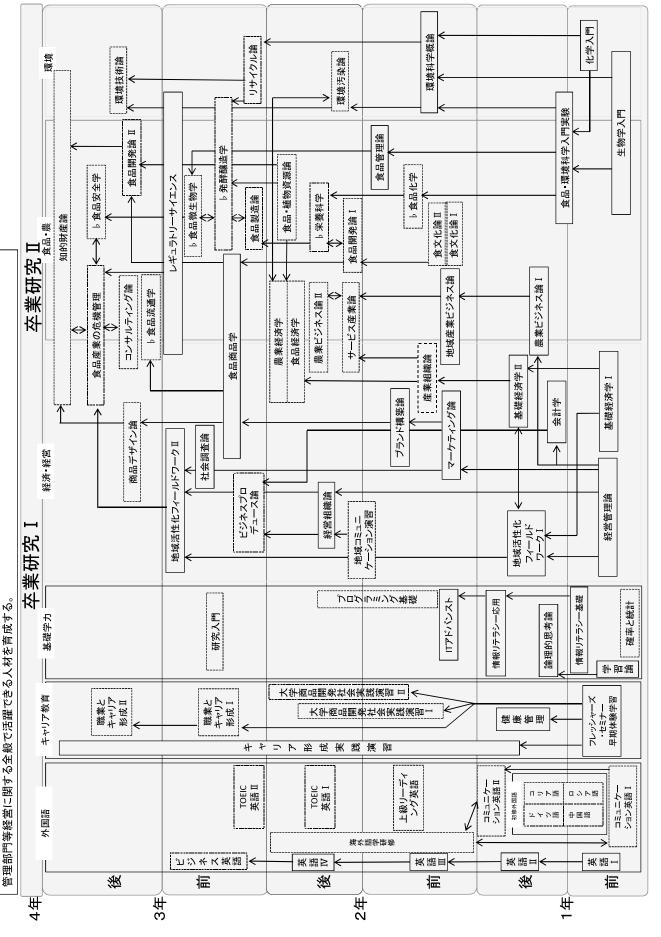
実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 ト・・・応用生命科学に関連が深い科目



経済学・経営学分野・国際中小ビジネス分野カリキュラムツリー(2023年度及び2024年度の入学生に適用)

【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識を理解した上で、グローバル社会や地域活性化等の経営・経済等社会に関 わる知識について深く学び、企業・行政・市民社会組織(NPO/NGO、農協漁協、学校、病院等)の企画・開発・製造・マーケティング

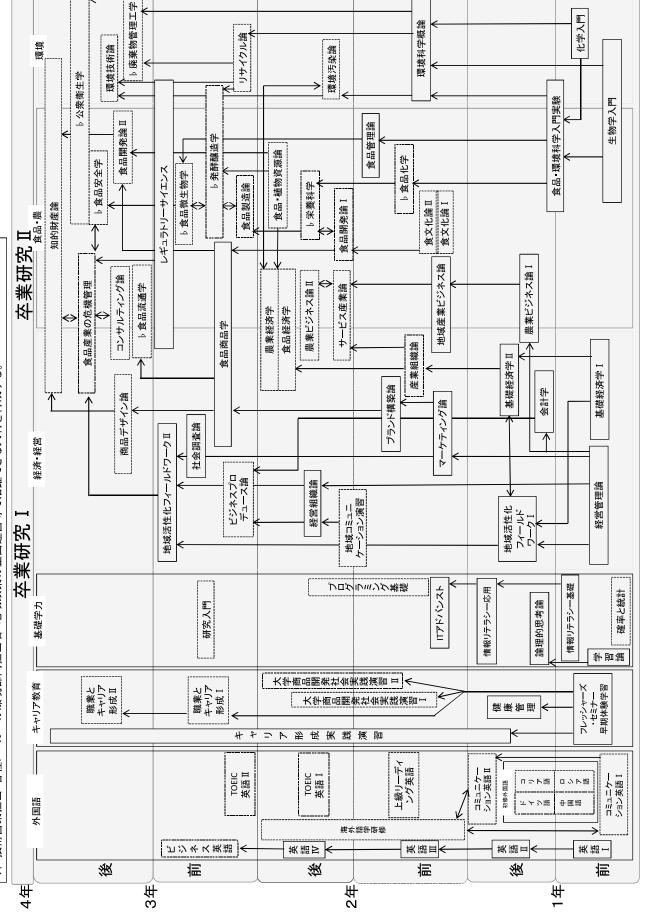
実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・応用生命科学に関連が深い科目



環境ビジネス分野・基礎科学ビジネス分野カリキュラムツリー(2023年度及び2024年度の入学生に適用)

【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識、生物学や化学等の基礎科学に関する知識を理解した上で、様々な社会の 課題や環境問題について深く学び、環境関連産業(上下水道サービス、廃棄物処分業、環境分析企業、各種企業環境部門等)の渉 外・技術営業担当・各種メーカーの環境部門担当者・地域政策の企画運営等で活躍できる人材を育成する。

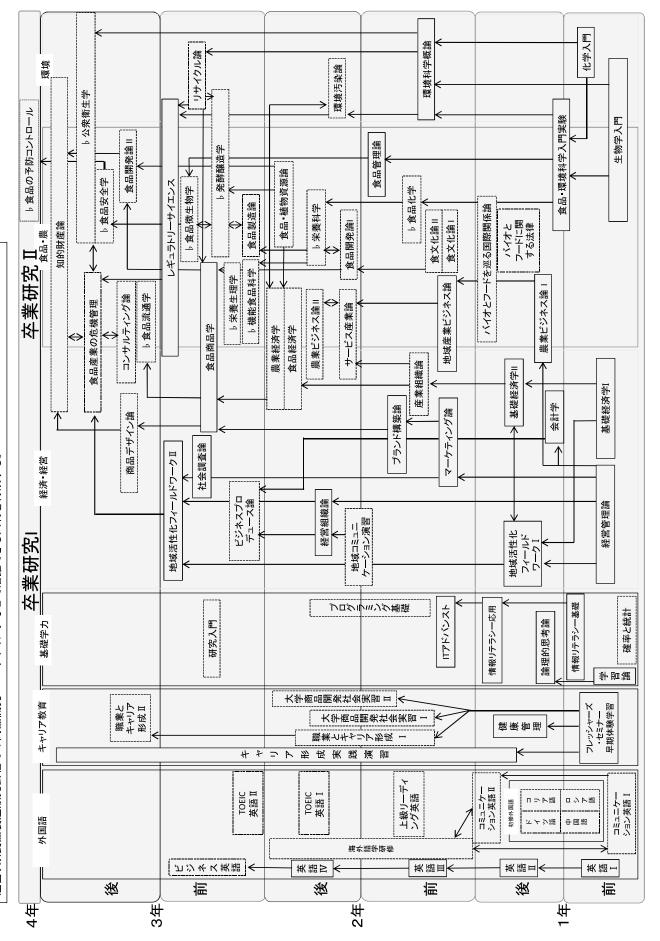
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・応用生命科学に関連が深い科目



食品ビジネス分野・農業ビジネス分野カリキュラムツリー(2022年度入学生に適用)

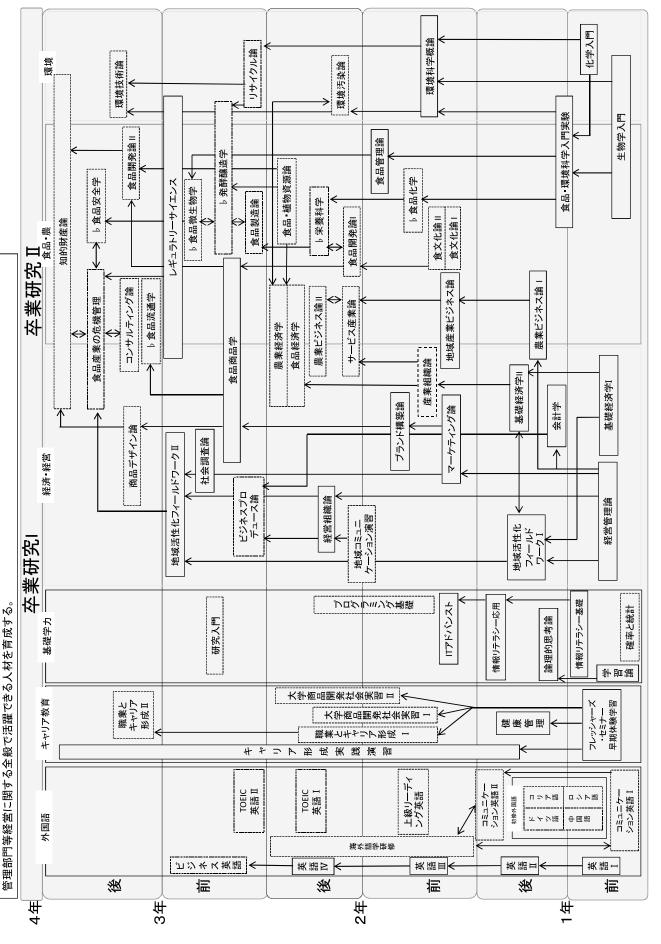
【人材像】経営学・経済学に関する基礎知識やマーケティング・ブランディングなどのビジネスに必要な知識を修得し、地域や関係機関 とのコミュニケーション力を身に着けながら農業・食品分野の専門的な知識を修得することで、行政機関・農協等での農業政策の企画・ 運営、飲食品製造販売会社での商品開発・マーケティングなどで活躍できる人材を育成する。

実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 ト・・・応用生命科学に関連が深い科目



経済学分野・経営学分野カリキュラムツリー(2022年度入学生に適用)

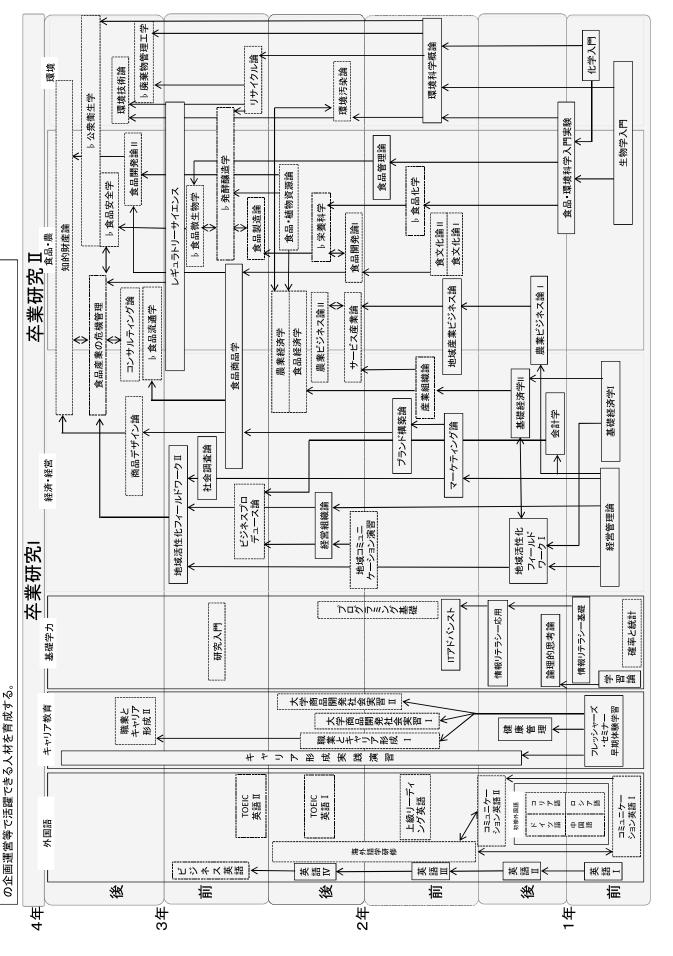
【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識を理解した上で、グローバル社会や地域活性化等の経営・経済等社会に関 わる知識について深く学び、企業・行政・市民社会組織(NPO/NGO、農協漁協、学校、病院等)の企画・開発・製造・マーケティング



地域活性化分野・環境ビジネス分野カリキュラムツリー(2022年度入学生に適用)

【人材像】生物学や化学等の基礎科学に関する知識を理解した上で、環境汚染や廃棄物管理等の環境産業に関わる知識につい て深く学び、上下水道サービス、廃棄物処分業、環境分析企業の渉外・技術営業担当・各種メーカーの環境部門担当者・地域政策

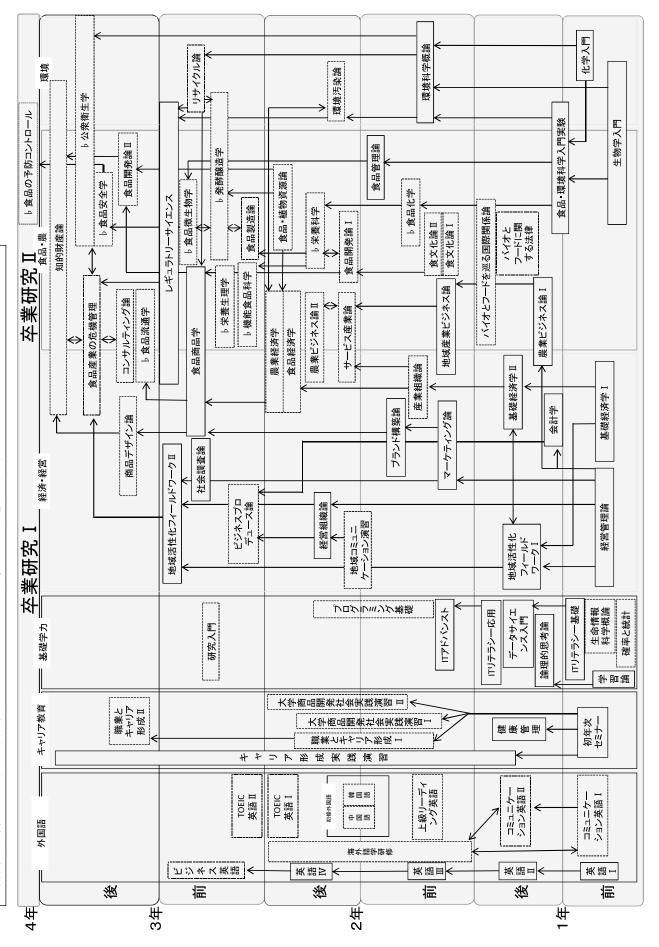
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・・応用生命科学に関連が深い科目



食品ビジネス分野・農業ビジネス分野カリキュラムツリー(2021年度入学生に適用)

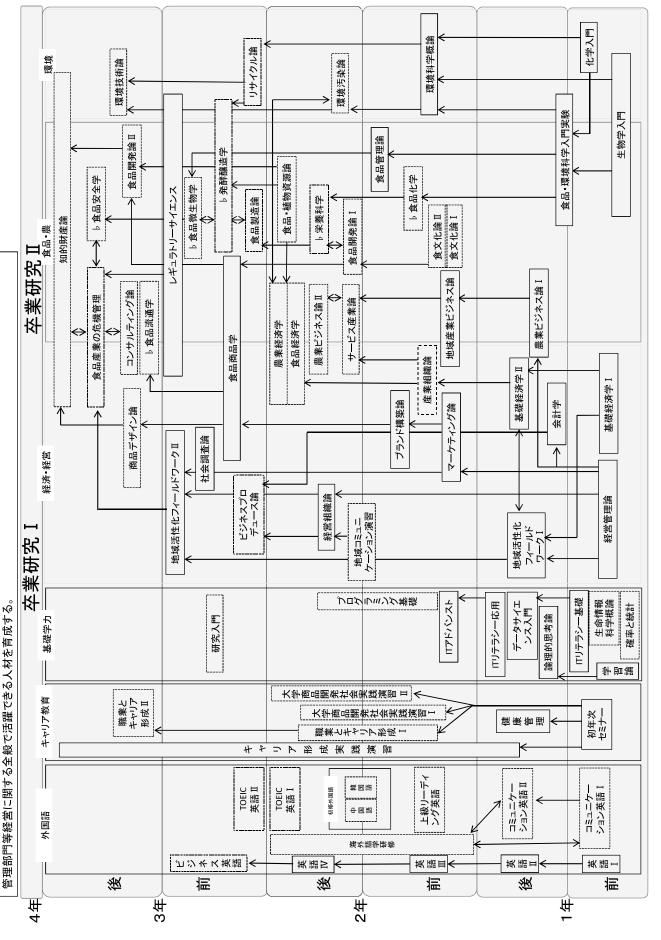
【人材像】経営学・経済学に関する基礎知識やマーケティング・ブランディングなどのビジネスに必要な知識を修得し、地域や関係機関 とのコミュニケーション力を身に着けながら農業・食品分野の専門的な知識を修得することで、行政機関・農協等での農業政策の企画・ 運営、飲食品製造販売会社での商品開発・マーケティングなどで活躍できる人材を育成する。

実線・・・必修科目、点線・・・選択科目 b・・・応用生命科学に関連が深い科目



経済学分野・経営学分野カリキュラムツリー(2021年度入学生に適用)

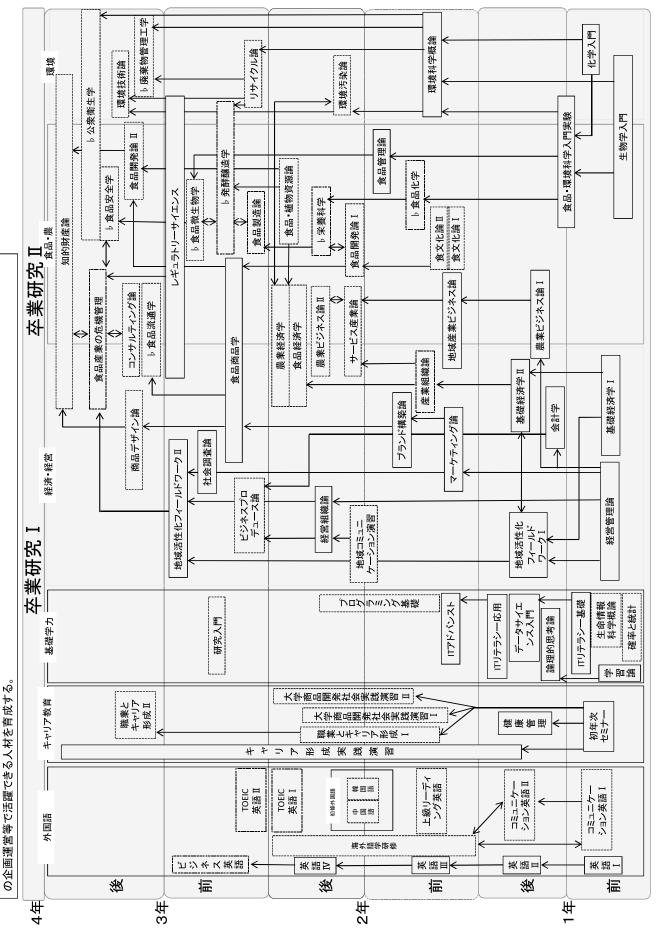
【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識を理解した上で、グローバル社会や地域活性化等の経営・経済等社会に関 わる知識について深く学び、企業・行政・市民社会組織(NPO/NGO、農協漁協、学校、病院等)の企画・開発・製造・マーケティング



地域活性化分野・環境ビジネス分野カリキュラムツリー(2021年度入学生に適用)

【人材像】生物学や化学等の基礎科学に関する知識を理解した上で、環境汚染や廃棄物管理等の環境産業に関わる知識につい て深く学び、上下水道サービス、廃棄物処分業、環境分析企業の渉外・技術営業担当・各種メーカーの環境部門担当者・地域政策

実線・・・・必修科目、点線・・・選択科目 ト・・・・応用生命科学に関連が深い科目



廃棄物管理工学 化学入門 環境科学概論 リサイクル舗 環境技術論 環境 環境汚染論 実線・・・必修科目、点線・・・選択科目 食品 環境科学入門実験 食品管理論 食品開発論Ⅱ 生物学入門 食品 植物資源論 食品化学 食品安全学 食品微生物学 フギュレトリーサイエンス 発酵醸造学 食品製造論 栄養科学 食文化論॥ 知的財産論 食品開発論 食文化論」 食品 農 卒業研究 農業ビジネス論। 地域産業ビジネス論 生命産業創造学科カリキュラムツリー(2019年度及び2020年度の入学生に適用) コンサバーイング端 食品産業の危機管理 農業ビジネス論Ⅱ サービス産業論 食品流通学 食品経済学」 食品経済学Ⅱ 農業経済学 \leftrightarrow \leftrightarrow 食品商品学 基礎経済学 産業会計学 ブランド構築論 マーケーインが端 商品ドガイン舗 社会調査論 地域活性化フィールドワークエ 経済 経営 無 || 経営組織論 経営管理論 地域コミュニ ケーション演習 地域活性化 フィールド ワーク I 卒業研究 プログラミング基礎 ITアドバンスト ILJナルツー 引用 ITリテラン-基礎 研究入門 基礎学力 論理的思考論 (ライティング スキル含有) 李智士 職業と キャリア 形成 II 職業と キャリア 形成 I 初年次セミナー キャリア教育 形成実 践演習 コミュニケー ション英語 II コミュニケー ション英語 I 韓国語II 韓国語 I 中国語 I TOEIC 英語入門 中国語口 TOEIC 英語基礎 初修外国語 外国語 准文語补辟物 英語项 英語>下 英語田 英語口 英語! 英語区 怱 怱 瘟 怎 怱 怎 3年 2年 1年